

和歌山県立近代美術館年報

二〇二四（令和6）年度

和歌山県立近代美術館年報 2024（令和6）年度



目 次

刊行にあたって	5
和歌山県立近代美術館の使命	6
沿革	7
展覧会事業	12
作品・資料の収集	40
作品・資料の保存・管理・貸出	61
普及事業	64
調査・研究発表活動および対外協力活動	68
交流事業	71
その他	72
管理運営	73
関連法規・規則・規定等	76
建築概要	83
案内	86

刊行にあたって

2024（令和6）年度の年報を刊行いたします。当館は1970年、近代美術を対象とする国公立美術館として国内で5番目にオープンしました。また、当館が現在の地に日本の20世紀建築を代表する一人、黒川紀章による美術館建築として竣工・オープンしてから30年以上の月日が経ちました。

県の新政策事業「紀南地方の美術館との合同展覧会」の3年目であり、「紀伊山地の霊場と参詣道」の世界遺産登録20年を記念する本年は、田辺市立美術館、熊野古道なかへち美術館と特別展「仙境 南画の聖地、ここにあり」を同時開催しました。地元ゆかりの南画家の顕彰を着実に進めることで、日本美術史研究に新たな視点を提供する画期をなす展覧会であったと位置付けられます。また、3会場それぞれ異なるテーマで展示を展開したことにより、南画の多面的な魅力を紹介するという新たな合同展覧会の形を実現する機会ともなりました。

このほか、3つの企画展と3つのコレクション展も開催しました。企画展「土が開いた現代、革新するやきもの」では、当館コレクションを基盤に20世紀後半の京都を中心に展開された陶による多彩な表現を紹介しました。毎年夏の恒例事業となった企画展「なつやすみの美術館」では、学校教育との連携を強固にするとともに、和歌山県とゆかりのある作家・河野愛の作品を当館コレクションとあわせて展示し、現代美術展としても高い評価を得ることができました。企画展「月映 つきてるつちにつどいたるもの」では、田中恭吉・藤森静雄・恩地孝四郎によって木版画と詩の作品集『月映（つくはえ）』が1914年9月に刊行されてから110年となるのを記念し、『月映』に関わる作品を一堂に展示しました。同展は、一組だけが現存する稀少な私輯『月映』を中心に、その成立過程を辿るもので、当館が長年かけて収集してきた作品を新

発見の作品とともに発表する貴重な機会となりました。

作品収集においては、木下孝則が一九三〇年協会展に出品した油彩画、恩地孝四郎や戸張孤雁の版画の重要作品、現代陶芸家・南野馨の作品や川口軌外の初期作品を購入しました。また、本県ともゆかりの深い野長瀬晩花や日高昌克の日本画、ヘンリー杉本や野田裕示の油彩画のほか、新宮市出身の作家・佐藤春夫旧蔵の作品・資料も受贈することができ、新たに192点が当館コレクションに加わりました。

また、これまでの協力関係をさらに深めることを目的として当館は本年、全米日系人博物館と姉妹ミュージアム提携を締結しました。加えて、文化庁補助事業「移民史継承のモデル構築を目指した広域MLA連携事業」の中核館として多様な事業を手がけるなど調査研究活動も継続しています。県の新政策事業「和歌山博物館施設デジタル化計画」は3か年計画の3年目を迎えましたが、今後の継続とさらなる活用が求められています。施設面では、建設から30年近くを経過した老朽化への対応として、展示室の空調機修繕工事を実施しました。また、黒川紀章の建築思想についての国際的関心の高まりのなか、国内に残されている「中銀カプセルタワービル」のカプセル1基の紹介および関連事業を開催するなどの取り組みを実施しました。

当館の活動は、ご来館くださる方々をはじめ、多くの皆様のご支援とご協力によって成り立っています。ここに心から感謝申し上げますとともに、その成果をご報告し、さらに充実した美術館活動を進める基礎とするため、本年報を刊行いたします。

2026（令和8）年3月

和歌山県立近代美術館

和歌山県立近代美術館の使命

芸術は、私たちに楽しさや深い感動、精神的な安らぎをもたらします。芸術作品に触れることで、人は豊かな人間性を涵養し、未来への創造力を自らのうちに育むことができます。

和歌山県立近代美術館は、展覧会等を通じて人々に国内外の優れた美術文化に接する機会を提供し、地域や学校と連携しながら各種事業を通じて学校教育や生涯学習を支援することをめざします。そうした活動を通じて文化による地域作りを活性化し、文化資源の保全と活用を図り、文化芸術を担う人作りの推進に努めます。

このような目的を実現するため、以下の基本方針をもって臨みます。

1 魅力ある展覧会を開催します。

県民に優れた美術作品を鑑賞する機会を提供するため、魅力的な特別企画展・企画展を開催するとともに、充実した館蔵品コレクションを活用して常設展を開催します。展覧会は次の4つの方針によって開催します。

- ①国内の近現代美術を紹介
- ②海外の多様な美術を紹介
- ③和歌山ゆかりの優れた作家を紹介
- ④現在活躍している若手作家を紹介

2 調査・研究の充実を図り成果の公表と反映に努めます。

美術史等の研究に寄与するため、充実した調査・研究を行い、その成果を展覧会や教育普及活動等に反映させ、印刷物、インターネット等を通して公開します。

3 作品・資料の収集を行います。

美術作品収集方針に沿って作品・資料の収集を行い、県民の文化遺産のさらなる形成に努めます。

4 所蔵作品・資料の状態調査、保存修復、保存環境の整備を行います。

収集した作品・資料を文化財として活用し、文化遺産として未来に伝えるため、状態調査及び保存修復、保存環境の整備に努めます。

5 地域と連携し学校教育や生涯学習を支援します。

地域の学校と連携して、子どもたちが団体鑑賞、体験的プログラムに参加できる環境を整備することによって、

また鑑賞教材の作成等を通じて、幅広い学習支援を行います。多様化する県民の関心に応えるため、ワークショップや解説会への参加等を通して生涯学習の支援を行います。またボランティアや友の会との協働を図り、他の県立博物館施設をはじめとする生涯学習施設・関係機関・団体等と連携します。

6 国内外の美術館や関連組織等と連携し、多様な活動を展開します。

これまで深めてきたわが国の美術館や関連組織等との信頼関係を基に、さらなる学術交流を行い、より質の高い、幅広い事業を展開するように努めます。国内外の美術館に所蔵作品・資料を貸し出すことにより、当館の優れたコレクションの魅力を発信します。本県の美術文化の発展並びに博物館活動を通じて広く知的資源の蓄積に寄与できるよう努めます。

7 利用者が安全で快適に利用できるよう美術館運営を行います。

すべての利用者が安全で快適に利用できるよう、施設・設備の維持管理を行うとともに、危機管理、安全、アメニティーに対する職員の意識向上に努めます。また施設的美観の保持と衛生管理に努めます。

■和歌山県立美術館

1963（昭和38）年

- 3月17日 旧和歌山城二の丸跡に開館
- 7月 川口軌外展
- 10月 第1回明治・大正・昭和名作美術展
- 11月 第17回和歌山県美術展(1969年第23回展まで開催)

1964（昭和39）年

- 4月 紀州陶磁器展
- 10月 第2回明治・大正・昭和名作美術展

1965（昭和40）年

- 3月 祇園南海展
- 5月 長沢蘆雪名作展
- 7月 日高昌克展
- 10月 近代洋画名作展特設・原勝四郎遺作展

1966（昭和41）年

- 3月 ダリ・シャガール・ピュッフェ版画展
- 6月 石垣栄太郎遺作展
- 6月 日本伝統工芸秀作展
- 7月 川端龍子展
- 10月 松方コレクション展

1967（昭和42）年

- 4月 国際青年美術家展・日本／アメリカ展
- 8月 和歌山アンデパンダン展
- 10月 富岡鉄斎展

1968（昭和43）年

- 3月 桑山玉洲展
- 4月 浮世絵総合展(吉川観方コレクション)
- 7月 1968和歌山アンデパンダン展
- 9月 扇絵展
- 10月 明治100年記念 郷土作家回顧展

1969（昭和44）年

- 4月 保田龍門展
- 10月 明治・大正・昭和・名作美術展

1970（昭和45）年

- 3月 京都の近代日本画展
- 4月 日本女装展(吉川観方コレクション)
- 11月2日 廃館

■和歌山県立近代美術館

1970（昭和45）年

- 11月2日 和歌山県民文化会館内に開館
- 第24回和歌山県美術展(1993年第47回展まで開催)

1971（昭和46）年

- 3月 大夢・晩花展
- 4月 竹久夢二展
- 8月 紀州の風景画展

1972（昭和47）年

- 1月 浜口陽三版画展
- 3月 原勝四郎展
- 4月 現代日本絵画秀作展
- 10月 アメリカにおける日本人作家回顧展
-石垣栄太郎・国吉康雄・ヘンリー杉本

1973（昭和48）年

- 3月 地中海の古代美術展
- 4月 日本伝統工芸秀作展
- 10月 川口軌外展

1974（昭和49）年

- 4月 吉田政次遺作展
- 10月 碓伊之助展

1975（昭和50）年

- 10月 木下孝則回顧展

1976（昭和51）年

- 2月 1910年代における京都日本画の新動向
- 10月 木下義謙作品展

1977（昭和52）年

- 2月 田中恭吉展
- 10月 川端龍子展 龍子 そのすべて

1978（昭和53）年

- 10月 日高昌克展

1979（昭和54）年

- 2月 神中糸子と工部美術学校展
- 5月 村井正誠展
- 10月 高井貞二展

1980（昭和55）年

- 3月 川口軌外とその周辺-和歌山の初期独立展系作家たち-
- 10月 開館10周年記念 1930年協会の作家たち展

1981（昭和56）年

- 3月 恩地孝四郎・田中恭吉・逸見享版画展
- 10月 下村観山-その人と芸術-

1982（昭和57）年

- 2月 建畠覚造展
- 7月 イタリア美術の一世紀展《1880-1990》
- 10月 稗田一穂展

1983（昭和58）年

- 7月 関西の美術家シリーズ1-津高一・泉茂・吉原英雄展
- 10月 日本の洋画秀作展

1984（昭和59）年

- 2月 和歌山の作家と県内洋画壇展
- 7月 関西の美術家シリーズ2 元永定正・白髪一雄展
- 10月 紀州の風景を描いた作家たち展

1985（昭和60）年

- 3月 第1回和歌山版画ビエンナーレ展
- 7月 関西の美術家シリーズ3 彫刻の4人-清水九兵衛・山口牧生・森口宏一・福岡道雄展
- 10月 開館15周年記念 近代洋画の展開-初期独立美術協会の作家たち展

1986（昭和61）年

- 7月 独創傑出の画家 朝井閑右衛門の世界
- 10月 瑛九とその周辺

1987（昭和62）年

- 3月 第2回和歌山版画ビエンナーレ展
- 7月 関西の美術家シリーズ4 日本画の4人-大野俣嵩・下村良之介・星野真吾・三上誠展
- 9月 太平洋を越えた日本の画家たち アメリカに学んだ18人

1988（昭和63）年

- 3月 描かれた動物たち
- 7月 関西の美術家シリーズ5 版画の4人-井田照一・木村光佑・黒崎彰・船井裕展
- 10月 竹久夢二とその周辺

1989（昭和64・平成元）年

- 3月 第3回和歌山版画ビエンナーレ展
- 7月 関西の美術家シリーズ6 現代の造形-土と布と糸 荒木高子・前川強・濱谷明夫展
- 10月 親と子で見る世界の名画展

1990（平成2）年

- 7月 関西の美術家シリーズ7 美術の現在-4つの試み 宮崎豊治・北山善夫・木村秀樹・野田裕示展
- 10月 現代の陶芸1980-1990 関西の作家を中心として

1991（平成3）年

- 3月 第4回和歌山版画ビエンナーレ展
- 7月 関西の美術家シリーズ8 美術の現在-彫刻の変容 小清水漸・北辻良央・川島慶樹展
- 9月 ポスター芸術100年展 サントリー美術館所蔵グランヴィルコレクション

1992（平成4）年

- 10月 版画芸術の饗宴-ケネス・タイラーと巨匠たち:1963-1992

1993（平成5）年

- 3月 第5回和歌山版画ビエンナーレ展

■新館計画

1988（昭和63）年

- 2月 政策調整会議において、美術館及び博物館2館の建設を決定
- 3月 新美術館の建設計画に係る基本的事項についての指導、助言を得るため「新美術館建設懇談会」を設置
- 9月 新美術館に係る基本構想策定のため、「新美術館建設検討委員会」を設置

1989（昭和64・平成元）年

- 4月 「和歌山県美術品取得基金条例」を設置
新美術館建設検討委員会より「和歌山県立新美術館の建設基本構想について」答申
- 8月 美術館の美術作品収集基本方針及び開館展等の開催に関する事項を検討、協議するため、「新美術館専門会議」を設置
美術館において収集する美術作品の選定に関し、審議するため「和歌山県立近代美術館美術作品選定委員会」を設置
- 9月 新美術館専門会議において「新美術館の美術作品収集方針について」承認

1990（平成2）年

- 3月 新美術館の設計を「黒川紀章建築都市設計事務所」に委託

1991（平成3）年

- 7月 和歌山県美術品取得基金によりジョージ・シーガル《煉瓦の壁ぞいに歩く男》(1988)を購入
- 10月 施設着工式を挙行
- 11月 和歌山県美術品取得基金によりマーク・ロスコ《赤の上の黄褐色と黒》(1957)を購入

1992（平成4）年

- 8月 和歌山県美術品取得基金によりフランク・ステラ《ラッカIII》(1968)を購入

1993（平成5）年

- 9月 和歌山県美術品取得基金によりパブロ・ピカソ《ミノトローマシー》(1935)、《泣く女》(1937)を購入

1994（平成6）年

- 2月 定礎式を挙行
- 3月 工事完了
- 4月 新美術館へ移転

■和歌山県立近代美術館 新館

- 7月8日 新近代美術館開館
開館記念展1 美術館へ行こう
- 10月 開館記念展2 大正のまなざし
-若き保田龍門とその時代-
- 11月 小企画展 ルオーの「ミゼレーレ」

1995（平成7）年

- 1月 恩地孝四郎-色と形の詩人-
- 2月 小企画展 和歌山ゆかりの作家たち
- 4月 1994年度新収蔵作品展
- 4月 ヴィクトリア&アルバート美術館展-イギリス絵画の350年

- 7月 村井正誠展 色と形と心-人間の詩
- 8月 小企画展 美術館に行ったよ!-風景ってなあに-
- 8月 小企画展 日本の近代版画
- 9月 保田春彦展
- 10月 野田裕示近作展

1996（平成8）年

- 1月 線画の世界-かたりの表現-
- 2月 ひかる・うごく・おとがする 20世紀の静かならざる作品たち
- 4月 美術館へ行ったら!?「絵画」というしくみ
- 6月 紀伊半島を歩いて -ロジャー・アックリング&ハミッシュ・フルトン
- 8月 モスクワ、プーシキン美術館名作展-室内への視線-
- 9月 ホックニーのグリム童話
- 11月 日本のグラフィックデザイン

1997（平成9）年

- 1月 和歌山の版画家10人
- 3月 新しい関西の美術家たち ものとあらわれ
- 4月 美術館へ行ったらよ! コレクションに見る東京
- 5月 美術館へ行ったらよ! コレクションに見るパリ
- 7月 アルザスとフランス近代美術の歩み-ストラズブル近代美術館展
- 8月 版画の技法・表現の手法
- 10月 マリノ・マリーニ展
- 11月 アメリカの中の日本 石垣栄太郎と戦前の渡米画家たち

1998（平成10）年

- 1月 心のかたち
- 2月 泉茂 初期版画作品を中心に
- 4月 世紀末芸術の華 オーブリー・ピアズリー展
- 5月 日本の近代版画 コレクション・ダイジェスト1
- 6月 日本の近代版画 コレクション・ダイジェスト2
- 8月 静けさの中から 星の贈りもの
- 9月 和歌山の日本画 コレクション・ダイジェスト3
- 10月 意味とイメージ-あらわれる浪漫主義の明治
- 12月 フランス現代美術展 眼と精神

1999（平成11）年

- 2月 関西の戦後美術 1950's-1990's
- 4月 めいさく根掘葉掘 アートと知り合い!
- 6月 デモクラート1951-1957 開放された戦後美術
- 7月 日本の近代版画 コレクション・ダイジェスト4
- 8月 熊野の音+熊野の色 増田感・北堅吉彦展
- 9月 サンフランシスコ近代美術館展-カリフォルニア・アートシーン 1920's-1930's
- 11月 川口軌外展 ある洋画家の軌跡
- 12月 越境する想像力 素材との出会い

2000（平成12）年

- 2月 コレクションにみる 芸術と社会
- 4月 田中恭吉展
- 5月 定規とコンパス?幾何学図形と美術の表現
- 7月 印象派の巨匠 シスレー展-イル・ド・フランスの光を愛して
- 9月 東欧絵本の世界展 国境を越える 子どものためのアート
- 11月 現代版画の軌跡 ゆめとめざめ
- 12月 日本の近代版画4 コレクション・ダイジェスト

2001（平成13）年

- 2月 版画今昔
- 4月 夢の世界のおくりもの アンデルセン童話・絵本原画展
- 5月 うごけば、かわる。
- 8月 宇佐美圭司・絵画宇宙
- 9月 浜口陽三へのオマージュ
- 10月 マックス・エルンスト展
- 12月 一期一会 であう めでる つたえる-コレクションによる全館展示

2002 (平成14) 年

- 4月 あたらしい画面をもとめて 関西の半世紀
- 5月 「生活」を「芸術」として 西村伊作の世界
- 7月 アンジェ美術館展
- 9月 山本容子の美術遊園地
- 11月 美術百科「この人のこの一点」の巻-コレクションによる全館展示

2003 (平成15) 年

- 4月 はじめての美術 絵本原画の世界展
- 6月 チャベック兄弟とチェコ・アヴァンギャルド
- 7月 近代日本洋画の巨匠 黒田清輝展
- 9月 たがやすように 熟す画面の4つのかたち
- 11月 和歌山県特別事業 創設40周年記念 文化表彰の歩み展
- 12月 美術百科「七つの鍵」の巻-コレクションによる全館展示

2004 (平成16) 年

- 4月 和歌山県特別事業「日本に向けられたヨーロッパ人の眼・ジャパントゥディ vol. 6」
- 4月 和歌山県特別事業 at W vol. 1「永坂嘉光・鈴木理策 高野__熊野__聖地」
- 6月 小野竹喬展
- 7月 ピノッキオ その誕生から現代まで展
- 11月 チャールズ&レイ・イームズ 創造の遺産展

2005 (平成17) 年

- 1月 開館10周年記念 美術百科「版画」の巻-コレクションによる全館展示
- 4月 没後10年 遺業・泉茂
- 6月 世界の版画名品選
- 7月 夏休み わかやま美術探偵団 関連企画 鈴木昭男「点音 in 和歌山」
- 9月 版画家たちの表情
- 11月 佐伯祐三-芸術家への道-

2006 (平成18) 年

- 1月 美術百科「世界一周」の巻-コレクションによる全館展示
- 4月 ベトナム近代絵画展 花と銃-インドシナ・モダンの半世紀
- 4月 小特集 追悼・建島覚造+新収蔵作品
- 6月 現代「日本画」の展望-内と外のあいだで-
- 8月 和歌山県特別事業 和歌山県美術展覧会第60回記念 和歌山の美術を担う作家たち展
- 7月 小特集 野田裕示+鈴木理策
- 9月 森鷗外と美術
- 11月 小特集 没後20年 高井貞二-ニューヨークのタカイ
- 11月 科学の感情-あたらしい時代の感覚と表現-

2007 (平成19) 年

- 1月 美術百科「前衛の関西」の巻-コレクションによる全館展示
- 4月 教育普及課を設置
- 4月 竹久夢二展-描くことが生きること-
- 4月 特集展示 大正デカダンス 「夢二学校」+「テルヲ・パンカ」
- 6月 ふだん美術 -日常に向けた目と心-
- 6月 特集展示 うるわしき技の世界 近現代美術の達人たち
- 7月 relations 関係 -藤本由紀夫/FUJIMOTO and
- 7月 relations 関係 -藤本由紀夫/happy conceptual-杉山知子+藤本由紀夫
- 10月 森のなかで
- 12月 美術百科「色・いろいろ」の巻-コレクションによる全館展示

2008 (平成20) 年

- 4月 抒情の様式
- 6月 共作×共鳴×共感-ともに作られた作品たち
- 7月 ルオーの〈ミセレーレ〉 人間へのまなざし
- 9月 点と面の詩情-上前智祐・山中嘉一・坪田政彦

- 11月 彼岸の美術
- 12月 美術百科「この人はだれ」の巻-コレクションによる全館展示

2009 (平成21) 年

- 4月 原勝四郎展
- 4月 アメリカをめぐる
- 6月 油絵の理由-「あぶらえ」は好きですか?
- 7月 生誕100年記念 浜口陽三展
- 7月 サマー・ミュージアム-わかやま発見-
- 9月 自宅から美術館へ 田中恒子コレクション展
- 9月 コレクション名品展
- 11月 世界遺産登録5周年記念 描かれた紀伊山地の霊場と参詣道
- 11月 和歌山県特別事業 第63回和歌山県美術展覧会(以降継続)
- 12月 美術百科「ここはどこ」の巻-コレクションによる全館展示

2010 (平成22) 年

- 4月 開館40周年記念展I ようこそ彫刻の森へ
- 4月 特集展示 宇佐美圭司-絵画の歩み-
- 7月 特集展示 大亦新治郎のスケッチから-明治・大正の和歌山のまち
- 9月 開館40周年記念展II 日本近代の青春創作版画の名品
- 10月 特集展示 保田春彦 近作デッサンを中心に
- 11月 和歌山県特別事業 平山郁夫追悼展示、小沢道治展

2011 (平成23) 年

- 1月 開館40周年記念展III 油絵の魅力 イズムを超えて
- 3月 版画の「アナ」 ガリ版がつなぐ孔版画の歴史
- 3月 特集展示 吉田政次の世界
- 4月 ポップ?ポップ!ポップ♡ コレクションに見るポップなアートの50年
- 6月 特集展示 生誕120年記念 恩地孝四郎・藤森静雄
- 7月 なつやすみの美術館「みること」「うつすこと」
- 9月 生誕100年 高井貞二展-「昭和」を描いた人-
- 9月 特集展示 生誕120年 保田龍門
- 11月 吉原英雄展 画家のドラマ
- 12月 特集展示 生誕130年 日高昌克
- 12月 特集展示 吉原英雄を囲む作家たち

2012 (平成24) 年

- 2月 ホックニーのグリム童話
- 3月 特集展示 井田照一
- 4月 人間と自然の美術
- 6月 なつやすみの美術館2:かたちと色のABC
- 6月 特集展示 なつやすみ特集 野田哲也
- 9月 生誕120年記念 田中恭吉展
- 9月 特集展示 幻想の美術
- 11月 生誕120年記念 川口軌外の歩み展
- 12月 特集展示 没後70年 建島大夢

2013 (平成25) 年

- 2月 謄写版の冒険 卓上印刷器からはじまったアート
- 3月 特集展示 版画・図案・オブジェ
- 4月 日本の絵画の五十年
- 6月 特集展示 瑛九:紙の上の仕事
- 7月 なつやすみの美術館3 『美術の時間』
- 9月 生誕120年記念 石垣栄太郎展
- 9月 特集展示 没後100年 香山小鳥 ゆめの日のかけ
- 12月 特集展示 人間と宇宙のドラマ:吹田文明・堀井英男・長岡國人
- 12月 物質(モノ)と美術

2014 (平成26) 年

- 2月 版画について考える-101年目の宿題-
- 3月 特集展示 モノクロームの世界
- 4月 美術館の運営状況等を評価することを目的として「和歌山県立近代美術館評価部会」を設置

- 4月 建島覚造と戦後の彫刻 かたちをさぐる
- 6月 特集展示 生誕120年 大亦観風
- 7月 なつやすみの美術館 4 生きています!
- 9月 特集展示 没後50年 野長瀬晩花
- 11月 観光する美術 和歌山から始まる旅
- 12月 特集展示 コレクション/ドネーション

2015 (平成27) 年

- 1月 『月映』展 田中恭吉・藤森静雄・恩地孝四郎 一木版にいのちを刻んだ青春
- 3月 和歌山と関西の美術家たち リアルのリアルのリアルの
- 3月 特集展示 『版画』の明治-印刷と美術のはざままで
- 3月 「和歌山県立近代美術館の使命」を公開
- 5月 保田龍門・保田春彦展
- 6月 特集展示 くりかえしの美
- 7月 なつやすみの美術館 5 つぶやき おはなしものがたり
- 9月 ここだけの日本画
- 9月 特集展示 アメリカ移民の歴史と芸術家たち
- 9月 特集展示 生誕120年 逸見享
- 12月 生誕110年 村井正誠展 ひとの居る場所
- 12月 特集展示 光について

2016 (平成28) 年

- 3月 宇佐美圭司回顧展 絵画のロゴス
- 3月 特集展示 謄写印刷工房から印刷と美術のはざままで
- 4月 恩地孝四郎展 抒情とモダン 関連企画 本の美術:リユールへの誘い
- 6月 特集展示 ドローイング-水彩・パステル・紙の世界
- 7月 なつやすみの美術館 6 きろくときおく
- 9月 特集展示 薔薇色の鏡 銅版画の技と表現
- 10月 和歌山県特別事業 第1回和歌山県ジュニア美術展覧会(以降継続)
- 11月 動き出す!絵画 ペール北山の夢-モネ、ゴッホ、ピカソらと大正の若き洋画家たち
- 11月 大正の異色画家たち(特別展「動き出す!絵画」第二部)

2017 (平成29) 年

- 1月 泉茂 ハンサムな絵のつくりかた
- 1月 特集展示 群像-交錯する声
- 4月 現代版画の展開
- 5月 特集 おはなしのなかへ
- 6月 鈴木久雄 彫刻の速度 和歌山展
- 7月 なつやすみの美術館 7 すききらい、すき? きらい?
- 9月 特集 NANGA 俗を去り自ら楽しむ
- 10月 アメリカへ渡った二人 国吉康雄と石垣栄太郎

2018 (平成30) 年

- 1月 特集 はじまりの景色
- 1月 特集 滋賀県立近代美術館所蔵 院展の画家たち I 古きに学(まね)ぶ 下村観山を中心に
- 2月 明治150年記念 水彩画家・大下藤次郎展
- 4月 産業と美術のあいだで 印刷術が拓いた楽園
- 4月 特集 庭園の眺め 高橋力雄の木版画
- 4月 特集 滋賀県立近代美術館所蔵 院展の画家たち II
- 7月 なつやすみの美術館 8 タイムトラベル
- 8月 特集 鈴木昭男 音と場の探究
- 8月 特集 滋賀県立近代美術館所蔵 院展の画家たち III
- 9月 和歌山-日本 和歌山を見つめ、日本の美術、そして近代美術館を見つめる
- 10月 特集 国展の版画
- 11月 創立100周年記念 国画創作協会の全貌展

2019 (平成31・令和元) 年

- 1月 コレクション名品選
- 1月 空調設備工事のため休館
- 4月 LOVE (your) LIFE! まいにちがアート
- 4月 コレクション展 2019-春 +新収蔵作品
- 6月 ニューヨーク・アートシーン ロスコ、ウォールホルから草間

彌生、バスキアまで-滋賀県立近代美術館コレクションを中心に

- 7月 なつやすみの美術館 9 水と美術 feat. 坂井淑恵
- 9月 時代の転換と美術 「大正」とその前後
- 9月 特集 滋賀県立近代美術館所蔵品より みやこの洗練 明治の京都画壇
- 9月 特集 生誕130年記念 せんぱん-前川千帆の版画-
- 10月 芸術に親しもう! おでかけ美術館 第1回 紀南地方坂井淑恵展「水の中」
- 11月 日・チェコ交流100周年 ミュシャと日本、日本とオドリク
- 11月 特集 ニホンラシサを探せ
- 11月 外交史料展 外交史料と近代日本のあゆみ

2020 (令和2) 年

- 1月 コレクション名品選
- 1月 2階展示室照明機器改修工事のため休館
- 5月 もようづくし
- 5月 特集 浜地清松
- 6月 特集 浜口陽三
- 7月 なつやすみの美術館 10 あまたの先日ひしめいて今日
- 9月 芸術に親しもう! おでかけ美術館 第2回 紀中地方田中秀介展「かなたの先日ふみこんで今日」
- 9月 もうひとつの日本美術史-近現代版画の名作展 2020
- 9月 和歌山県立近代美術館 コレクションの50年
- 12月 美術館を展示する 和歌山県立近代美術館のサステイナビリティ

2021 (令和3) 年

- 1月 コレクション名品選
- 1月 1階展示室照明改修工事のため休館
- 4月 疎密考
- 4月 特集 うちのなかから
- 6月 もうひとつの世界
- 7月 なつやすみの美術館11 野田裕示「集まる庭」
- 8月 コミュニケーションの部屋
- 10月 芸術に親しもう! おでかけ美術館 第3回 紀北地方野田裕示展
- 10月 和歌山の近現代美術の精華 第1部 観山、龍子から黒川紀章まで/第2部 島村逢紅と日本の近代写真

2022 (令和4) 年

- 1月 コレクション名品選
- 2月 20世紀からおみやげ。近現代美術のたのしみ
- 2月 特集 若き日の野長瀬晩花
- 4月 モダン・プリント コレクションにみる世界の版画
- 4月 特集 生誕130年 田中恭吉
- 7月 なつやすみの美術館12 妻木良三「はじまりの風景」
- 7月 特集 1960s-1980s 関西の現代美術「再見」
- 9月 稗田一穂展
- 10月 特集 田中恒子コレクション
- 10月 ミティラー美術館コレクション展
- 11月 ニッポンの油絵

2023 (令和5) 年

- 1月 コレクション名品選
- 2月 とびたつとき 池田満寿夫とデモクラートの作家
- 2月 特集 新収蔵 奈良原一高の写真
- 4月 石ノウエニ描く 石版画と作り手たちの物語
- 5月 特集 美術と音楽の出会い
- 7月 なつやすみの美術館13 feat. 橋本知成
- 8月 特集 広島市現代美術館所蔵品による池田満寿夫の1960-1980年代/特集 本のために-大家利夫の仕事
- 9月 トランスボーダー 和歌山とアメリカをめぐる移民と美術
- 10月 原勝四郎展 南海の光を描く
- 10月 原勝四郎と同時代の画家たち

2024 (令和6) 年

- 1月 エレベーター改修工事のため休館

- 4月 土が開いた現代 革新するやきもの
特集:小さくていいもの、あり□
- 7月 なつやすみの美術館14 河野愛「ことももの、と」
特集:旅する美術
- 10月 仙境 南画の聖地、ここにあり
月映 つきてるつちにつどいたるもの
コレクション名品選
- 12月 展示室の空調修繕工事等のため休館

2024（令和6）年度展覧会一覧

1. 特別展

- 1. 世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』登録20周年記念特別展
仙境 南画の聖地、ここにあり …………… 13
10月5日（土）～11月24日（日）
- 2. 月映 つきてるつちに つどいたるもの …………… 17
10月5日（土）～11月24日（日）

2. 企画展

- 1. 土が開いた現代 革新するやきもの …………… 25
4月27日（土）～6月30日（日）
- 2. なつやすみの美術館14 河野愛「こともの、と」 …………… 28
7月13日（土）～9月23日（月・休）

3. 常設展

- 1. コレクション展2024-春 特集：小さくていいもの、あり☑ …………… 31
4月27日（土）～6月23日（日）
- 2. コレクション展2024-夏 特集：旅する美術 …………… 34
7月2日（火）～9月23日（月・休）
- 3. コレクション名品選 …………… 37
10月5日（土）～12月22日（日）

4. その他

- 1. 第78回和歌山県美術展覧会（県展）／
第10回和歌山県ジュニア美術展覧会（ジュニア県展） …………… 39
- 2. エレベーターリニューアル記念
コスプレ声ちゃんのカプセルタワービルデイズ展 …………… 39

1-1. 特別展 世界遺産『紀伊山地の霊場と参詣道』登録20周年記念特別展 仙境 南画の聖地、ここにあり

会期 : 2024(令和6)年10月5日(土)–11月24日(日) 51日間・うち休館7日

会場 : 展示室A(1階)

主催 : 和歌山県立近代美術館、田辺市立美術館

助成 : 一般財団法人 地域創造

入場者数 : 7,608名

内容 : 新政策「紀南地方の美術館との合同展覧会」による田辺市立美術館との共同企画展。

山と水に恵まれた和歌山は、しばしば中国古典に登場する「仙境」と重ねられ、江戸時代から文人たちの詩や絵画の主題となってきた。近代においても、多くの南画家が和歌山を巡って作品を描いている。「紀伊山地の霊場と参詣道」が世界遺産登録20周年となるのに合わせ、近代の南画と和歌山の関連をテーマとして「第1部 近代の南画、関西にあり」を当館、「第2部 近代の南画家、和歌山にあり」を田辺市立美術館、「第3部 南画の風景、和歌山にあり」を熊野古道なかへち美術館で同時開催した。

展示点数 : 39作家64点(1点は前期のみ展示)、資料54点。3館全体では52作家108点、資料54点。

担当学芸員 : 藤本真名美、奥村一郎

関連事業 : ・近代南画をめぐるトークイベント 11月4日(月・休) 橋爪節也(大阪大学名誉教授)、池田方彩(公益財団法人天門美術館館長) 参加55人

・ワークショップ「粘土で山水画をつくろう わかやま編」 10月19日(土) 実施・運営 NPO和歌山芸術文化支援協会、講師 松平莉奈(画家) 参加17人

・フロアレクチャー 10月13日(日) 参加29人、11月10日(日) 参加22人、11月24日(日) 参加25人
*11月10日はゲストとして和歌山県立自然博物館学芸員・小泉奈緒子が参加

・スライドレクチャー 10月26日(土) 参加15人

・こども美術館部 10月26日(土) 参加4人、10月27日(日) 参加12人 *詳細は64-65頁

制作物 : ・ポスター(B2判、オフセット印刷)

・チラシ(A3判3折、オフセット印刷)

・出品目録(A4判6頁)

・プレスリリース(A4判6頁)

・図録『仙境 南画の聖地、ここにあり』和歌山県立近代美術館・田辺市立美術館 2024年10月発行(縦25.5×横22.5cm、200頁、オフセット印刷)

山野英嗣 「南画」再考

橋爪節也 気韻生動と造形主義のはざままで—“近代南画”を読み解くことについて

近藤壮 江戸期の南画—和歌山を中心に—

糸川風太 地域における南画家たちの諸相—和歌山・熊野を対象として—

藤本真名美 近代の南画、何処にあり? 近代日本美術史の間隙をさぐる

藤本真名美・奥村一郎・糸川風太 作家・作品解説

奥村一郎・藤本真名美 編 展覧会関連年譜

藤本真名美 編 主要文献抄録

藤本真名美 編 主要文献目録

糸川風太 編 賛文の解説

入場料金 : 「仙境」のみ 一般800(640)円、大学生500(400)円/「月映」と共通 一般1,000(800)円、大学生600(500)円()内は20名以上の団体料金

成果・課題 : 江戸時代そして明治以降の近代において、関西を中心に南画がどのように発展したかを、多くの南画家を魅了し、文化的にも重要な場所である和歌山に注目しながら、多数の資料とともに紹介した。日本南画協会や日本南画院など、近代南画の主要な美術団体の動きにも焦点を当て、日本美術史研究に新たな視点を提供できた。当館では関西の近代南画の歴史的展開、田辺市立美術館では和歌山ゆかりの南画家、熊野古道なかへち美術館では和歌山の風景を描いた南画作品と、3会場ごとに異なるテーマで多面的に南画の魅力を発信した。瀬峡を主題とする作品など一部重要作の出品が叶わなかったことや、先行研究の少ない作家について今後の調査が課題として挙げられる。また、県観光連盟との連携により、観光情報誌『紀州浪漫』2024秋号 Vol.90「聖地リゾート!」にて、3館および同展覧会が紹介されるなどの展開ができた。観光事業との連携強化は今後の課題である。

関連記事 : ・「南画の聖地、ここにあり 世界遺産登録20周年特別展 県内3美術館で同時開催」『わかやま新報』2024年9月18日、3面

・松本博子「『仙境』さまざまに描く」『毎日新聞』2024年10月10日、22面

・正木利和「プレミアム+1 江戸期 近代南画の隆盛と衰退」『産経新聞(夕刊)』2024年10月25日、4面

・「美術 この1年 問い直し永続的に 2024年の展覧会3選 佐藤康宏」『毎日新聞(夕刊)』2024年12月23日、3面

その他 : ・世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展「仙境 南画の聖地、ここにあり」和歌山放送「教育広報ラジオ放送 定期便教育の窓」2024年10月22日放送

・#163「俗世を離れて理想郷を描く、南画の魅力」特集(ゲスト)藤本真名美さん」Podcast「本町文化堂からこんにちは」、2024年10月12日公開

出品目録

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵／備考
第1部 近代の南画、関西にあり						
序章 江戸期を中心に一和歌山の風土と紀州三大文人画家						
1-1	祇園 南海	墨梅図	1741(寛保元)	紙本墨画	117.3×50.2	個人蔵
1-2	祇園 南海	五老峰図	制作年不詳	紙本墨画	32.0×57.3	田辺市立美術館
1-3	桑山 玉洲	雪山唵答図	1798(寛政10)	絹本着色	96.5×35.0	公益財団法人 脇村奨学会 (田辺市立美術館寄託)
1-4	桑山 玉洲	玉津島興居図	制作年不詳	絹本着色	31.2×47.1	田辺市立美術館 (脇村義太郎コレクション)
1-5	桑山 玉洲	那智瀑布図	制作年不詳	絹本墨画淡彩	109.5×34.0	田辺市立美術館 (脇村義太郎コレクション)
1-6	野呂 介石	南山黄柑図・那智懸泉図	制作年不詳	絹本着色	各138.8×55.3	個人蔵
1-7	野呂 介石	那智群山図	1819(文政2)	絹本墨画淡彩	135.4×70.3	個人蔵
1-8	野呂 介石	那智三瀑図	制作年不詳	絹本着色	125.0×48.6	和歌山県立博物館 *前期展示(10月5日～11月4日)
第1章 明治期を中心に一日本美術の近代化と南画の盛衰						
■京都の南画家たち						
1-9	田能村 直入	一望萬松図	1890(明治23)	純本墨画	164.5×67.5	京都国立近代美術館
1-10	谷口 謙山	雪中独騎図	1886(明治19)	紙本墨画淡彩	135.5×66.5	富山市郷土博物館
1-11	池田 雲樵	蔬菜画卷	1865(慶応元)	紙本墨画淡彩	32.0×466.7	伊山文庫
1-12	池田 雲樵	喜浴恩波図	1884(明治17)	絹本着色	130.0×50.7	伊山文庫
1-13	池田 雲樵	松林読書	1884(明治17)	絹本着色	111.4×42.3	伊山文庫
1-14	富岡 鉄斎	天保九如章図	1896(明治29)	絹本着色	140.3×56.0	清荒神清澄寺 鉄斎美術館
1-15	富岡 鉄斎	寿山福海図	1899(明治32)	絹本着色	各126.5×50.0	清荒神清澄寺 鉄斎美術館
1-16	内海 吉堂	棧道高秋図	1897(明治30)	絹本着色	168.8×87.3	福井県立美術館
■大阪の南画家たち						
1-17	姫島 竹外	竹溪晚霽図	1897(明治30)	絹本墨画淡彩	171.5×85.6	泉屋博古館東京
1-18	森 琴石	蓬萊瑞霧之図	1898(明治31)	絹本着色	172.0×85.0	公益財団法人 徳川記念財団
■兵庫の南画家						
1-19	齋藤 崎庵	萬壑松濤	1883(明治16)	紙本墨画淡彩	153.5×70.3	兵庫県立歴史博物館
第2章 大正期を中心に一南画の革新と多様化						
■京都市立絵画専門学校周辺の画家たち						
1-20	富田 溪仙	宇治川之巻 伏見	1915(大正4)	絹本着色	50.4×524.6	京都市美術館
1-21	橋本 閑雪	松雲塔影図・江亭賞梅図	大正末-昭和初期	絹本着色	各147.9×36.0	個人蔵
1-22	土田 麦徳	梅ヶ畑村	1915(大正4)	絹本着色	145.0×50.9	和歌山県立近代美術館
1-23	平井 樸仙	山家の春	1913(大正2)	紙本着色	136.3×33.3	星野画廊
1-24	小野 竹喬	初夏之海	1915(大正4)	絹本着色	125.6×41.6	笠岡市立竹喬美術館
1-25	森谷 南人子	南郷	1913(大正2)頃	紙本着色	121.0×88.0	笠岡市立竹喬美術館
1-26	玉村 方久斗	高野山玉川	1927-28(昭和2-3)	紙本墨画淡彩	22.8×62.3	公益財団法人 脇村奨学会 (田辺市立美術館寄託)
■日本自由画壇および日本南画院の画家たち						
1-27	池田 桂仙	梅林山水図・夜行馬上図	1913(大正2)	紙本墨画淡彩	各155.6×360.8	伊山文庫
1-28	池田 桂仙	花卉蔬菜長巻	1916(大正5)	絹本着色	18.3×895.5	伊山文庫
1-29	田近 竹邨	仙峯寿鶴図	1916(大正5)	絹本墨画	143.8×53.0	白澤庵コレクション
1-30	山田 介堂	青緑山水江山春蘭図	1917(大正6)	絹本着色	186.2×73.3	福井県立美術館
1-31	服部 五老	高巖深崖図	1925(大正14)	絹本着色	144.3×43.3	白澤庵コレクション
1-32	三井 飯山	竹陰閑亭図	大正期	絹本着色	142.8×43.1	白澤庵コレクション
1-33	水田 竹圃	山水図	1920(大正9)	絹本墨画淡彩	左:169.5×372.0/ 右:171.2×372.0	丸市美術
1-34	水田 竹圃	幽谿弹琴図	1921(大正10)	紙本墨画淡彩	204.5×84.3	黄谷軒コレクション
1-35	安田 半圃	山村孤牛図	1925(大正14)	紙本墨画	151.8×121.6	Kura Monzen Collection
1-36	河野 秋邨	蘭亭静遊図	1916(大正5)	絹本着色	156.8×52.1	古美術 瀬戸
1-37	矢野 橋村	湖山幽岳	1915(大正4)	紙本墨画	238.6×149.4	大阪中之島美術館
1-38	矢野 鉄山	西湖雨中	1927(昭和2)	紙本墨画	150.5×177.4	Kura Monzen Collection
1-39	白倉 二峰	桃花源記図(王安石詩)	1926(大正15)	紙本着色	48.0×59.5	白澤庵コレクション
1-40	幸松 春浦	紅梅小禽図	1928(昭和3)	絹本着色	208.2×118.8	大阪中之島美術館
1-41	水田 硯山	朝霧散	1926(大正15)	紙本墨画	208.2×118.8	大阪中之島美術館
1-42	諸家	美意延年画冊	1927(昭和2)	紙本墨画淡彩	36.3×19.0 (各図 30.5×15.3)	白澤庵コレクション
第3章 昭和戦前期を中心に一混乱期における日本南画院の進出						
■日本南画院の画家たち						
1-43	水田 竹圃	樵唱	1933(昭和8)	紙本墨画淡彩	181.0×80.0	京都市美術館
1-44	人見 少華	長夏繁英	1930(昭和5)	紙本着色	178.6×95.3	個人蔵 (南丹市立文化博物館寄託)
1-45	水越 松南	乾坤瑞相図	1928(昭和3)	紙本着色	178.6×95.3	京都国立近代美術館
1-46	水越 松南	化粧	1931(昭和6)	紙本墨画淡彩	96.0×146.0	京都国立近代美術館
1-47	水越 松南	虎穴図	1936(昭和11)	紙本墨画淡彩	183.6×95.0	京都国立近代美術館
1-48	安田 半圃	淡月	1934(昭和9)	紙本墨画	150.0×104.9	Kura Monzen Collection
1-49	森谷 南人子	暮秋野色	1932(昭和7)	紙本着色	104.3×153.8	岡山県立美術館
1-50	森谷 南人子	浅春麗日	1935(昭和10)	紙本着色	82.4×165.8	岡山県立美術館
1-51	矢野 橋村	盪壑図	1930(昭和5)	絹本墨画淡彩	143.0×52.0	和歌山県立近代美術館
1-52	山口 八九子	冬山入斧	1929(昭和4)	紙本墨画淡彩	93.0×123.0	京都国立近代美術館
1-53	山口 八九子	山(夏意七趣の内)	1930(昭和5)	紙本墨画淡彩	59.0×69.5	京都国立近代美術館
1-54	山口 八九子	月夜	1931(昭和6)	紙本墨画淡彩	173.2×122.5	京都国立近代美術館
1-55	諸家	南画院同人画冊	1932(昭和7)	紙本墨画淡彩	34.3×20.7 (各図 30.2×16.5)	白澤庵コレクション

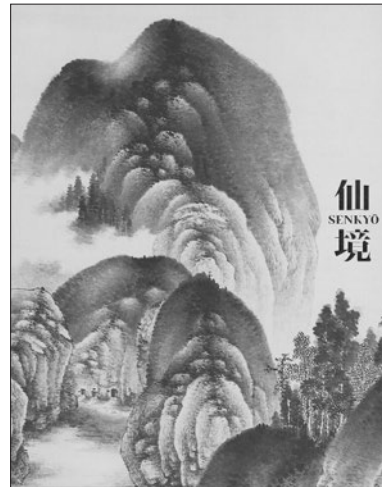
No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵／備考
■和歌山の南画家たち(日本南画院、大東南宗院)						
1-56	福田 静處	秋江独釣図	大正期	絹本着色	126.5×42.0	和歌山県立近代美術館
1-57	福田 静處	素練天半図	1927(昭和2)	紙本墨画	67.9×16.9	尋聲寺
1-58	稲田 米花	四十八滝図巻	1955(昭和30)	紙本墨画あるいは 紙本墨画淡彩	上巻:39.5×1014.5/ 下巻:39.5×1014.0 (各図 33.4×33.8)	那智山青岸渡寺
1-59	湯川 三舟	山村初冬図	昭和初期	紙本墨画	150.0×157.2	和歌山県立近代美術館
1-60	湯川 三舟	中辺路所見	1933(昭和8)	紙本墨画	各167.0×369.0	尋聲寺
1-61	大亦 観風	紀州路行脚日記画巻	1934(昭和9)	紙本墨画淡彩	紀南巻:24.2×1698.0/ 紀北巻:24.2×1795.0	和歌山県立近代美術館
1-62	大亦 観風	和歌浦二趣	1937(昭和12)	紙本墨画淡彩	各168.8×375.0	個人蔵
1-63	波瀬 凌雲	魚磯(湯浅所見)	1933(昭和8)	紙本墨画	152.5×181.0	田辺市立美術館
1-64	波瀬 凌雲	仙境熊野	1975(昭和50)	紙本着色	170.0×243.5	田辺市立美術館
資料編						
M-1		望野香溪 編『日本南画協会会報』第4集 (発行:日本南画協会事務所)	1899(明治32)年10月12日発行	印刷、冊子	18.8×12.3	個人蔵
M-2		望野香溪 編『日本南画協会会報』第5集 (発行:日本南画協会事務所)	1900(明治33)年4月5日発行	印刷、冊子	18.8×12.3	個人蔵
M-3		上田丹厓 編『日本南画協会会報』第17集 (発行:尾道南画会)	1906(明治39)年11月15日発行	印刷、冊子	18.8×12.3	個人蔵
M-4		『日本南画協会 第十回大会』案内状	1902(明治35)頃 発行	印刷、紙	22.7×30.5	個人蔵
M-5～ 10		望野徳 編『南宗画志』第1、3～7号 (発行:日本南画協会本部)	[第1号]1900(明治33)年10月16日発行 [第3号]1901(明治34)年10月1日発行 [第4号]1902(明治35)年3月25日発行 [第5号]1902(明治35)年10月3日発行 [第6号]1903(明治36)年3月27日発行 [第7号]1903(明治36)年9月20日発行	印刷、冊子	24.4×15.5	個人蔵
M-11～ 16		日本南画協会 編『南宗画苑』 第1輯第4～9号 (発行:平楽寺 村上書店)	[第4号]1902(明治35)年10月15日発行 [第5号]1902(明治35)年12月10日発行 [第6号]1903(明治36)年4月10日発行 [第7号]1903(明治36)年5月31日発行 [第8号]1903(明治36)年7月13日発行 [第9号]1903(明治36)年8月15日発行	印刷、冊子	25.6×19.0	個人蔵
M-17～ 23		日本南画院 編『日本南画院展覧会図録』 第1回～第7回 (発行:芸艸堂)	[第1回]1921(大正10)年10月7日初版、 10月20日再版発行 [第2回]1922(大正11)年11月10日発行 [第3回]1923(大正12)年9月20日発行 [第4回]1925(大正14)年10月5日発行 [第5回]1926(大正15)年9月20日発行 [第6回]1927(昭和2)年9月20日発行 [第7回]1928(昭和3)年9月25日発行	印刷、冊子	26.5×19.0 26.5×19.0 26.5×19.0 30.7×22.0 30.7×22.0 30.7×22.0 30.7×22.0	[第1、2、4回]個人蔵 [第3、5、6、7回]和歌山県立 近代美術館
M-24		鎌田敬四郎『第五回南画展』(発行:朝日新 聞社)	1926(大正15)年9月15日発行	印刷、冊子	25.8×19.0	和歌山県立近代美術館
M-25		橋本閑雪『石濤』第4版 (発行:中央美術 社)	1926(大正15)年7月5日初版発行、 1930(昭和5)年12月10日4版発行	印刷、書籍	27.0×20.0	個人蔵
M-26		人見少華『池大雅』(発行:中央美術社)	1926(大正15)年9月12日発行	印刷、書籍	27.0×20.3	個人蔵
M-27		矢野橋村『浦上玉堂』(発行:中央美術社)	1926(大正15)年10月30日発行	印刷、書籍	27.3×20.0	個人蔵
M-28		日本南画院 編『日本南画院第九回展覧会 図録』(発行:芸艸堂)	1930(昭和5)年9月25日発行	印刷、冊子	30.2×22.4	和歌山県立近代美術館
M-29		日本南画院 編『日本南画院第十三回展覧 会図録』(発行:芸艸堂)	1934(昭和9)年6月5日発行	印刷、冊子	30.5×22.6	和歌山県立近代美術館
M-30		石塚彰吾 編『昭和十一年版 日本南画院 十五年』(発行:南画鑑賞会)	1936(昭和11)年5月20日発行	印刷、書籍	18.5×13.0	個人蔵
M-31		『南画鑑賞』第5巻第3号 (発行:南画鑑賞 会)	1936(昭和11)年3月1日発行	印刷、冊子	26.0×17.7	和歌山県立近代美術館
M-32		『南画鑑賞』第6巻第11号 (発行:南画鑑賞 会)	1937(昭和12)年11月1日発行	印刷、冊子	26.0×18.5	和歌山県立近代美術館
M-33～ 35		『南画鑑賞会会報』8、9、11月号 (発行:南画鑑賞会)	[8月号]1933(昭和8)年8月27日発行 [9月号]1933(昭和8)年9月27日発行 [11月号]1933(昭和8)年11月20日発行	印刷、冊子	各26.0×19.1	個人蔵
M-36～ 39		田部井石南『南画技法入門』第1～4分冊 (発行:南画鑑賞会)	[第1分冊]1937(昭和12)年2月1日発行 [第2分冊]1937(昭和12)年3月8日発行 [第3分冊]1937(昭和12)年4月8日発行 [第4分冊]1937(昭和12)年5月8日発行	印刷、冊子	各22.1×15.3	個人蔵
M-40～ 48		小室翠雲 監修、田部井石南 執筆『南画講 習録』第5～13号 (発行:南画鑑賞会)	[第5号]1937(昭和12)年6月8日発行 [第6号]1937(昭和12)年7月1日発行 [第7号]1937(昭和12)年9月1日発行 [第8号]1937(昭和12)年10月1日発行 [第9号]1937(昭和12)年11月1日発行 [第10号]1937(昭和12)年12月1日発行 [第11号]1938(昭和13)年4月1日発行 [第12号]1938(昭和13)年5月1日発行 [第13号]1938(昭和13)年9月1日発行	印刷、冊子	2各6.0×18.8	個人蔵
M-49		石塚彰吾 編『南画鑑賞会第四回展覧会図 録』(発行:南画鑑賞会)	1937(昭和12)年11月16日発行	印刷、冊子	26.7×19.1	個人蔵
M-50		『南画鑑賞録/南画講習録』第1～78号 ス クラブブック	1932(昭和7)年4月頃 - 1938(昭和13)年12月1日	印刷、冊子	28.5×37.5	個人蔵
M-51		『南画鑑賞』第10巻第9号 (発行:南画鑑賞 会)	1941(昭和16)年9月1日発行	印刷、冊子	25.5×18.2	個人蔵
M-52		『南画鑑賞』第11巻第5号 (発行:南画鑑賞 会)	1942(昭和17)年5月1日発行	印刷、冊子	25.7×18.2	個人蔵
M-53		『南画鑑賞』第11巻第10号 (発行:南画鑑 賞会)	1942(昭和17)年10月1日発行	印刷、冊子	25.7×18.0	個人蔵
M-54		前川真澄『風景と熊野』(発行:前川真澄)	1929(昭和4)年6月25日発行	印刷、書籍	10.3×19.5	個人蔵

「第2部 近代の南画家、和歌山にあり」は、田辺市立美術館にて展示。

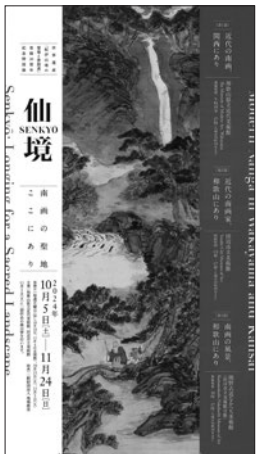
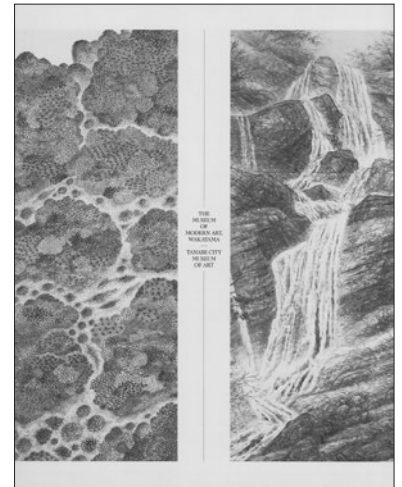
「第3部 南画の風景、和歌山にあり」は、熊野古道なかへち美術館(田辺市立美術館分館)にて展示。



ポスター



図録



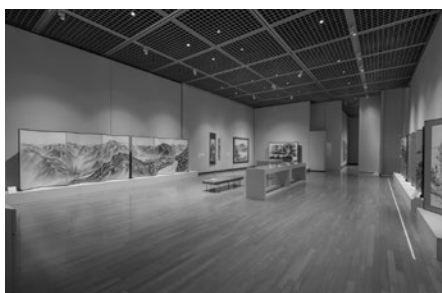
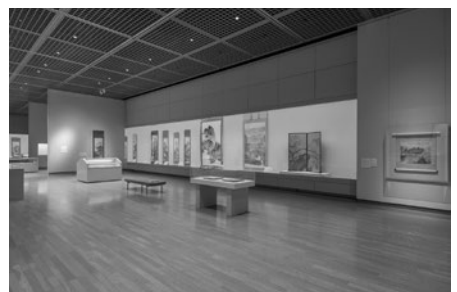
チラシ表面



チラシ中面



チラシ裏面



会場写真

1-2. 特別展「月映 つきてるつちにつどいたるもの」

- 会期 : 2024(令和6)年10月5日(土)–11月24日(日) 51日間・うち休館7日
 会場 : 展示室C(2階)
 主催 : 和歌山県立近代美術館
 入場者数 : 6,343名
 内容 : 1914年9月、田中恭吉・藤森静雄・恩地孝四郎によって刊行された木版画と詩の作品集『月映(つくはえ)』。心の内面を見つめ、生み出された珠玉の作品を、刊行から110年となるのを記念して一堂に展示した。
 展示点数 : 7作家314点、資料53点
 担当学芸員 : 井上芳子
 関連事業 : ・講演会「月映の成立について 田中恭吉の書簡から」11月2日(土) 寺口淳治(広島市現代美術館館長) 参加24人
 制作物 : ・ポスター(B2判、オフセット印刷)
 ・出品目録(A4判11頁)
 ・プレスリリース(A4判5頁)
 入場料金 : 「月映」のみ 一般800(640)円、大学生500(400)円/「仙境」と共通 一般1,000(800)円、大学生600(500)円()内は20名以上の団体料金
 成果・課題 : 新たに作品が発見されたことを契機として、一組だけが現存する稀少な私輯『月映』87点のうち、作品名が判明する43点を中心に、のこる44点をあらためて考察し、月映の成立過程を辿る機会とした。
 当館での長年の調査研究の成果を発表する貴重な機会であり、本来ならば慎重に企画して全国巡回展にするべき内容だが、予算編成上の都合で単館開催かつ常設展と同規模の経費での「特別展」開催となった点は今後課題を残した。いっぽう、状況を逆手にとって、会期のない限定版ポスターの製作や、作品名を大胆に推測する展示など、実験的な試みの機会とした。
 関連記事 : ・松本博子「月映 つきてるつちにつどいたるもの」『毎日新聞』2024年10月3日、16面
 ・「特別展「月映 つきてるつちにつどいたるもの」」『紀州タイムス』2024年10月1日、1面
 ・生駒芳久「ゆいまーるのころだより 精神科医と版画～素晴らしいコレクションでつながった！～」『点字毎日活字版』2025年3月27日

出品目録

*特に記載のない作品は当館蔵

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵/備考
I ハレー彗星の輝く夜に						
1	田中 恭吉	山本俊一あて葉書(昨夜はね、ハレーをよく見ましたよ)	1910(明治43)年5月26日	色鉛筆・水彩、紙	13.8×9.1	
2	田中 恭吉	山本俊一あて葉書(二つのこゝろ)	1910(明治43)年6月20日消印	水彩・鉛筆、紙	14.0×9.1	
3	田中 恭吉	研究所にて「未知草カード」より	1910(明治43)年9月17日	鉛筆・水彩、紙	18.5×11.0	
4	田中 恭吉	[研究所にて]「未知草カード」より	1910(明治43)	鉛筆・水彩、紙	10.3×17.7/11.0×18.2	
5	竹久 夢二	久本DONあて葉書(DONさん。風が吹く、風が吹く。)[桜さく国 紅桃の巻]掲載	1911(明治44)年10月3日付	インク・色鉛筆、紙	14.5×9.0	
6	久本 信男	恩地孝四郎あて葉書(ゆめ様からのハガキ なんのこのみがかなしかる)	1911(明治44)年10月5日消印	インク・水彩、紙	14.1×9.1	
7	恩地 孝四郎	久本信男あて葉書(夜と女)	1911(明治44)年10月17日消印	鉛筆・水彩、紙	13.9×9.1	
8	恩地 孝四郎	田中恭吉あて葉書(おもてかくしてある程に)	1912(明治45)年3月4日消印	インク、紙	14.2×9.0	
9	田中 恭吉	恩地孝四郎あて葉書(うす赤き毛糸のほぐれ一寸ちも)	1912(明治45)年3月5日表書	墨・赤インク、紙	9.6×5.4/14.0×9.1	
10	藤森 静雄	『ホクト』第一年第一号 扉 向上と追懐	1911(明治44)年10月15日発行	水彩、紙(冊子体)	26.0×17.4×1.3	
11	藤森 静雄	『ホクト』第一年第二号 静物	1911(明治44)年11月26日発行	油彩、キャンバス(冊子体)	27.4×18.7×9.0	
12	竹久 夢二	『夢二画集 春の巻』	1909(明治42)年12月15日初版 / 書籍 1910(明治43)年1月23日再版		22.2×16.6×1.2	個人蔵
13	竹久 夢二	『夢二画集 夏の巻』	1910(明治43)年4月19日初版 / 書籍 1910(明治43)年4月25日再版		22.4×15.3×1.5	個人蔵
14	竹久 夢二	『夢二画集 旅の巻』	1910(明治43)年7月22日発行	書籍	18.9×13.7×1.4	個人蔵
15	竹久 夢二	『夢二画集 野に山に』	1911(明治44)年2月25日発行	書籍	22.1×15.6×0.8	個人蔵
16	竹久 夢二ほか	『都会スケッチ』 *夢二と恩地孝四郎、久本信男、田中順之輔、宮武辰夫の共著	1911(明治44)年6月26日発行	書籍	22.5×15.9×0.7	個人蔵
17	竹久 夢二	『夢二画集 都会の巻』 *原画スケッチ(竹久夢二伊香保記念館蔵)に「DON SAN」と記されている	1911(明治44)年11月21日発行	書籍	22.3×16.1×0.8	個人蔵
18	竹久 夢二	『桜さく国 紅桃の巻』 *夢二主宰雑誌。恩地、田中が参加した	1912(明治45)年3月21日発行	冊子	25.5×18.8×0.2	
19	竹久 夢二	得度の日『桜さく国 紅桃の巻』口絵	1912(明治45)年3月21日発行	木版、紙	32.5×18.9/37.6×23.8	個人蔵
20	恩地 孝四郎	[女の顔]『桜さく国 紅桃の巻』掲載	1912(大正元)頃	水彩・鉛筆、紙	21.9×15.5/25.2×25.2	
21	恩地 孝四郎	海の女『桜さく国 紅桃の巻』掲載	1912(明治45/大正元)	油彩、キャンバス	45.0×33.3	
22	田中 恭吉	恩地孝四郎あて葉書(上野クラブで同人の半折画展覧会を開かうといふ事に)	1912(明治45)年6月3日付	インク、紙	14.1×8.9	
23	恩地 孝四郎	田中恭吉あて葉書(大変なんだといふ気持とかくぞといふ気分)	1912(明治45)年6月6日消印	インク・色鉛筆、紙	14.0×8.9	
24	久本 信男(DON)	恩地孝四郎あて葉書(画は出来ないんです)	1912(明治45)年6月14日消印	インク・水彩、紙	14.0×8.9	
25	香山 小鳥	恩地孝四郎あて葉書(展覧会は其后どう進んだのでせう)	1912(明治45)年6月19日付	インク・彩色、紙	14.0×9.0	
26	田中 恭吉	恩地孝四郎あて葉書(夢さまはどうして?)	1912(大正元)年8月2日消印	インク、紙	14.0×9.0	
27	香山 小鳥	恩地孝四郎あて葉書(TATSUMAKI)	1912(大正元)年8月4日付	インク、紙	14.0×9.0	

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵/備考
28	田中 恭吉	[夢二展京都旅行スケッチ帖]	1912(大正元)	インク、紙	20.1×15.9	
29	田中 恭吉	[夢二展京都旅行スケッチ帖]	1912(大正元)	鉛筆、紙	20.2×15.8	
30	田中 恭吉	[夢二展京都旅行スケッチ帖]	1912(大正元)	インク、紙	20.1×15.9	
31	田中 恭吉	[夢二展京都旅行スケッチ帖]	1912(大正元)	青鉛筆、紙	20.1×15.8	
32	恩地 孝四郎	田中恭吉あて葉書(いのちいのち 死ぬべきいのち)	1912(大正元)年12月22日消印	インク・金彩、紙	14.2×9.1	
33	田中 恭吉	恩地孝四郎あて葉書(眼がさめると枕元にはおはきががありました)	1912(大正元)年12月23日消印	インク、紙	14.0×9.1	
34	田中 恭吉	LA CHAMBRE SECRÈTE(『密室』I 扉絵)	1913(大正2)年3月/ 1913(大正2)年5月9日発行	黒インク・金彩・着彩、紙	22.2×15.8/31.8×23.4	
35	田中 恭吉	曇り日の自傷(『密室』I)	1913(大正2)	黒インク・水彩、紙	17.0×16.2	
36	藤森 静雄	LA CHAMBRE SECRÈTE(『密室』5 扉絵)	1913(大正2)	インク、紙	14.6×13.2	
37	田中 二郎	ドンゾコノ印象(『密室』5)	1913(大正2)	インク・水彩、紙	9.2×9.2	
38	香山 小鳥	竹久夢二あて葉書(こんなものをこしらへました)	1912(大正元)年10月6日付	木版・墨書、紙	14.0×9.0	
39	香山 小鳥	恩地孝四郎あて葉書(毎日コツコツだ)	1912(大正元)年10月6日付	木版・墨書、紙	14.0×9.0	
40	香山 小鳥	恩地孝四郎あて年賀状	1913(大正2)年1月1日消印	木版、紙	14.2×9.1	
41	香山 小鳥	田中恭吉あて年賀状	1913(大正2)年1月1日消印	木版、紙	14.0×9.0	
42	恩地 孝四郎	詩画集『死にたる泪』	1911(明治44)	インク・彩色、紙	17.5×25.5表紙/ 17.5×12.8	
43	香山 小鳥	詩画集『お前は何処から』	1912(大正元)年6月10日	インク・彩色、紙	20.3×12.2×0.2	
44	田中 恭吉	詩画集『驚愕の後』	1912(明治45)	インク、紙	16.6×11.1×0.3	
45	香山 小鳥	愁	1913(大正2)	木版、紙	12.4×8.5/14.0×9.2	
46	香山 小鳥	深川の冬	1912(大正元)	木版、紙	24.7×17.8/26.4×19.6	個人蔵
47	香山 小鳥	木立(『密室』6)	1912(大正元)彫/ 1913(大正2)年12月2日発行	木版、紙	15.0×11.7/16.5×13.5	
48	香山 小鳥	風景(『密室』6)	1912(大正元)彫/ 1913(大正2)年12月2日発行	木版、紙	14.9×11.8/18.5×13.7	
49	恩地 孝四郎	LA POT NOIR(『密室』6)	1913(大正2)年12月2日発行	インク・金彩、紙	11.0×10.6/12.7×12.1	
50	恩地 孝四郎	LA DANCE(『密室』6)	1913(大正2)年12月2日発行	平版・モノタイプ、紙	13.0×11.4/16.6×13.7	
51	恩地 孝四郎	LA POT NOIRE	1913(大正2)年11月26日	インク・金彩、紙	11.1×10.7/16.2×21.0	個人蔵
52	恩地 孝四郎	Self-portrait	1914(大正3)	インク、紙	13.3×8.3/19.9×13.6	個人蔵
53	恩地 孝四郎	NISO NO SAMISHIKI MAHIRU(尼僧の寂しき真昼)	1913(大正2)頃	インク、紙	15.8×9.7/ 19.4×13.5	個人蔵
54	恩地 孝四郎	病と恨と。		インク、紙	13.5×9.6/20.7×14.1	個人蔵
55	田中 恭吉	『密室』7 表紙・裏表紙	1914(大正3)年12月26日彫/ 1914(大正3)年1月14日発行	木版、紙	30.0×39.1	
56	田中 恭吉	病める夕べ(『密室』7)	1913(大正2)年12月/ 1914(大正3)年1月14日発行	木版、紙	15.7×10.3/17.0×11.3	
57	田中 恭吉	赤き死の仮面 *エドガー・アラン・ポーの短編による	1913(大正2)年12月13日頃	木版、紙	12.4×9.2/13.0×10.0	
58	田中 恭吉	白昼のなまけもの(『密室』8)	1914(大正3)年1月/ 1914(大正3)年2月発行	インク・彩色、紙	10.2×9.0/11.6×10.5	
59	田中 恭吉	スバク(『密室』8)	1914(大正3)年1月/ 1914(大正3)年2月発行	インク・彩色、紙	19.3×8.3	
60	田中 恭吉	[自筆原稿のための欄画](『密室』8)	1914(大正3)年1月頃	木版、紙	24.8×33.9	
61	田中 恭吉	『密室』9 表紙	1914(大正3)年3月10日発行	インク、紙	30.6×18.0/31.7×19.1	
62	藤森 静雄	瞳(『密室』9)	1914(大正3)年3月10日発行	インク、紙	15.6×11.2/16.3×11.6	
63	藤森 静雄	劇と人生(『密室』9)	1914(大正3)年3月10日発行	インク、紙	15.7×11.9/16.2×12.3	
64	田中 恭吉	[静物](『密室』9)	1914(大正3)年3月10日発行	木版、紙	23.0×11.5/24.2×12.5	
65	香山 小鳥	版木「木立」			15.1×12.0×1.3	
66	田中 恭吉	太陽と花(『密室』8)	1913(大正2)年12月/1914年 (大正3)年2月発行	木版、紙(冊子体)	17.8×11.6/19.7×12.7/ 29.5×19.5×2.0冊子	
67	田中 恭吉	版木「太陽と花」*裏面に油彩画[風景]				
68	田中 恭吉	版木[静物 / 不明] *裏面に油彩画[風景]				
69	田中 恭吉	版木[密室X] *裏面に版木「別れ」				
II 『月映』の出生						
70	田中 恭吉	恩地孝四郎あて葉書(名の気に入ったのがめつかったかしら)	1914(大正3)年3月22日付	インク、紙	14.1×9.1	
71	田中 恭吉	恩地孝四郎あて葉書(刀がとどいたのできのふは半日ときやさんを二人で、した)	1914(大正3)年3月23日付	インク、紙	14.1×9.1	
72		私輯『月映』I たとう	1914(大正3)年4月上旬		30.6×24.2×0.2	
73	田中 恭吉	[椿] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙(二折)	20.5×10.8/26.7×20.2	
74	田中 恭吉	[略血の夜] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙(二折)	19.0×13.3/26.7×20.1	
75	田中 恭吉	[略血の夜] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙	19.1×13.3/25.4×21.1	
76	田中 恭吉	[伏す女]		インク、紙	11.1×8.3	
77	田中 恭吉	[処女から女へ(夜と処女)] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙	20.6×10.6	
78	田中 恭吉	[少女]	1914(大正3)年4月上旬か	インク、紙	15.2×8.8	
79	田中 恭吉	[死の支配者の微笑(死)] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙	18.8×9.9/26.5×19.7	
80	田中 恭吉	[死の支配者の微笑(死)] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙	18.9×9.9/26.5×19.8	個人蔵
81	田中 恭吉	[風景]	1914(大正3)	木版、紙	13.0×18.9/18.8×25.8	
82	田中 恭吉	[墓石をきざむ音をきく日(土)] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙(二折)	22.8×15.5/26.6×19.8	
83	藤森 静雄	[沈丁花]	1914(大正3)	木版、紙	17.8×12.8/19.8×13.9	
84	藤森 静雄	[雪の日]	1914(大正3)	木版、紙	21.0×16.3/33.0×22.5	

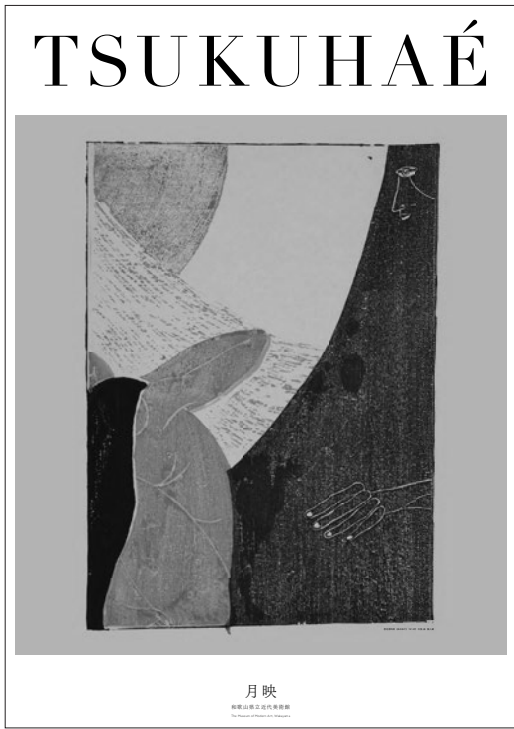
No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵／備考
85	藤森 静雄	[黒き心臓] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙	16.8×15.5/26.6×19.8	
86	藤森 静雄	[黒き心臓] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙(二折)	16.8×15.5/26.7×19.8	
87	藤森 静雄	[黒き心臓] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙	16.7×15.2/20.2×28.5	
88	藤森 静雄	[推移(光の中を歩む)] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙	23.4×16.1/26.5×19.8	
89	藤森 静雄	[推移(光の中を歩む)] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙	23.2×15.9/36.2×24.6	個人蔵
90	藤森 静雄	[推移(光の中を歩む)] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙(二折)	23.3×16.2/26.6×19.8	
91	藤森 静雄	[闇と生] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙(二折)	23.9×16.4/26.7×19.5	
92	藤森 静雄	[太陽は永りぬ] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙(二折)	15.8×15.0/26.7×19.8	
93	藤森 静雄	[太陽は永りぬ] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙	15.8×15.0/39.1×24.2	
94	藤森 静雄	[春さき] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙(二折)	17.3×20.4/19.3×26.4	
95	藤森 静雄	[春さき] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)	木版、紙	17.0×20.5/18.2×21.0	
96	藤森 静雄	[ともしび(灯のまえ)] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙(二折)	23.7×15.9/26.7×19.9	
97	藤森 静雄	[ともしび(灯のまえ)] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙	23.7×15.9/36.1×24.7	
98		私輯『月映』II たとう	1914(大正3)年4月中旬		30.6×24.2×0.3	
99	田中 恭吉	版木「焦心」	1914(大正3)年3月		22.7×15.4×0.4	
100	田中 恭吉	版木[不明]				
101	田中 恭吉	版木[不明]				
102	田中 恭吉	版木[不明]				
103	恩地 孝四郎	[草の芽と少年] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙(二折)	8.4×10.4/26.7×19.7	
104	恩地 孝四郎	[受胎] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙(二折)	14.0×11.2/26.7×19.6	
105	恩地 孝四郎	[墮ちたる天女] *私輯『月映』I 目次草稿にある作品名	1914(大正3)年4月上旬か	木版、紙	17.2×11.8/33.0×24.0	
106		私輯『月映』II 目次 田中恭吉 *赤のノンブルが押されている	1914(大正3)年4月中旬	木版、紙(二折)	26.6×19.6	
107	田中 恭吉	春 私輯『月映』II(赤ノンブル 1)	1914(大正3)年3月	木版、紙(二折)	8.6×9.54/26.5×19.1	
108	田中 恭吉	太陽と花 私輯『月映』II	1913(大正2)年12月	木版、紙	17.8×11.7/22.8×15.0	
109	田中 恭吉	生ふるもの去るもの 私輯『月映』II(赤ノンブル 3)	1914(大正3)年3月	木版、紙(二折)	10.6×8.3/26.4×19.1	
110	田中 恭吉	生ふるもの去るもの *裏面に「ETUDE」と摺られている	1914(大正3)年3月	木版、紙(二折)	10.2×8イメージ/ 26.2×19.0	
111	田中 恭吉	生ふるもの去るもの	1914(大正3)	木版、紙	10.6×8.2/23.5×16.5	
112	田中 恭吉	生ふるもの去るもの	1914(大正3)年3月	木版、紙	10.8×8.4/26.5×19.2	個人蔵
113	田中 恭吉	別れ 私輯『月映』II(赤ノンブル 4)	1914(大正3)年3月	木版、紙	15.2×11.2/26.6×20.2	
114	田中 恭吉	「別れ」下絵	1914(大正3)年3月	墨書、紙	15.2×11.2/16×11.9	
115	田中 恭吉	焦心 私輯『月映』II(赤ノンブル 5)	1914(大正3)年3月	木版、紙(二折)	20.9×10.1/26.6×20.2	
116		私輯『月映』II 目次 藤森静雄 *赤のノンブルが押されている	1914(大正3)年4月中旬	木版、紙(二折)	26.2×19.6	
117		私輯『月映』II 目次 藤森静雄 *ノンブルがなく、予備として摺られたものか	1914(大正3)年4月中旬	木版、紙(二折)		
118	藤森 静雄	夜と雨 私輯『月映』II(赤ノンブル 1)	1914(大正3)年4月中旬	木版、紙(二折)	15.6×7.5/25.7×19.6	
119	藤森 静雄	さみしき生のうた 私輯『月映』II(赤ノンブル 2)	1914(大正3)年4月中旬	木版、紙	16.5×11.1/26.7×19.6	
120	藤森 静雄	夜のうた 私輯『月映』II(赤ノンブル 3)	1914(大正3)年4月中旬	木版、紙	22.7×15.7/26.5×19.5	
121	藤森 静雄	夜のうた	1914(大正3)年4月中旬	木版、紙	22.7×15.6/26.2×19.6	
122	藤森 静雄	永遠 私輯『月映』II(赤ノンブル 4)	1914(大正3)年4月中旬	木版、紙(二折)	22.4×10.8/26.1×19.0	個人蔵 台紙
123	藤森 静雄	永遠	1914(大正3)年4月中旬	木版、紙	22.1×10.6	
124	藤森 静雄	春 私輯『月映』II(赤ノンブル 5)	1914(大正3)年4月中旬	木版、紙(二折)	12.0×17.8/19.8×26.7	
125		私輯『月映』II 目次 恩地孝四郎 *赤のノンブルが押されている	1914(大正3)年4月中旬	木版、紙(二折)	26.7×19.6	
126	恩地 孝四郎	めぐみのつゆ 私輯『月映』II(赤ノンブル 1)	1914(大正3)年4月中旬	木版、紙(二折)	25.0×11.2/26.6×19.6	
127	恩地 孝四郎	あさあけ 私輯『月映』II(赤ノンブル 2)	1914(大正3)年4月中旬	木版、紙(二折)		個人蔵
128	恩地 孝四郎	あさあけ	1914(大正3)	木版、紙(二折)	22.9×16.6/32.7×24.4	
129	恩地 孝四郎	うみのさち 私輯『月映』II(赤ノンブル 3)	1914(大正3)年4月中旬	木版、紙(二折)	17.4×12.2/26.7×21.3	
130	恩地 孝四郎	祖春 私輯『月映』II(赤ノンブル 4)	1914(大正3)年4月中旬	木版、紙	13.0×11.0/25.2×18.8	
131	恩地 孝四郎	[よる] *私輯『月映』II 目次にある作品名	1914(大正3)年4月中旬か	木版、紙	20.4×13.8/26.5×19.7	
132	恩地 孝四郎	[よる] *私輯『月映』II 目次にある作品名	1914(大正3)年4月中旬か	木版、紙	13.8×10.0	
133	恩地 孝四郎	[よる]	1914(大正3)年4月中旬か	墨、紙	19.0×13.4/19.4×13.4	個人蔵
134	恩地 孝四郎	[失題]	1914(大正3)	木版、紙	11.9×11.7/26.5×19.5	
135	恩地 孝四郎	四月と青き眼		墨、紙	15.4×10.6/19.5×13.7	個人蔵
136		私輯『月映』III 扉 ひかるもの	1914(大正3)年5月上旬	木版・紙(二折)	27.1×20.0	
137		私輯『月映』III 目次 田中恭吉	1914(大正3)年5月上旬	木版・紙(二折)	27.2×20.1	
138	田中 恭吉	[春の土] *私輯『月映』III 目次にある作品名	1914(大正3)年5月上旬	木版、紙	10.4×15.7/29.4×24.0	
139	田中 恭吉	夜と女 私輯『月映』III(版木に作品名を書き込み)	1914(大正3)年4月	木版・紙(二折)	16.1×11.4/25.8×18.8	
140	田中 恭吉	夕[女] *「女」は私輯『月映』III 目次にある作品名	1914(大正3)年4月か	木版、紙(二折)	15.1×10.1/25.9×18.8	

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵/備考
141	田中 恭吉	夕[女]	1914(大正3)	木版、紙	15.3×10.2/15.5×10.4	
142	田中 恭吉	薬屋のむすめ	1914(大正3)頃	インク・色鉛筆、紙	15.2×8.5	
143	田中 恭吉	あをそら 私輯『月映』III(公刊『月映』Vに再録)	1914(大正3)年4月	木版、紙	15.5×10.9/20.3×14.5	
144	田中 恭吉	「芽のひかり」 *私輯『月映』III 目次にある作品名	1914(大正3)年4月か	木版・紙	15.4×22.2/19.4×25.0	
145		私輯『月映』III たとう	1914(大正3)年5月上旬		30.9×24.5×0.5	
146	田中 恭吉	版木「夜と女」	1914(大正3)年4月			
147		私輯『月映』III 目次 藤森静雄	1914(大正3)年5月上旬	木版、紙(二折)	25.8×19.2	
148	藤森 静雄	「一のみち」 *私輯『月映』III 目次にある作品名	1914(大正3)年5月上旬か	木版、紙(二折)	8.3×5.1/9.2×6.0/ 26.0×18.8台紙	
149	藤森 静雄	よる 私輯『月映』III(公刊『月映』Iに再録)	1914(大正3)年5月上旬	木版、紙(二折)	18.0×12.8/20.1×13.0/ 26.3×18.9台紙	
150	藤森 静雄	自然と人生 私輯『月映』III(公刊『月映』Iに再録)	1914(大正3)年5月上旬	木版、紙(二折)	20.8×11.8/26.6×19.2	
151	藤森 静雄	「死によりて結ばれる心」 *私輯『月映』III 目次にある作品名	1914(大正3)年5月上旬か	木版、紙(二折)	18.0×12.4/26.6×20.1	
152	藤森 静雄	「五月」*私輯『月映』III 目次にある作品名	1914(大正3)年5月上旬か	木版、紙(二折)	18.3×12.6/26.6×19.5	
153	藤森 静雄	「五月」	1914(大正3)年5月上旬か	木版、紙	18.3×12.6/18.8×13.7	
154		私輯『月映』III 目次 恩地孝四郎	1914(大正3)年5月上旬	木版、紙(二折)	27.2×20.2	
155	恩地 孝四郎	太陽の下[人間]「良民」第4巻第5号に掲載 *[人間]は私輯『月映』III 目次にある作品名	1914(大正3)年5月上旬か	木版、紙	16.2×11.1/26.4×19.5	
156	恩地 孝四郎	「無智の眼」 *私輯『月映』III 目次にある作品名	1914(大正3)年5月上旬か	木版、紙	18.0×11.7/27.6×17.5	
157	恩地 孝四郎	「無知の眼」 *私輯『月映』III 目次にある作品名	1914(大正3)年5月上旬か	木版、紙(二折)	18.0×11.7/27.8×20.2	
158	恩地 孝四郎	泪(抒情 I) 私輯『月映』III(公刊『月映』Iに「抒情 I」として再録)	1914(大正3)年5月上旬	木版、紙(二折)	13.5×11.0/27.6×17.6	
159	恩地 孝四郎	「キリストとマリア」 *私輯『月映』III 目次にある作品名	1914(大正3)年5月上旬か	木版、紙	24.0×17.5/ 26.2×18.9台紙	
160	恩地 孝四郎	「赤き実をもてる少女」 *私輯『月映』III 目次にある作品名。月映社第1回配布自摺作品	1914(大正3)年5月上旬か	木版、紙(二折)	19.3×8.5/29.4×19.3	
161		私輯『月映』IV 扉	1914(大正3)年5月下旬	木版、紙(二折)	26.5×19.8	
162		私輯『月映』IV 目次 田中恭吉 *黒のノブルが押されている	1914(大正3)年5月下旬	木版、紙(二折)	26.3×19.4	
163	田中 恭吉	そこへのみかがやくひかり 私輯『月映』IV(黒ノブル1)	1914(大正3)年5月	木版、紙(二折)	9.2×9.2/25.0×18.9	
164	田中 恭吉	五月の呪 私輯『月映』IV(黒ノブル2)	1914(大正3)年5月	木版、紙(二折)	15.8×10.8/24.9×18.9	
165	田中 恭吉	病児 私輯『月映』IV(黒ノブル3)	1914(大正3)年5月	木版、紙(二折)	11.8×15.8/19.0×24.9	
166	田中 恭吉	記憶と忘却 私輯『月映』IV(黒ノブル4 / 版木に作品名と日付を書き込み)	1914(大正3)年5月2日	木版、紙(二折)	16.5×12.9/25.0×19.6	
167	田中 恭吉	去勢者と緋罌粟 公刊『月映』III	1914(大正3)年5月6日/ 1914(大正3)年12月16日発行	木版、紙	18.6×14.0/26.3×20.0	
168	田中 恭吉	「いのち」 *版木「去勢者と緋罌粟」の裏面に彫られている	1914(大正3)年5月か	木版、紙	14.9×15.6/15.6×16.6	
169		私輯『月映』IV 目次 藤森静雄 *黒のノブルが押されている	1914(大正3)年5月下旬	木版、紙(二折)	27.4×19.8	
170	藤森 静雄	けし 私輯『月映』IV(黒ノブル1)	1914(大正3)年5月下旬	木版、紙(二折)	20.4×9.8/27.4×19.8	
171	藤森 静雄	けし	1914(大正3)年5月下旬	木版、紙	20.4×9.7/29.3×19.4	
172	藤森 静雄	けし	1914(大正3)年5月下旬	木版、紙	20.4×9.8/22.0×11.0	
173	藤森 静雄	二つの黙思 私輯『月映』IV(黒ノブル2 / 公刊『月映』IIに《ピアノと木》として再録)	1914(大正3)年5月下旬	木版、紙(二折)	12.7×12.2/27.3×19.8	
174	藤森 静雄	夜の蝶 私輯『月映』IV(黒ノブル3)	1914(大正3)	木版、紙(二折)	13.8×17.0/19.0×26.5	
175	藤森 静雄	二の心 私輯『月映』IV(黒ノブル4)	1914(大正3)	木版、紙	24.9×13.3/27.3×19.8	
176	藤森 静雄	夜のみち 私輯『月映』IV(黒ノブル5)	1914(大正3)	木版、紙	12.3×23.2/19.8×27.5	
177		私輯『月映』IV 目次 恩地孝四郎 *黒のノブルが押されている	1914(大正3)年5月下旬	木版、紙(二折)	26.7×19.7	
178	恩地 孝四郎	うかむ種子 私輯『月映』IV	1914(大正3)年5月下旬	木版、紙	19.2×12.0/26.3×19.1	
179	恩地 孝四郎	「望と怖」 *私輯『月映』IV 目次にある作品名	1914(大正3)年5月下旬か	木版、紙	15.1×11.0/26.7×19.5	
180	恩地 孝四郎	そぐへる心 私輯『月映』IV(黒ノブル3)	1914(大正3)年5月下旬	木版、紙(二折)	17.7×12.2/26.4×19.4	
181	恩地 孝四郎	よりそふもの 私輯『月映』IV(黒ノブル4)	1914(大正3)年5月下旬	木版、紙(二折)	19.0×13.7/26.5×17.5	
182	恩地 孝四郎	くろきあさあげ 私輯『月映』IV	1914(大正3)年5月下旬	木版、紙	23.6×11.7/27.5×17.5	
183		私輯『月映』IV たとう	1914(大正3)年5月下旬		31.5×24.5×0.3	
184	田中 恭吉	版木「記憶と忘却」	1914(大正3)年5月2日			
185	田中 恭吉	版木「去勢者と緋罌粟」 *裏面に彫られているのが「いのち」か	1914(大正3)年5月			
186		私輯『月映』V たとう	1914(大正3)年6月下旬		31.2×24.5×0.5	
187		私輯『月映』VI たとう	1914(大正3)年7月		31.4×24.5×0.5	
188		私輯『月映』V 扉 PURGATORIO	1914(大正3)年6月下旬	木版、紙(二折)	26.3×19.2	
189		私輯『月映』V 目次 藤森静雄	1914(大正3)年6月下旬	木版、紙(二折)	26.2×19.2	
190	藤森 静雄	「生の雰囲気」 *私輯『月映』V 目次にある作品名	1914(大正3)年6月下旬か	木版、紙(二折)	13.5×7.5/26.3×17.9	
191	藤森 静雄	「只一つの心」 *私輯『月映』V 目次にある作品名	1914(大正3)年6月下旬か	木版、紙(二折)	7.7×17.2/19.3×26.3	
192	藤森 静雄	こころのかげ[かけ] *[かけ]は私輯『月映』V 目次にある作品名。公刊『月映』IIに《こころのかげ》として収録	1914(大正3)年6月下旬か	木版、紙(二折)	17.4×9.1/26.3×19.2	
193	藤森 静雄	心のながれ 私輯『月映』V(公刊『月映』Iに太陽の部分黒く摺ったものが再録)	1914(大正3)年6月下旬	木版、紙(二折)	17.7×12.0/26.3×19.2	
194	藤森 静雄	「太陽の病める日」 *私輯『月映』V 目次にある作品名	1914(大正3)年6月下旬か	木版、紙(二折)	17.7×10.1/26.5×20.0	

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵/備考
195		私輯『月映』V 目次 恩地孝四郎	1914(大正3)年6月下旬	木版、紙(二折)	26.4×19.2	
196	恩地 孝四郎	抒情II 私輯『月映』V(公刊『月映』II に再録)	1914(大正3)年6月下旬	木版、紙(二折)	20.4×14.2/26.9×19.7	
197	恩地 孝四郎	裸形のくるしみI 私輯『月映』V	1914(大正3)年6月下旬	木版、紙(二折)	19.8×8.0/26.7×20.0	
198	恩地 孝四郎	裸形のくるしみIII 私輯『月映』V(公刊『月映』III に再録)	1914(大正3)年6月下旬	木版、紙(二折)	22.1×7.9/26.4×19.6	
199	恩地 孝四郎	裸形のくるしみIV 私輯『月映』V	1914(大正3)年6月下旬	木版、紙(二折)	22.0×7.9/26.8×20.2	
200	恩地 孝四郎	[彼女いま屋上を過ぐ] *私輯『月映』V 目次にある作品名	1914(大正3)年6月下旬か	木版、紙(二折)	15.0×15.0/26.9×17.8	
201	恩地 孝四郎	[一つの貌]	1915(大正4)	木版、紙(二折)	15.2×11.2/28.0×20.7	
202	恩地 孝四郎	[しのびよるうすやみ] *私輯『月映』V 目次にある作品名	1914(大正3)年6月下旬か	木版、紙(二折)	13.3×13.5/26.6×17.7	
203		私輯『月映』VI 扉 伴病めり	1914(大正3)年7月	木版、紙(二折)	26.8×17.7	
204	田中 恭吉(恩地孝四郎 彫)	「死と血のうた」扉	1914(大正3)年7月	木版、紙(二折)	26.7×17.7	
205	田中 恭吉(恩地孝四郎 彫)	「死と血のうた」みなつきの午後のおかりに	1914(大正3)年7月	木版、紙(二折)	26.7×17.7	
206	田中 恭吉(恩地孝四郎 彫)	「死と血のうた」たちばなのはなかけに	1914(大正3)年7月	木版、紙(二折)	26.7×17.9	
207		私輯『月映』VI 目次 藤森静雄	1914(大正3)年7月	木版、紙(二折)	26.7×17.7	
208	藤森 静雄	[星の下] *私輯『月映』V 目次にある作品名	1914(大正3)年7月か	木版、紙(二折)	19.6×13.5/26.8×17.8	
209	藤森 静雄	あゆめるもの 私輯『月映』V(公刊『月映』I に再録)	1914(大正3)年7月か	木版、紙(二折)	17.8×12.1/27.0×17.8	
210	藤森 静雄	[黒き手] *私輯『月映』V 目次にある作品名	1914(大正3)年7月か	木版、紙(二折)	13.4×13.5/27.0×17.7	
211	藤森 静雄	人類 私輯『月映』V(公刊『月映』I に再録)	1914(大正3)年7月	木版、紙(二折)	14.9×15.0/27.0×17.7	
212	藤森 静雄	[宇宙のながれ] *私輯『月映』V 目次にある作品名	1914(大正3)年7月か	木版、紙(二折)	15.2×13.6/27.1×18.0	
213	藤森 静雄	[失題]	1914(大正3)	木版、紙	13.3×13.5/18.1×17.3	
214	藤森 静雄	白日	1914(大正3)頃	木版、紙	17.8×11.9/24.4×14.9	
215		私輯『月映』VI 目次 恩地孝四郎	1914(大正3)年7月	木版、紙(二折)	26.7×17.8	
216	恩地 孝四郎	抒情VII 伴病めり 私輯『月映』VI(公刊『月映』I に再録)	1914(大正3)年7月	木版、紙(二折)	17.8×12.3/27.0×17.8	
217	恩地 孝四郎	ただよへるもの 私輯『月映』VI(公刊『月映』I に再録)	1914(大正3)年7月	木版、紙(二折)	19.5×13.6/26.8×17.6	
218	恩地 孝四郎	[母とその夫]『良民』第4巻第6号に掲載 *私輯『月映』VI 目次にある作品名	1914(大正3)年7月か	木版、紙	15.9×11.3	
219	恩地 孝四郎	[天界秘技] *私輯『月映』VI 目次にある作品名	1914(大正3)年7月か	木版、紙	24.1×17.4/26.3×20.0	
220	恩地 孝四郎	[天界秘技] *私輯『月映』VI 目次にある作品名	1915(大正4)	木版、紙	19.1×15.5/19.4×18.8	
221	恩地 孝四郎	AVENTURE de la Amour	1914(大正3)頃	インク、紙	13.7×8.7/18.5×13.9	個人蔵
222	恩地 孝四郎	つくよみの出生	1914(大正3)頃	インク、紙	12.8×7.7/20.0×12.7	個人蔵
223	田中 恭吉	光と雨 *裏面に「七月二十五日、月映 VI を終日ま つが裏面」とある	1914(大正3)	インク、紙	16.5×20.7	
224	[恩地 孝四郎]	[女]『良民』第4巻第6号(1914年6月15日発行)に掲載	1914(大正3)	木版、紙	8.2×11.7/12.3×16.7	
225	恩地 孝四郎	夕照 → 『良民』第4巻第4号(1914年4月15日発行)に掲載	1914(大正3)	木版、紙	8.1×11.5/13.4×20.8	
226	[恩地 孝四郎]	[灯台]『良民』第4巻第4号(1914年4月15日発行)に掲載	1914(大正3)	木版、紙	7.8×10.9/13.8×19.5	
227	[恩地 孝四郎]	[耕作]『良民』第4巻第5号(1914年5月15日発行)に掲載	1914(大正3)	木版、紙	8.2×11.6/13.0×20.1	
228	[恩地 孝四郎]	[風景]		木版、紙	7.8×11.4/13.1×19.3	
229	恩地 孝四郎	桑芽『良民』第4巻第4号(1914年4月15日発行)に掲載	1914(大正3)	木版、紙	8.0×14.0/14.2×19.5	
230	藤森 静雄	若き日『新真婦人』第18号 婦人と平和号(1914年10月1日発行)口絵	1914(大正3)	木版(機械刷り)、紙	17.9×12.0	
III 『月映』の宇宙						
231	恩地 孝四郎	『月映』創刊の広告『白樺』第5年9月号(1914年9月1日発行)掲載	1914(大正3)	木版(機械刷り)、紙	18.8×12.6/22.4×15.0	
232	恩地 孝四郎	『月映』II の広告『白樺』第5年10月号(1914年10月1日発行)掲載	1914(大正3)	木版(機械刷り)、紙	9.1×6.2/22.1×14.9	
233	恩地 孝四郎	公刊『月映』ポスター	1914(大正3)	木版、紙	34.7×33.7	
234	恩地 孝四郎、藤森 静雄	『月映』創刊 あいさつ状	1914(大正3)年8月	木版(機械刷り)、紙	26.6×35.5	
235	藤森 静雄	TSUKUHAÉ 『月映』創刊 あいさつ状の表紙	1914(大正3)	木版、紙	10.4×9.1/26.7×17.7	
236	恩地 孝四郎	[月夜] 『月映』創刊 あいさつ状の裏表紙	1914(大正3)	木版、紙	7.7×6.5/26.6×17.7	
237	田中 恭吉	病める夕 公刊『月映』I	1914(大正3)年9月18日発行	木版(機械刷り)、紙	15.6×10.4/25.9×19.0	
238		公刊『月映』I	1914(大正3)年9月18日発行	冊子体	25.8×19.0×0.3	
239		公刊『月映』II	1914(大正3)年11月10日発行	冊子体	26.7×19.9×0.3	個人蔵
240		公刊『月映』II	1914(大正3)年11月10日発行	冊子体	26.7×20.1×0.5	
241	田中 恭吉	「病床余情」自筆原稿 公刊『月映』II 所収				
242		公刊『月映』III	1914(大正3)年12月16日発行	冊子体	26.3×19.9×0.4	
243	田中 恭吉	「流転」自筆原稿 公刊『月映』III 所収				
244		公刊『月映』IV 死によりて挙げらるる生	1915(大正4)年1月28日発行	冊子体	26.3×19.2×0.9	
245		公刊『月映』V	1915(大正4)年3月7日発行	冊子体	26.4×20.2×0.3	
246		公刊『月映』VI 表紙 恩地孝四郎	1915(大正4)年5月5日発行	冊子体	27.3×20.0×0.5	
247	田中 恭吉	「ゆめの日のかけ」自筆原稿 公刊『月映』VI 所収				
248	田中 恭吉	「北豊島野」自筆原稿 公刊『月映』VI 所収				
249		公刊『月映』VII 表紙 恩地孝四郎	1915(大正4)年11月1日発行	冊子体	26.2×20.0×0.5	
250	藤森 静雄	太陽 公刊『月映』VII	1915(大正4)年11月1日発行	木版(機械刷り)、紙(冊子体)	18.2×9.1/26.5×19.8	

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵/備考
251	田中 恭吉	「序詩」自筆原稿 公刊『月映』VII 所収				
252	田中 恭吉	「寥人孤詠」自筆原稿 公刊『月映』VII 所収				
253	田中 恭吉	「よるの芽 短詠三十二」自筆原稿 公刊『月映』VII 所収				
254	田中 恭吉	「春初春終」「白日傾聴」「亡者奔馳」「療院低唱」自筆原稿 公刊『月映』VII 所収				
255	田中 恭吉	「血の洗礼」自筆原稿 公刊『月映』VII 所収				
256	恩地 孝四郎	「月映社作品小聚」4 リーフレット	1915(大正4)年10月22日頃	木版、紙	13.8×19.3	
257	恩地 孝四郎	「月映社作品小聚」4 リーフレット	1915(大正4)年10月22日頃	木版、紙	14.5×19.4	
258	恩地 孝四郎	月映社第一回配布自摺版画 たとう				
259	藤森 静雄	絵葉書集「顔」たとう、絵葉書3点	1915(大正4)頃	木版、紙	15.8×10.0×0.3たとう	
260	藤森 静雄	絵葉書集「顔」[左向き]	1915(大正4)頃	木版、紙	14.0×9.0	
261	藤森 静雄	絵葉書集「顔」[正面]	1915(大正4)頃	木版、紙	14.0×9.0	
262	藤森 静雄	絵葉書集「顔」[右向き]	1915(大正4)頃	木版、紙	14.0×9.1	
263		月映社 えはがき三種 I たとう、目次、絵葉書3点	1914-1915(大正3-4)	木版、紙	15.2×9.4×0.2	個人蔵
264		月映社 えはがき三種 I 目次	1914-1915(大正3-4)	木版、紙		個人蔵
265	田中 恭吉	月映社 えはがき三種 I 夕	1914-1915(大正3-4)	木版、紙	14.0×9.0	個人蔵
266	藤森 静雄	月映社 えはがき三種 I ひとみ	1914-1915(大正3-4)	木版、紙	14.0×9.0	個人蔵
267	恩地 孝四郎	月映社 えはがき三種 I スフィンクス	1914-1915(大正3-4)	木版、紙	14.2×9.1	個人蔵
268	恩地 孝四郎	港屋展覧会ポスター	1914(大正3)	木版、紙	53.2×20.2/58.4×24.2	
269	竹久 夢二	新當座当り狂言 彌治郎の忠兵衛 福助の梅川 みなどや版	1914(大正3)	木版、紙	38.8×25.9	
270	恩地 孝四郎	公刊『月映』II ポスター	1914(大正3)	木版、紙	30.2×18.5/33.7×26.1	
271	恩地 孝四郎	公刊『月映』II ポスター	1914(大正3)	木版、紙	29.6×18.6/35.4×25.8	
272	恩地 孝四郎	公刊『月映』II ポスター図案	1914(大正3)	木版、紙	15.9×19.4/21.8×26.2	
273	恩地 孝四郎	「人形」		木版、紙	14.2×9.4/15.6×12.5	
274	田中 恭吉	そここのみかややくひかり 公刊『月映』II	1914(大正3)年11月10日発行	木版、紙(二折)	9.2×9.2/25.7×19.1	
275	田中 恭吉	ひそめるもの。公刊『月映』II	1914(大正3)年11月10日発行	木版(機械刷り)、紙	20.5×15.2/26.7×19.7	
276	藤森 静雄	夜のピアノ 公刊『月映』II	1914(大正3)年11月10日発行	木版、紙(二折)	14.8×15.0/26.3×19.3	
277	藤森 静雄	ピアノと木 公刊『月映』II	1914(大正3)年11月10日発行	木版(機械刷り)、紙	12.8×12.3/26.6×19.5	
278	藤森 静雄	妹は病みぬ 公刊『月映』II	1914(大正3)年11月10日発行	木版(機械刷り)、紙	19.6×9.0/26.7×19.6	
279	藤森 静雄	こころのかけ 公刊『月映』II	1914(大正3)年11月10日発行	木版(機械刷り)、紙	17.7×9.1/26.2×19.2	
280	藤森 静雄	わがかけ 公刊『月映』II	1914(大正3)年11月10日発行	木版(機械刷り)、紙	13.2×13.5/26.7×19.5	
281	恩地 孝四郎	底のくるしみ 公刊『月映』II 所収の別摺り	1914(大正3)	木版、紙	13.5×13.5/26.7×19.6	
282	恩地 孝四郎	底のくるしみ 公刊『月映』II	1914(大正3)年11月10日発行	木版、紙	13.4×13.5/26.0×19.5	
283	恩地 孝四郎	抒情II 公刊『月映』II	1914(大正3)年11月10日発行	木版(機械刷り)、紙	20.5×14.2/26.7×19.9	
284	恩地 孝四郎	抒情VIII(われいかる) 公刊『月映』II	1914(大正3)年11月10日発行	木版(機械刷り)、紙	19.4×13.6/26.7×20.0	
285	恩地 孝四郎	抒情IX(のぞみすてず) 公刊『月映』II	1914(大正3)年11月10日発行	木版(機械刷り)、紙	19.6×13.4/26.2×20.0	
286	藤森 静雄	公刊『月映』III ポスター	1914(大正3)	木版、紙	38.0×19.8/49.3×23.2	
287	藤森 静雄	公刊『月映』III ポスター図案	1914(大正3)	木版、紙	22.5×19.5/37.7×26.0	
288	田中 恭吉	冬虫夏草 公刊『月映』III	1914(大正3)年12月16日発行	木版(機械刷り)、紙	15.7×13.0/16.0×13.3	
289	恩地 孝四郎	裸形のくるしみ III 公刊『月映』III	1914(大正3)年12月16日発行	木版(機械刷り)、紙	20.0×7.9/26.4×19.6	
290		『月映』IV の広告『白樺』第6年4月号(1915年4月1日発行)掲載		印刷、紙		
291	恩地 孝四郎	公刊『月映』IV ポスター	1915(大正4)	木版、紙	22.4×19.0/50×23.5	
292	恩地 孝四郎	死によりてあげらるる生 公刊『月映』IV 扉絵の手摺	1915(大正4)	木版、紙	12.5×10.5/19.4×13.6	
293	田中 恭吉	詩歌集「そがれゆくぬくみ」埋葬 公刊『月映』IV 所収の原画	1914(大正3)	インク・金彩、紙	14.5×10.0/19.3×12.4	
294	恩地 孝四郎	おさむるものと地の哀傷 公刊『月映』IV	1915(大正4)年1月28日発行	木版(機械刷り)、紙	14.4×12.5/25.5×19.0	
295	恩地 孝四郎	とぶものつけるもの 公刊『月映』IV	1915(大正4)年1月28日発行	木版(機械刷り)、紙	16.5×12.7/25.5×18.9	
296	恩地 孝四郎	そらよりくだるかけ 公刊『月映』IV	1915(大正4)年1月28日発行	木版(機械刷り)、紙	12.4×10.7/25.5×18.9	
297	恩地 孝四郎	『月映』V の広告『白樺』第6年2月号(1915年2月1日発行)掲載		印刷、紙		
298	恩地 孝四郎	「抒情」五種 太陽額に照る 公刊『月映』V	1915(大正4)年3月7日発行	木版(機械刷り)、紙	14.3×12.5/26.4×19.6	
299	恩地 孝四郎	「抒情」五種 生はさみし夜半目ざめて泪ながれながら 公刊『月映』V	1915(大正4)年3月7日発行	木版(機械刷り)、紙	12.4×12.4/26.4×19.7	
300	恩地 孝四郎	「抒情」五種 苦悩のうちに光る 公刊『月映』V	1915(大正4)年3月7日発行	木版(機械刷り)、紙	13.6×8.3/26.4×19.7	
301	恩地 孝四郎	抒情 苦悩のうちに光る 公刊『月映』V 所収の手摺り	1915(大正4)	木版、紙	13.6×8.5	個人蔵
302	恩地 孝四郎	「抒情」五種「あかるい時」 公刊『月映』V	1915(大正4)年3月7日発行	木版(機械刷り)、紙	13.6×9.8/26.4×19.8	
303	恩地 孝四郎	「抒情」五種 くるしみのうち懐に入るものあり 公刊『月映』V	1915(大正4)年3月7日発行	木版(機械刷り)、紙	12.7×9.1/26.4×19.6	
304	恩地 孝四郎	『月映』VI の広告『白樺』第6年4月号(1915年4月1日発行)掲載		印刷、紙		
305	恩地 孝四郎	公刊『月映』VI ポスター	1915(大正4)	木版、紙	35.7×26.0	
306	恩地 孝四郎	公刊『月映』VI 表紙	1915(大正4)	木版、紙	25.6×19.0/27.2×20.4	個人蔵
307	恩地 孝四郎	抒情 いとなみ祝福せらる 公刊『月映』VI 所収の手摺り	1915(大正4)	木版、紙	13.6×9.7/14.1×10.2	
308	恩地 孝四郎	「抒情」五種 1. いとなみ祝福せらる	1915(大正4)年5月5日発行	木版(機械刷り)、紙	13.8×9.7/26.6×19.7	
309	恩地 孝四郎	「抒情」五種 2. 相信するころ	1915(大正4)年5月5日発行	木版(機械刷り)、紙	13.4×9.7/26.7×20.1	
310	恩地 孝四郎	「抒情」五種 3. 惹に泪す	1915(大正4)年5月5日発行	木版(機械刷り)、紙	13.8×9.5/26.6×19.7	
311	恩地 孝四郎	「抒情」五種 4. 躍る	1915(大正4)年5月5日発行	木版(機械刷り)、紙	13.2×9.7	
312	恩地 孝四郎	抒情 躍る 公刊『月映』VI 所収の手摺り	1915(大正4)	木版、紙	13.3×9.7	
313	田中 恭吉	『月映』のマーク	1915(大正4)年2月11日頃	インク、紙	4.3×4.5/5.9×6.7	
314	田中 恭吉	「香山小鳥のこと」草稿 *裏面にペン画[雲間の光]	1915(大正4)年2月頃	インク、紙	16.5×10.3	

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵／備考
315	恩地 孝四郎	告別 公刊『月映』VII 扉絵	1915(大正4)年11月1日発行	木版(機械刷り)、紙	10.5×9.7/26.5×19.7	
316	田中 恭吉	絢はれゆく歓喜と悲愁 公刊『月映』VII所収の別摺り	1915(大正4)	木版、紙	12.0×17.9/12.3×18.3	
317	田中 恭吉	絢はれゆく歓喜と悲愁 公刊『月映』VII所収の自摺り	1915(大正4)年1月17日	木版、紙	12.0×17.9/18.7×21.5	
318	田中 恭吉	大槻憲二あて葉書「絢はれゆく歓喜と悲哀」	1915(大正4)年1月7日表書	インク・鉛筆、紙	13.9×8.8/14.1×9.1	
319	田中 恭吉	地上の幸福者	1915(大正4)頃	木版、紙	18.1×12.0/25.2×17.4	
320	田中 恭吉	劫初の一入	1915(大正4)頃	木版、紙	18.1×12.1/25.2×17.4	
321	恩地 孝四郎	「抒情」五種 -わかれとのぞみと-[1] 公刊『月映』VII	1915(大正4)年11月1日発行	木版(機械刷り)、紙	15.3×12.1/26.4×19.9	
322	恩地 孝四郎	「抒情」五種 -わかれとのぞみと-[2] 公刊『月映』VII	1915(大正4)年11月1日発行	木版(機械刷り)、紙	13.6×9.8/26.6×20.2	
323	恩地 孝四郎	「抒情」五種 -わかれとのぞみと-[3] 公刊『月映』VII	1915(大正4)年11月1日発行	木版(機械刷り)、紙	13.8×9.7/26.5×20.3	
324	恩地 孝四郎	「抒情」五種 -わかれとのぞみと-[4] 公刊『月映』VII	1915(大正4)年11月1日発行	木版(機械刷り)、紙	14.2×9.8/26.5×20.0	
325	恩地 孝四郎	「抒情」五種 -わかれとのぞみと-[5] 公刊『月映』VII	1915(大正4)年11月1日発行	木版(機械刷り)、紙	14.2×9.8/26.5×20.1	
326	恩地 孝四郎	「抒情」五種 -わかれとのぞみと- 公刊『月映』VII 所収の手摺り	1915(大正4)	木版、紙	13.6×9.8/13.8×10.0	
327	恩地 孝四郎	スフィンクス 月映社 ぬはがき三種 I	1914-1915(大正3-4)	木版、紙	14.1×9.1	
328	藤森 静雄	「顔」*「月映社月次小聚」出品	1915(大正4)年6月6日	コンテ、紙	30.2×23.1	個人蔵
329	田中 恭吉	陽光に光りとふ小鳥ら。 *「月映社月次小聚」出品	1915(大正4)	インク・彩色、紙	15.5×10.9/25.9×17.4	
330	田中 恭吉	「植物園」*「月映社月次小聚」出品		鉛筆・インク・彩色、紙	15.65×22.9/17.4×25.9	
331	田中 恭吉	「風景」*「月映社月次小聚」出品		インク、紙	15.0×23.5/17.4×25.9	
332	田中 恭吉	「風景」*「月映社月次小聚」出品		インク、紙	21.6×14.4/22.4×16.0	
333	恩地 孝四郎	「自画像」*恩地は7月20日に東京美術学校からの放校通知を受け取った	1915(大正4)年7月24日	インク、紙	13.2×7.7/18.6×10.0	個人蔵
334	恩地 孝四郎	上騰	1915(大正4)年6月	インク・金彩、紙	16.2×12.3/17.0×12.9	個人蔵
335	恩地 孝四郎	悔恨と水 第二作	1915(大正4)年6月	インク、紙	14.3×11.0/17.2×13.0	
336	恩地 孝四郎	「ドローイング」	1915(大正4)年7月3日	インク、紙	11.7×9.8/18.8×14.2	
337	恩地 孝四郎	「ドローイング」	1915(大正4)頃	インク、紙	13.5×12.3/14.0×12.8	個人蔵
338	恩地 孝四郎	「ドローイング」	1915(大正4)頃	インク・着彩、紙	16.3×13.3/17.5×14.0	個人蔵
339	恩地 孝四郎	「ドローイング」	1915(大正4)頃	インク、紙	14.1×12.7	個人蔵
310	恩地 孝四郎	「ドローイング」	1915(大正4)頃	インク・金彩、紙	13.6×11.9/14.1×12.8	個人蔵
311	恩地 孝四郎	「ドローイング」	1915(大正4)頃	インク、紙		個人蔵
312	恩地 孝四郎	芽になること 文芸雑誌『SNAKE』第4年5月號(1918年5月1日発行) 扉絵	1915-1918(大正4-7)	インク、紙	9.0×8.9/9.5×9.4	個人蔵
313	田中 恭吉	「心原幽趣 I」表紙	1915(大正4)	インク・金彩、紙	19.2×29.3	
314	田中 恭吉	「心原幽趣 I」II 序詞	1915(大正4)	インク・金彩、紙	19.2×14.6	
315	田中 恭吉	「心原幽趣 I」I 扉繪 萌芽	1915(大正4)	金彩、紙	4.3×4.3/19.3×14.6	
316	田中 恭吉	「心原幽趣 I」III 意志と災害 第一	1915(大正4)	インク、紙	15.2×10.7/19.3×14.6	
317	田中 恭吉	「心原幽趣 I」IV 意志と災害 第二	1915(大正4)	インク・金彩、紙	15.2×10.7/19.3×14.6	
318	田中 恭吉	「心原幽趣 I」V 悔恨 第一	1915(大正4)	インク・金彩、紙	15.2×10.7/19.3×14.6	
319	田中 恭吉	「心原幽趣 I」VI 悔恨 第二	1915(大正4)	インク・金彩・鉛筆、紙	15.2×10.7/19.3×14.6	
320	田中 恭吉	「心原幽趣 I」VII 墓場	1915(大正4)	インク・鉛筆、紙	15.2×10.7/19.3×14.6	
321	田中 恭吉	「心原幽趣 I」VIII 智慧咲く	1915(大正4)	インク・金彩・鉛筆、紙	15.2×10.7/19.3×14.7	
322	田中 恭吉	「心原幽趣 I」IX なやみのうちに栄光をみる	1915(大正4)	インク・鉛筆、紙	15.1×10.8/19.3×14.6	
323	田中 恭吉	「心原幽趣 I」X 魂の手もて現身を葬むる	1915(大正4)	インク・金彩・鉛筆、紙	15.1×10.8/19.3×14.6	
324	田中 恭吉	「心原幽趣 I」XI わが死ぬ日を数ふる魔	1915(大正4)	インク・金彩・鉛筆、紙	15.2×10.6/19.3×14.6	
325	田中 恭吉	「心原幽趣 I」XII 懈怠	1915(大正4)	インク・金彩、紙	15.2×11.0/19.3×14.6	
326	田中 恭吉	「心原幽趣 I」XIII うすきなやみ	1915(大正4)	インク、紙	15.1×10.8/19.2×14.6	
327	田中 恭吉	「心原幽趣 I」XIV 清飲	1915(大正4)	インク・金彩、紙	15.2×10.8/19.3×14.6	
328	田中 恭吉	「心原幽趣 I」XV 地上の幸福者	1915(大正4)	インク、紙	15.3×10.8/19.3×14.6	
329	田中 恭吉	「心原幽趣 I」XVI 夜のおそれ 第一	1915(大正4)	インク・鉛筆、紙	15.2×10.7/19.3×14.6	
330	田中 恭吉	「心原幽趣 I」XVII 夜のおそれ 第二	1915(大正4)	インク・金彩、紙	15.2×10.7/19.3×14.6	
331	田中 恭吉	「心原幽趣 I」XVIII 目次	1915(大正4)	金彩、紙	19.3×14.0	個人蔵
IV 月に吠える						
332	藤森 静雄	田中恭吉遺作展覧会目録表紙・裏表紙	1915(大正4)	木版、紙	13.7×9.7	
333	藤森 静雄	Der Tod		木版、紙	24.5×21.8/28.9×24.2	
334	藤森 静雄	Der Tod		木版、紙	24.8×16.9/28.6×19.2	
335	藤森 静雄	Der Tod		木版、紙	25.2×17.7/28.6×19.2	
336	[藤森 静雄]	田中恭吉遺作展覧会ポスター	1915(大正4)年11月頃	木版、紙	16.3×16.1/47.0×29.5	
337	田中 恭吉	画稿より 萩原朔太郎著『月に吠える』口絵の校合摺り	1915(大正3)原画/ 1917(大正6)	木版、紙	14.2×8.6/21.4×14.3	
338	田中 恭吉	葉包紙画稿[実のおかしさ]	1915(大正4)	インク、紙	11.3×11.8	
339	田中 恭吉	画稿より『月に吠える』初版		コロタイプ、紙		
340	田中 恭吉	萩原朔太郎著『月に吠える』初版 挿画 田中恭吉・恩地孝四郎／装幀 恩地孝四郎	1917(大正6)年2月15日発行	書籍	20.1×14.0×2.8	



ポスター



会場風景

2-1. 企画展「土が開いた現代 革新するやきもの」

会期 : 2024(令和6)年4月27日(土)–6月30日(日) 65日間・うち休館9日

会場 : 展示室C(2階)

主催 : 和歌山県立近代美術館

入場者数 : 5,031名

内容 : 20世紀後半の京都を中心に試みられた陶による多彩な表現を当館コレクションにより紹介した。林康夫、八木一夫、山田光、鈴木治など、四耕会から走泥社、その後の世代の作家による作品を採り上げ、時代による表現の変遷、素材と形との葛藤、個々の作家の持続的な探求を陶の中に見出そうとした。

展示点数 : 30作家113点

担当学芸員 : 奥村泰彦

関連事業 : ・担当学芸員によるレクチャー 4月27日(日)参加15人、5月3日(金・祝)参加8人、5月6日(月・振休)参加16人、5月26日(日)参加8人、6月30日(日)参加22人

・こども美術館部 5月4日(土・祝)、5月5日(日・祝) *詳細は64-65頁

制作物 : ・ポスター(B2判、オフセット印刷)

・チラシ(A4判、オフセット印刷)

・プレスリリース(A4判4頁)

・出品目録(A4判8頁)

入場料金 : 一般520(410)円、大学生300(260)円 ()内は20名以上の団体料金

成果・課題 : サブタイトルを「茶碗ちやうで」と工夫した。第二次世界大戦後の京都を中心に陶芸の技術によって現代的な造形の試みが生まれ、今日まで新たな表現が生み出されていることをほぼ収蔵作品のみで示すことができた。立体作品の展示はキャプションと作品の関係が把握しづらい所があるため、配布した出品目録には作品の画像を掲載した。作品に合った展示台を揃えることが難しく、展示が単調になった点は今後の課題である。会期中には近畿圏で陶芸に取り組む美術系大学から団体での来館もあり(京都市立芸術大学・大阪芸術大学6月22日参加35名)、1950年代からの歴史を次の世代に引き継ぐことができた。また南野馨の作品は収蔵につながることができたが、歴史的に見ると80年代で収蔵が途切れているため、それ以降の作家や作品の紹介と収集が今後の課題である。

関連記事 : ・豆塚円香「前衛陶芸の企画展」『読売新聞』2024年4月27日、25面

・松本博子「やきもの 世界変わる?! 革新的アート作品113点」『毎日新聞(和歌山版)』2024年5月9日、16面

・榊原織和「陶芸=茶わん」にあらす 革新に挑む30人113点」『朝日新聞(和歌山版)』2024年5月10日、17面

・「企画展「土が開いた現代 革新するやきもの」土が開いた現代 革新するやきもの」『和歌山文化情報誌 ワカビー 2024年4・5・6月号 Vol. 111』2024年4月1日、8面

・今岡竜弥「〈考座 culture〉360度展示工夫*「アール・ブリュット」企画」『読売新聞(夕刊)』2024年5月30日、2面

・「前衛陶芸展30人の力作」『読売新聞』2024年6月6日、25面

・正木利和「工芸から芸術への歩み」『産経新聞(夕刊)』2024年6月21日、4面

・小吹隆文「関西の陶芸展 1. 土が開いた現代 革新するやきもの」『陶説 No. 852 2024年8月号』2024年7月29日、73-77頁

出品目録

*特に記載のない作品は当館蔵

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵/備考
1. 前衛陶芸の誕生—1940-50年代						
1	林 康夫	人体	1950(昭和25)	陶	46.0×23.0×18.5	
2	林 康夫	作品	1949(昭和24)	テラコッタ	33.0×23.5×21.5	作者寄贈
3	林 康夫	作品 51-3	1951(昭和26)	テラコッタ	32.0×27.0×49.0	作者寄贈
4	林 康夫	作品(弧)	1955(昭和30)	陶	39.5×34.0×24.3	
5	山田 光	作品	1956(昭和31)	陶	31.5×33.5×27.0	作者寄贈
6	山田 光	作品	1956(昭和31)	陶	20.2×35.0×22.3	
7	熊倉 順吉	作品	1956(昭和31)	陶	57.0×51.0×45.0	
8	森野 泰明	二つの惑星[部分]	1958(昭和33)	陶	11.5×27.0×21.0	作者寄贈
9	鈴木 治	土偶 野武士	1959(昭和34)	陶	43.0×26.0×18.0	
2. 前衛陶芸の展開—1960年代						
10	森野 泰明	WORK 61-2	1961(昭和36)	陶、銅板、木	67.5×65.5×22.0	作者寄贈
11	柳原 睦夫	鳩巢	1963(昭和38)	陶	61.5×41.0×26.0	
12	川上 力三	雲の記憶	1960(昭和35)	陶	107.0×50.0×48.0	作者寄贈
13	宮永 理吉(三代・東山)	寓	1963(昭和38)	陶	56.0×81.0×26.0	作者寄贈
14	林 康夫	[無題]	1963(昭和38)	陶	44.0×20.0×16.0	作者寄贈
15	熊倉 順吉	作品	1964(昭和39)	陶	49.6×38.5×38.0	
16	山田 光	館	1964(昭和39)	陶	32.8×28.0×26.0	
17	林 康夫	作品 66-21	1966(昭和41)	陶	35.0×35.0×28.5	
18	佐藤 敏	失題	1966(昭和41)	陶	21.0×21.0×23.5	作者寄贈
19	森野 泰明	碑	1970(昭和45)	陶	32.5×26.5×26.0	
3. イメージの拡張:日常の理(ことわり)—1970年代						
20	宮下 善爾	胎座	1970(昭和45)	陶	50.5×42.0×31.0	宮下英子氏寄贈
21	宮永 理吉(三代・東山)	4つの円筒	1970(昭和45)	陶	29.0×34.0×27.0	作者寄贈
22	林 秀行	作品	1969(昭和44)	陶	28.0×51.0×5.5	作者寄贈
23	林 秀行	作品	1972(昭和47)	磁	31.0×19.5×23.5	
24	林 秀行	美容体操	1973(昭和48)	磁	31.0×20.5×11.9	

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵／備考
25	林 秀行	あいさつ	1976(昭和51)	磁	41.0×11.5×19.0	
26	荒木 高子	無精卵	1973(昭和48)	茶陶	38.0×48.0×36.0	
27	荒木 高子	無精卵	1975(昭和50)	陶	48.0×57.0×46.0	
28	熊倉 順吉	秘められた欲望	1972(昭和47)	陶	54.7×34.0×16.5	
29	八木 一夫	奇偶	1973(昭和48)	黒陶	34.4×28.0×21.2	
30	佐藤 敏	唐草マン	1973(昭和48)	陶	44.0×26.5×30.0	作者寄贈
31	林 康夫	Face	1973(昭和48)	陶	40.0×38.5×26.0	作者寄贈
32	林 康夫	肖像 又は ゲート	1974(昭和49)	陶	46.0×27.0×30.0	
33	林 康夫	昼下り	1977(昭和52)	陶	24×50.5×43.5	作者寄贈
34	三島 喜美代	パッケージ	1974(昭和49)	シルクスクリーン、陶(2点)	13.5×23.0×22.0 9.5×12.5×14.5	
35	三島 喜美代	パッケージ	1974(昭和49)	シルクスクリーン、陶	14.0×35.0×27.0	
36	三島 喜美代	パッケージ	1975(昭和50)	シルクスクリーン、陶	49.0×22.0×17.0	作者寄贈
37	川上 力三	作品	1974(昭和49)	陶	38.3×20.0×20.0	
38	柳原 睦夫	褐釉金彩花瓶 カリフォルニアシャワー	1975(昭和50)	陶	38.4×56.8×22.7	
39	山田 光	消えゆく壺	1976(昭和51)	陶	42.8×34.5×17.5	
40	山田 光	陶面の中の数字	1976(昭和51)	陶	53.5×34.0×7.0	
41	八木 一夫	陰気な暦	1977(昭和52)	黒陶	30.4×30.6×7.8	
4. 土の可能性への挑戦—1980年代						
42	星野 暁	表層・深層	1979(昭和54)	黒陶	17.0×135.0×47.0	
43	星野 暁	表層・深層	1979(昭和54)	黒陶	17.0×135.0×47.0	作者寄贈
44	宮下 善爾	無題	1980(昭和55)	陶	55.5×13.0×14.0 51.5×13.0×14.0	宮下英子氏寄贈
45	林 康夫	無題	1980(昭和55)	陶	34.0×27.0×15.0	作者寄贈
46	柳原 睦夫	風の十字路	1979(昭和54)頃	陶	32.0×33.5×28.0	
47	佐藤 敏	レッド・ゾーンB	1979(昭和54)	陶	51.5×81.0×11.0	
48	佐藤 敏	Gメン	1982(昭和57)	陶、金属	38.0×34.5×25.5	作者寄贈
49	佐藤 敏	失題	1982(昭和57)頃	陶、金属	27.5×20.0×25.5	作者寄贈
50	佐藤 敏	顔	1983(昭和58)	陶、金属	56.5×52.0×16.3	
51	林 秀行	鳥のシリーズ—二度めの恋	1983(昭和58)	黒陶	59.3×42.1×14.3	
52	山田 光	黒陶	1982(昭和57)	陶	56.6×28.5×9.0	
53	山田 光	窓	1983(昭和58)	陶	50.0×46.5×12.0	
54	荒木 高子	頽廃の聖書	1983(昭和58)	シルクスクリーン、磁土	14.5×22.3×20.3	
55	荒木 高子	砂の聖書	1983(昭和58)	シルクスクリーン、シャモット、砂	18.0×64.0×46.0	
56	川上 力三	座考シリーズ—空中楼閣—	1983(昭和58)	陶	60.0×50.0×57.5	
57	宮永 理吉(三代・東山)	同行の二人	1984(昭和59)	陶	41.6×32.0×10.6	
58	林 康夫	Focus VI-B	1984(昭和59)	陶	34.5×38.5×38.5	
59	林 康夫	Work(角)	1986(昭和61)	陶	27.5×64.5×64.0	作者寄贈
60	金子 調	DANGO Untitled	1985(昭和60)	陶	57.0×72.0×53.0	
61	熊倉 順吉	ミュージシャン	1984(昭和59)	陶	42.0×23.0×10.5	
62	熊倉 順吉	作品	1984(昭和59)	陶	37.0×40.0×22.0	
63	熊倉 順吉	ブラックミュージック	1984(昭和59)	陶	41.5×25.0×13.0	
64	鈴木 治	馬	1984(昭和59)	陶	74.6×48.9×23.0	
65	鈴木 治	太陽のシグナル	1984(昭和59)	陶	61.5×51.0×17.0	
66	森野 泰明	WORK 86-14	1986(昭和61)	陶	92.2×89.3×6.8	
67	秋山 陽	主のない領域	1986(昭和61)	黒陶、鉄	66.0×150.0×100.0	
5. 装飾の再定義—1980年代後半から						
68	笹山 忠保	かたやね	1986(昭和61)	陶	63.0×40.3×22.0	作者寄贈
69	柳原 睦夫	雲気紋笑口壺	1986(昭和61)	陶	51.0×47.0×25.5	
70	川上 力三	遍路者	1988(昭和63)	陶	52.0×38.0×39.5	
71	宮永 理吉(三代・東山)	天竺から	1987(昭和62)	磁	34.5×20.0×17.5	
72	宮永 理吉(三代・東山)	台密の屋根	1987(昭和62)	磁	26.0×37.0×17.0	作者寄贈
73	清水 枢博(八代・六兵衛)	WORK 87-A	1987(昭和62)	陶	29.0×135.0×156.0	
74	宮下 善爾	存在の意味	1986(昭和61)	陶	40.0×64.0×32.5	宮下英子氏寄贈
75	宮下 善爾	牡丹(元禄)	1990(平成2)	陶	23.5×48.0×48.0	宮下英子氏寄贈
76	宮下 善爾	牡丹(現代)	1990(平成2)	陶	39.5×45.5×45.5	宮下英子氏寄贈
77	宮下 善爾	通過する風	1994(平成6)	陶	47.5×50.0×19.0	宮下英子氏寄贈
78	坪井 明日香	唐織追想	1990(平成2)	陶	63.0×44.0×34.0	
79	中村 錦平	土瓶メタモルフォーゼ 1・2・3	1988(昭和63)	陶(3点)	14.0×33.0×15.0 20.0×19.6×12.0 29.3×28.5×14.7	
80	井上 雅之	T-9216	1992(平成4)	陶	216.0×246.0×179.0	
81	中村 康平	Resurrection	1991(平成3)	陶	55.0×52.5×40.0	
6. 素材への問い—1990年代以降						
82	西村 陽平	百科事典につぶされた松本清張	1990(平成2)	紙	14.0×30.0×20.0	
83	西田 潤	No.3-A 絶	2001(平成13)	磁土、釉薬	74.0×74.0×66.0	田中恒子氏寄贈
84	長谷川 直人	plant	1994(平成6)	陶、金属	45.0×17.0×14.0	田中恒子氏寄贈
85	長谷川 直人	plant	1994(平成6)	陶、金属	36.0×19.0×33.5	田中恒子氏寄贈
86	長谷川 直人	ただそこにあるもの	2000(平成12)	陶、金属	20.0×9.0×13.0	田中恒子氏寄贈
87	堀 香子	Rooms for Water	1996(平成8)	陶	20.0×28.0×19.0	田中恒子氏寄贈
88	堀 香子	あまねく その指で	2011(平成23)	陶	33.0×34.0×36.0	田中恒子氏寄贈
89	秋山 陽	META-VOID	2004(平成16)	陶	130.0×125.0×136.0	寄贈
90	林 康夫	Appear Brown	1992(平成4)	陶	33.0×33.0×35.0	作者寄贈
91	林 康夫	[無題]	1993(平成5)	陶	33.0×40.0×29.0	作者寄贈
92	林 康夫	[無題]	1998(平成10)	陶	31.0×38.0×28.0	作者寄贈
93	林 康夫	寓舎「祭事-1」	2005(平成17)	陶	28.0×25.0×20.0	作者寄贈

No.	作者名	作品名	制作年	材質/技法	寸法(cm)	所蔵/備考
94	林 康夫	寓舎「白のスペース」	2008(平成20)	陶	32.5×15.0×14.0	作者寄贈
95	林 康夫	寓舎「記憶の表裏」	2014(平成26)	陶	35.0×29.0×12.5	作者寄贈
96	林 康夫	[無題]	2018(平成30)	陶	25.0×22.5×16.0	作者寄贈
97	山野 千里	ファミリーバックバックカー	2008(平成20)	陶	5.0×3.8×4.5	田中恒子氏寄贈
98	山野 千里	ヒョウモントカゲモドキダンス	2008(平成20)	陶	4.5×12.0×6.5	田中恒子氏寄贈
99	山野 千里	ひそひそ話	2008(平成20)	陶(2点)	3.0×3.0×1.5虎上老人 3.5×4.0×3.0若者	田中恒子氏寄贈
100	山野 千里	バランスマトリョーシカ	2008(平成20)	陶	6.5×6.0×3.5人物/ 8.5×8.0×1.5布団	田中恒子氏寄贈
101	山野 千里	足もそれなりに力 入れてくれませんか?	2008(平成20)	陶	5.5×3.0×3.0	田中恒子氏寄贈
102	山野 千里	ゾウガメの穴		陶	6.5×5.5×4.0	田中恒子氏寄贈
103	山野 千里	アカジンカヤック(黄)	2008(平成20)	陶	6.5×11.5×7.5	田中恒子氏寄贈
104	山野 千里	ヒラメサーファー		陶	4.0×9.0×4.5	田中恒子氏寄贈
105	山野 千里	アカジンカヤック(ピンク)	2008(平成20)	陶	7.0×11.0×5.5	田中恒子氏寄贈
106	岩村 達	お家	2013(平成25)	陶(5点)	12.0×11.0×12.0 19.0×14.0×17.0 19.0×18.0×12.0 11.0×19.0×15.0 11.0×13.0×16.0	田中恒子氏寄贈
107	南野 馨	untitled 1402	2014(平成26)	陶	146.0×152.0×152.0	個人蔵



ポスター



チラシ 表/裏



会場写真

2-2. 企画展「なつやすみの美術館 14 河野愛「こともの、と」

- 会期 : 2024(令和6)年7月13日(土)–9月23日(月・休) 73日間・うち休館10日
 会場 : 展示室C(2階)
 主催 : 和歌山県立近代美術館
 入場者数 : 9,789名
 内容 : 学校教育と連携し、夏休みを利用して児童・生徒が美術館の楽しみ方を学ぶ機会となる展覧会の14回目。新政策「紀南地方の美術館との合同展覧会」のひとつとして田辺市立美術館と協力し、若手作家を取り上げる機会とした。
 招聘作家として、近年「こともの」と題し「異物／異者」の存在に向き合って制作している河野愛(1980-)を迎え、「遺物」としての美術館のコレクションと共に、時代やジャンルにとられない展示を行った。
 熊野古道なかへち美術館(田辺市立美術館分館)では2025年3月20日(水・祝)にワークショップ「くまびで作ろう! 3 つみきの灯台」が実施され、田辺市20周年記念特別展「河野愛 灯台へ、」2025年4月12日(土)–6月8日(日)田辺市立美術館、熊野古道なかへち美術館の開催につながった。
 和歌山美術館教育研究会の取り組みとしてワークシートを制作し、来館者の鑑賞の一助とするとともに、一部中学校の宿題として活用された。また和歌山大学美術館部による鑑賞ガイドを実施した。
- 展示点数 : 34作家63点、資料4点、うち河野作品は12点
 担当学芸員 : 青木加苗
 関連事業 : ・記念対談 小川公代(英文学者、上智大学外国語学部教授)×河野愛 8月10日(土)参加55人
 ・アーティスト・トーク 7月13日(土)参加27人、9月7日(土)参加32人
 ・ギャラリートーク 8月4日(日)参加26人、9月22日(土)参加32人
 ・こども美術館部 9月14日(土)、9月15日(日) *詳細は64-65頁
 ・たまごせんせいとわくわくアートツアー(和歌山大学美術館部による鑑賞ガイド)8月14日(水)–8月18日(日)5日間計15回、参加85人
- 制作物 : ・ポスター(B2判、オフセット印刷)
 ・チラシ(A4判、オフセット印刷)
 ・プレスリリース(A4判4頁)
 ・出品目録(A4判4頁)
 ・ワークシート(A4判4頁)
- 入場料金 : 一般520(410)円、大学生300(260)円 ()内は20名以上の団体料金
 成果・課題 : 参加者を募るプロジェクト型の新作や、会場の構造を活かした展示プランなど、当館における現代作家の展示方法として新たな可能性を見出すこととなった。現代作家の制作コンセプトをその地域性に紐づけ、かつ当館がこれまで蓄積してきたコレクションについての研究知見に基づいて展示を構成することで、当館ならではの現代作家招聘展示を実現することができた。昨今、注目が集まる「コレクション×現代作家」展のあり方としても、他に類を見ないかたちとなったと考える。
- 関連記事 : ・松本博子「河野さん作品に収蔵品取り合わせ…「こともの」との出会いを」『毎日新聞(和歌山版)』2024年7月11日、20面
 ・山田夢留「響き合う「こともの」の世界」『毎日新聞』2024年8月5日、3面
 ・正木利和「優しく懐かしく 夏休みの共演」『産経新聞(夕刊)』2024年8月9日、2面
 ・「美術館便り 時代やジャンルの異なる同館所蔵作品とともに楽しむ」『リビング和歌山』2024年8月10日、5面
 ・清水有香「Topics 混ざる「異物」にケアの視点」『毎日新聞(夕刊)』2024年9月4日、4面
 ・清水有香「文化のほとり 「家庭の天使」にとらわれぬ世に」『毎日新聞(夕刊)』2024年10月24日、4面
- 執筆 : ・青木加苗「かわりのプラットフォームとしての展覧会 14年目の「なつやすみの美術館」から」『教育美術 No.991』2025年1月1日、34-35頁
- その他 : ・高嶋慈「なつやすみの美術館14 河野愛「こともの、と」」『artscape』、2024年8月23日、<https://artscape.jp/article/19516/>
- メディア報道 : ・三木学「こともの(異物・異者)である子供・母・アーティストから見た世界(美術館)の再生 河野愛「こともの、と」」『美術評論+』2024年9月16日、<https://critique.aicajapan.com/6657>
 ・清水有香「24色のペン:家庭の天使は死んだのか?」『毎日新聞』2024年10月8日、<https://mainichi.jp/articles/20241007/k00/00m/040/207000c>

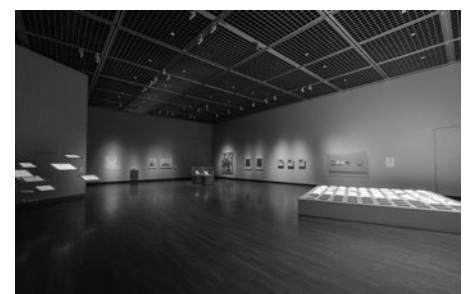
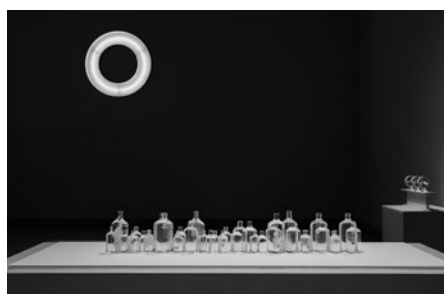
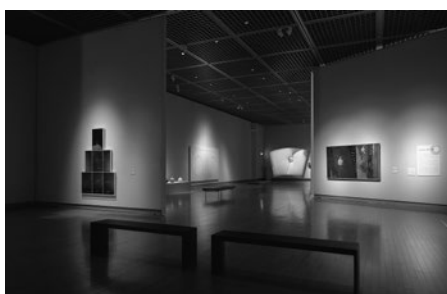
* 以上ウェブ上の情報への最終アクセス日:2025年11月16日

出品目録

*特に記載のない作品は当館蔵

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵/備考
1	河野 愛	〈 I 〉boat	2022 (令和4)	ボート、ネオン看板	145.0×370.0×32.0	作家蔵 *展示室外に展示
ことものI:異物と遺物						
2		白浜温泉「古賀の井」パンフレット	1930年前後	印刷、紙	3種	個人蔵
3	河野 愛	〈 I 〉pillar	2024(令和6)	ネオン看板	548.0×27.5×8.0	作家蔵
4	河野 愛	〈 I 〉opportunity 撮影堀井ヒロツグ	2022(令和4)	映像	17分	作家蔵
5	稗田 一穂	晩夏	1998(平成10)	顔料、紙	190.0×155.0	木原達夫氏寄贈
6	鈴木 理策	海と山のあいだ(14, DK-273)	2014(平成26)	発色現像方式印画	95.2×119.0	作者寄贈
7	鈴木 理策	海と山のあいだ(14, DK-384)	2014(平成26)	発色現像方式印画	95.2×119.0	作者寄贈
8	鈴木 理策	海と山のあいだ(14, DK-450)	2014(平成26)	発色現像方式印画	95.2×119.0	作者寄贈
9	北辻 良央	オリーブ・祈る人	1989(平成元)	鉄、木、石、銅、ステンレススチール	245.0×202.0×52.0	
10	ルイーズ・ニーヴェルソン	北の星	1977-1982(昭和52-57)	木、着色	278.0×213.3×48.2	
11	ロジャー・アックリング	ノーフォーク	1988(昭和63)	木、太陽光線	69.2×5.0×3.9	
12	マーク・ロスコ	赤の上の黄褐色と黒	1957(昭和32)	油彩、キャンバス	176.2×136.6	

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵／備考
13	野村 仁	自転と重力	1982-84(昭和57-59)	写真	178.0×119.6	
14	原 勝四郎	綱不知	制作年不詳	油彩、厚紙	23.5×33.1	玉井一郎氏寄贈
15	原 勝四郎	綱不知	制作年不詳	油彩、厚紙	23.5×33.1	玉井一郎氏寄贈
16	岡田 謙三	入江	1959(昭和34)	油彩、キャンバス	189.0×155.5	
ことものII:異物と異者						
17	河野 愛	a pearl	2021(令和3)		φ20.0(球)	作家蔵
18	河野 愛	こともの foreign object (clock)	2024(令和6)	インスタレーション	45秒ループ	作家蔵
19	河野 愛	こともの foreign object (clockのための)	2024(令和6)	アクリル板にプリント	φ30.0×0.5	作家蔵
20	村井 正誠	パンチュール No. 3	1929-33(昭和4-8)	油彩、キャンバス	113.5×194.5	作者寄贈
21	佐藤 時啓	光一呼吸シリーズより #330 Taiji	1998(平成10)／ 2014(平成26)プリント	写真	126.2×103.2	
22	川端 龍子	貝寄函	制作年不詳	顔料、絹	43.1×50.6	青木元治郎氏、 山中嘉子氏寄贈
23	ピナリー・サンピタック	乳房の果実	2005(平成17)	テラコッタ、釉薬	26.0×24.0×24.0	田中恒子氏寄贈
24	ピナリー・サンピタック	乳房の果実	2005(平成17)	テラコッタ、釉薬	26.0×24.0×24.1	田中恒子氏寄贈
25	ピナリー・サンピタック	乳房の果実	2005(平成17)	テラコッタ、釉薬	26.0×24.0×24.2	田中恒子氏寄贈
26	ピナリー・サンピタック	乳房の果実	2005(平成17)	テラコッタ、釉薬	26.0×24.0×24.3	田中恒子氏寄贈
27	高橋 秀	方程式	1976(昭和51)	ラッカー、シリコン、キャンバス	200.0×340.0	個人蔵
28	パプロ・ピカソ	母親の化粧	1905(明治38)／ 1913(大正2)	エッチング、紙	23.7×18.0	個人蔵
29	シンディ・シャーマン	無題 #131	1983(昭和58)	Cプリント	241.5×115.0	
30	三木 富雄	耳	制作年不詳	アルミニウム	23.0×26.5×6.0	
31	齊藤 彩	[無題3]	2004(平成16)	油彩、紙	65.0×50.0	田中恒子氏寄贈
32	齊藤 彩	[無題4]	2004(平成16)	油彩、紙	65.0×50.0	田中恒子氏寄贈
33	齊藤 彩	[無題9]	2004(平成16)	油彩、紙	65.0×50.0	田中恒子氏寄贈
34	齊藤 彩	[無題11]	2004(平成16)	油彩、紙	65.0×50.0	田中恒子氏寄贈
35	三上 誠	環・経絡	1967(昭和42)	顔料、紙	120.9×179.1	
36	堀 浩哉	水の肌へ-83.7	1983(昭和58)	アクリル、岩彩、オイルスティック、キャンバス	227.1×162.4×6.1	
ことものIII:ことものとことば						
37		『真珠の事典』松井桂一著・北隆館発行	1965(昭和40)	印刷、紙		作家蔵
38	河野 愛	100の母と巡ることもの	2021(令和3)-	ライトボックスにプリント、桐箱、アコヤ真珠、撮影依頼書、写真	20.0×20.0×3.0 (各ライトボックスおよび桐箱)	作家蔵
39	河野 愛	letters	2024(令和6)	インスタレーション	60.0×45.0(画板大)／ 45.0×30.0(画板小)	作家蔵
40	野田 哲也	日記 1976年11月18日(a)	1976(昭和51)	木版、シルクスクリーン、紙	47.3×36.7	南村透氏寄贈
41	野田 哲也	日記 1976年11月18日(c)	1976(昭和51)	木版、シルクスクリーン、紙	44.8×64.5	
42	村井 正誠	母と子	1952(昭和27)	油彩、キャンバス	162.3×131.0	作者寄贈
43	上前 智祐	作品	2007(平成19)	銅版、紙	60.0×49.6	作者寄贈
44	上前 智祐	作品	2007(平成20)	銅版、紙	60.0×49.6	作者寄贈
45	ソル・ルウィット	6つの幾何学的図形とそれらのすべての組み合わせ	1980(昭和55)	銅版、紙	各23.8×24.7×4.8 (冊子体2冊組)	
46	建島 覚造	室内 1	1979(昭和54)	木、鏡、鉄	45.0×45.0×8.0	
47	建島 覚造	室内 2	1979(昭和54)	木	45.0×45.0×8.0	
48	建島 覚造	室内 5	1979(昭和54)	木	45.0×45.0×8.0	
49	浅野 弥衛	無題	1967(昭和42)	油彩、キャンバス	72.5×90.8	
50	ジョン・ケージ	Déreau #9	1982(昭和57)	銅版、紙	46.0×63.2	
51	ジョン・ケージ	Déreau #13	1982(昭和57)	銅版、紙	46.6×63.1	
52	ジョン・ケージ	Déreau #16	1982(昭和57)	銅版、紙	46.2×63.1	
53	高松 次郎	英語の単語 (THESE THREE WORDS)	1970(昭和45)	オフセットリトグラフ、紙	78.7×54.4	
54	彦坂 尚嘉	作品	1992(平成4)頃	鉄、クリアラッカー	35.2×30.5×7.6	田中恒子氏寄贈
55	河野 愛	黒い線	1962(昭和37)	油彩、キャンバス	193.8×259.3	
ことものIV:ものどこと						
56	河野 愛	〈O〉	2024(令和6)	ネオン看板	φ137.0×8.0	作家蔵
57	河野 愛	loupe	2024(令和6)	樹脂、真珠	サイズ可変	作家蔵
58	河野 愛	doll hands	2024(令和6)	錫	サイズ可変	作家蔵
59	河野 愛	〈O〉rolling	2024(令和6)	映像	ループ	作家蔵
60	ロジャー・アックリング	ウェイボーン	1993(平成5)	木、太陽光線	59.8×40.2×3.9	
61	太田 三郎	Seed Project Mixture	1994(平成6)	和紙、種子、シャーレ	11.5×11.5×h3.0	田中恒子氏寄贈
62	建島 覚造	FLOATING WAVE(連環)	2004(平成16)	木、真鍮、ウレタン塗料	37.0×60.0×12.0	建島嘉氏寄贈
63	中西 夏之	コンパクト・オブジェ(卵)	1962(昭和37)	ポリエステル樹脂、他	23.5×14.5×14.5	
64	若林 奮	ミズキの一枝	1986(昭和61)	鉄ほか	27.8×22.5×1.9	
65	福岡 道雄	反という字	1990(平成2)	ブロンズ	13.0×49.2×64.5(作品)／ 46.4×67.1×51.5(展示台)	



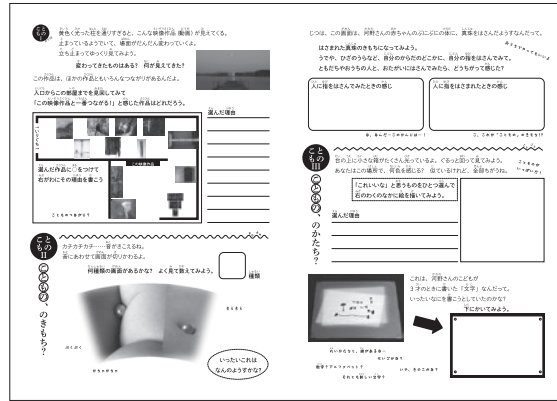
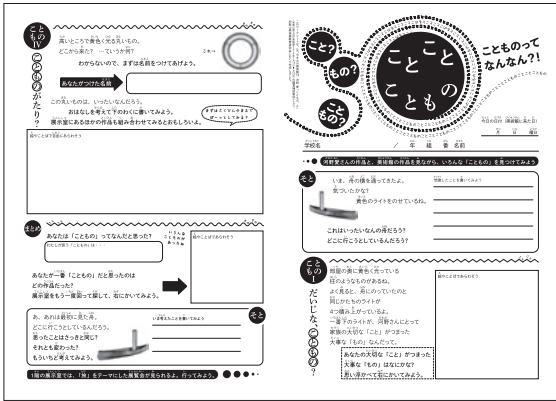
会場風景



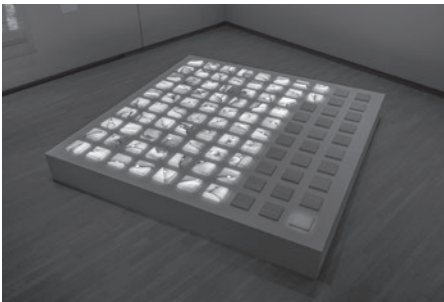
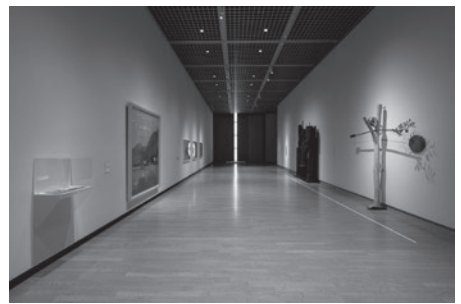
ポスター



チラシ 表/裏



ワークシート 表/裏



会場風景

3-1. コレクション展 2024ー春 特集：小さくていいもの、あり

- 会期 : 2024(令和6)年4月27日(土)ー6月23日(日) 58日間・うち休館8日
 会場 : 展示室A・B(1階)
 主催 : 和歌山県立近代美術館
 入場者数 : 4,333名
 内容 : 特集コーナーとして「小さくていいもの、あり(ます)」を設け、暮らしの中で親しまれ、大事にされてきた時間を想像させるような作品を取り上げて、美術作品と人との距離を近く感じさせる小品特有の魅力を紹介した。
 展示点数 : コレクション54作家106点(展示室外の作品を含む)
 担当学芸員 : 植野比佐見
 制作物 : ・出品目録(A4判8頁)
 ・プレスリリース(A4判4頁)
 入場料金 : 一般350(270)円、大学生240(180)円 ()内は20名以上の団体料金
 成果・課題 : いつもは展示する機会の少ない小品を特集展示とし、大作の構想を練るために作られた小さな試作にこそ作家の手を生々しく感じられることや、小さい作品だからこそ可能となる冒険など、小さな作品のもつ大きな力を多方面から紹介できた。また、佐伯祐三などの作品を中心とした「いつものいいもの、あり(ます)」、フランク・ステラや白髪一雄などの大作を集めた「大きくていいもの、あり(ます)」、新しくコレクションに加わった吉田政次、稗田一穂の作品などを「あたらしくていいもの、あり(ます)」として、あえて単純な視点からあらためてコレクションの魅力を示した。
 関連記事 : ・「県立美術館コレクション展(6/23まで) 小さくていいもの、あり(ます)」『和歌山特報』2024年5月1日、10面
 ・「小さくていいもの、あり(ます) 近代美術コレクション展」『わかやま新報』2024年5月22日、3面

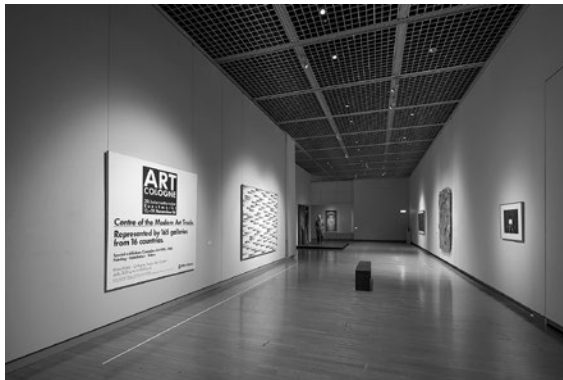
出品目録

*特に記載のない作品は当館蔵

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵/備考
§1 いつものいいもの、あり						
i. 和歌山ゆかりの作家と日本の近代美術・明治から大正へ						
1	神中 糸子	海岸風景	1888-92(明治21-25)	油彩、キャンバス	38.0×80.4	神中茂次氏寄贈
2	神中 糸子	妙義山	1918(大正7)	油彩、キャンバス	60.8×50.0	
3	岸田 劉生	黒き帽子の自画像	1914(大正3)	油彩、板	51.3×39.2	個人蔵
4	高須 光治	自画像	1915(大正4)	油彩、板	45.4×37.3	
5	保田 龍門	自画像	1915(大正4)	油彩、キャンバス	60.9×50.2	
6	萬 鐵五郎	風景	1922(大正11)頃	油彩、キャンバス	33.3×46.0	個人蔵
7	建島 大夢	おゆのつかれ	1913(大正2)／ 1970(昭和45)	ブロンズ	68.0×40.0×56.0	
ii. 佐伯祐三を中心に						
8	碓 伊之助	ブザンソン風景	1924(大正13)	油彩、キャンバス	50.1×60.8	小島善太郎氏寄贈
9	佐伯 祐三	広告のある門	1925(大正14)	油彩、キャンバス	59.9×73.2	玉井一郎氏寄贈
10	佐伯 祐三	レ・ジュド・ノエル	1925(大正14)	油彩、キャンバス	72.3×60.8	玉井一郎氏寄贈
11	佐伯 祐三	カフェ・レストラン	1927(昭和2)	油彩、キャンバス	61.0×50.3	個人蔵
12	佐伯 祐三	オブセルヴァトワール附近	1927(昭和2)	油彩、キャンバス	73.2×91.8	玉井一郎氏寄贈
13	木下 孝則	女優の像	1926(大正15)／昭和元	油彩、キャンバス	91.2×72.9	
iii. アメリカで活動した作家たち						
14	国吉 康雄	乳しぼり	1921(大正10)	油彩、キャンバス	61.0×50.5	
15	清水 登之	ヨコハマ・ナイト	1921(大正10)	油彩、キャンバス	76.2×96.5	
16	石垣 栄太郎	街	1925(大正14)	油彩、キャンバス	126.0×91.0	
17	ヘンリー 杉本	カーメルハイランド海辺	1937(昭和12)	油彩、キャンバス	80.6×106.0	作者寄贈
iv. 戦前の動向						
18	川口 軌外	少女と貝殻	1934(昭和9)	油彩、キャンバス	167.3×267.2	
19	高井 貞二	感情の遊離	1932(昭和7)	油彩、キャンバス	150.7×91.0	作者寄贈
20	村井 正誠	URBAIN No.1	1936(昭和11)	油彩、キャンバス	112.2×194.2	
21	松本 竣介	三人	1943(昭和18)	油彩、キャンバス	162.2×112.5	個人蔵
22	原 勝四郎	遺化	1941(昭和16)	油彩、厚紙	90.3×73.2	
§2 大きくていいもの、あり						
23	白髪 一雄	平治元年十二月二十六日	1966(昭和41)	油彩、キャンバス	273.0×363.8	
24	荒川 修作	The Observer Continues	1965-66(昭和40-41)	アクリル絵具、キャンバス	244.7×480.0	
25	高橋 秀	APOCALISSE 黙示録	1979-80(昭和54-55)	アクリル絵具、キャンバス	201.0×339.7	
26	フランク・ステラ	ラッカ III	1968(昭和43)	アクリル絵具、キャンバス	304.0×760.0	
27	マーク・ロスコ	赤の上の黄褐色と黒	1957(昭和32)	油彩、キャンバス	176.2×136.6	
28	保田 春彦	階段のある広場	1973(昭和48)	ステンレススチール	11.0×75.0×75.0	
29	保田 春彦	階段のある広場	1973(昭和48)	ステンレススチール	9.1×75.0×75.0	
§3 人のかたち、人のうごき						
30	星野 眞吾	喪中の作品 A	1965(昭和40)	顔料、紙	180.6×89.5	
31	ジョージ・シーガル	煉瓦の壁ぞいに歩く男	1988(昭和63)	石膏、木、アクリル絵具他	264.6×359.9×270.4	
32	飯塚 二郎	地下からの視線	1992(平成4)	FRP、砂、土、木	223.0×172.2×12.5	和歌山版画ビエンナーレ展 実行委員会寄贈
33	杉本 博司	ラジオシティ・ミュージックホール、ニューヨーク	1978(昭和53)	写真	42.3×54.5	
34	李禹煥	点より	1980(昭和55)	岩彩、キャンバス	193.9×258.8	
35	サイモン・リンク	アート・コロニー1986年10月	1987(昭和62)	油彩、キャンバス	182.8×182.8	

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵／備考
§4 小さくていいもの、あり口						
36	駒井 哲郎	夢の始まり	1949(昭和24)	アクアチント・ドライポイント、紙	9.4×12.8	
37	駒井 哲郎	小さな幻影	1950(昭和25)	アクアチント・エッチング・ドライポイント、紙	5.5×13.0	
38	清宮 質文	蝶	1963(昭和38)	木版、紙	24.6×22.3	個人蔵
39	日和崎 尊夫	鳥魚	1965(昭和40)	木口木版、紙	9.3×13.3	日和崎園子、星児、陽児、光児氏寄贈
40	日和崎 尊夫	題不詳	1966(昭和41)	木口木版、紙	7.2×7.6	日和崎園子、星児、陽児、光児氏寄贈
41	日和崎 尊夫	仮面 A	1966(昭和41)	木口木版、紙	10.3×10.3	日和崎園子、星児、陽児、光児氏寄贈
42	尾崎 ユタカ	星座の散歩	1998(平成10)	エングレーヴィング・エッチング、紙	2.0×4.0	大家利夫氏寄贈
43	若山 八十氏	『変ないきもの』	1961(昭和36)	謄写版、ガラス、紙(冊子)	10.5×9.1×2.0冊子／ 15.6×13.8×2.2たとう	森田睦氏寄贈
44	村井 正誠	パンチール	1930(昭和5)年代	油彩、ガラス	5.9×9.0	三木哲夫氏寄贈
45	建畠 大夢	若き日の北村西望	1911(明治44)頃／ 铸造年不明	ブロンズ	19.0×8.0×7.0	北村西望氏寄贈
46	香山 小鳥	EX-LIBRIS	1912(大正元)頃	木版、紙	5.8×4.6	恩地邦郎氏寄贈
47	谷中 安規	[マッチペーパー]	制作年不詳	木版、紙	5.4×8.4	杉本義夫氏寄贈
48	建畠 覚造	テラコッタB	1954(昭和29)	テラコッタ	25.0×20.0×9.0	建畠嘉氏寄贈
49	ジョルジュルオー	サーカスの娘	1937(昭和12)	油彩、キャンバス	9.2×9.3	篠田博之、めぐみ氏寄贈
50	浜口 陽三	手	1951(昭和26)	ドライポイント、紙	5.5×4.9	版画集
51	浜口 陽三	版画集『Yozo Hamaguchi』1 てんとう虫	1974(昭和49)	カラーメゾチント、紙	4.6×4.6	
52	長谷川 利行	工場街	1915(大正4)	グワッシュ、紙	14.2×22.3	
53	長谷川 利行	裸婦	制作年不明	グワッシュ、紙	18.5×18.5	
54	宮田 彩加	鶯流水図	2015(平成27)	ミン糸、綿布	11.5×25.2×20.5	田中恒子氏寄贈
55	福岡 道雄	身をかくす	1987(昭和62)	F.R.P.	16.0×13.0×11.0	田中恒子氏寄贈
56	国吉 康雄	ベッドに横たわる裸婦	1916-18(大正5-7)頃	エッチング、紙	7.5×10.1	
57	国吉 康雄	右に首をかしげる女	1916-18(大正5-7)頃	エッチング、紙(第2ステート)	10.0×7.6	
58	国吉 康雄	椅子にうづくまる裸婦	1916-18(大正5-7)頃	ドライポイント、紙	10.1×7.6	
59	国吉 康雄	服を脱ぐ女	1916-18(大正5-7)頃	ドライポイント、紙	10.1×7.6	
60	国吉 康雄	ヨチヨチ歩きの子供を支える女	1916-18(大正5-7)頃	ドライポイント、紙	10.2×7.6	
61	国吉 康雄	抱き合う男と女	1916-18(大正5-7)頃	エッチング、紙	10.2×7.6	
62	国吉 康雄	女の頭・腕・胸	1916-18(大正5-7)頃	ドライポイント、紙	10.0×7.5	
63	国吉 康雄	うづくまる裸婦	1916-18(大正5-7)頃	エッチング、紙	6.2×8.7	
64	国吉 康雄	女の顔	1916-18(大正5-7)頃	ドライポイント、紙	12.5×10.0	
65	国吉 康雄	足をつかむ右向きの裸婦	1916-18(大正5-7)頃	エッチング、紙	7.6×10.1	
66	国吉 康雄	公園のベンチに座る人	1916-18(大正5-7)頃	エッチング、紙	10.0×7.5	
67	国吉 康雄	後脚で立つ馬の前の母と子	1916-18(大正5-7)頃	エッチング、紙	10.1×7.5	
68	国吉 康雄	パイプとテーブルのそばでの抱擁	1916-18(大正5-7)頃	ドライポイント、紙	10.0×7.5	
69	国吉 康雄	脚をあげて座る裸婦	1916-18(大正5-7)頃	ドライポイント、紙(第2ステート)	12.7×10.1	
70	国吉 康雄	女、リンゴと男	1916-18(大正5-7)頃	ドライポイント、紙	10.0×12.5	
71	国吉 康雄	すわる裸婦と子供	1916-18(大正5-7)頃	ドライポイント、紙(第3ステート)	10.1×7.6	
72	国吉 康雄	テーブルの回りの人々	1916-18(大正5-7)頃	エッチング、紙(第2ステート)	12.6×10.1	
73	国吉 康雄	一人が眠っている二人の裸婦	1916-18(大正5-7)頃	ドライポイント、紙(第2ステート)	7.6×10.2	
74	国吉 康雄	円筒を持つ裸婦	1916-18(大正5-7)頃	ドライポイント、紙(第1ステート)	12.5×8.8	
75	国吉 康雄	ネックレスを付けた左向きの裸婦(2)	1916-18(大正5-7)頃	ドライポイント、紙	12.6×8.8	
76	国吉 康雄	ネックレスを付けた左向きの裸婦(1)	1916-18(大正5-7)頃	ドライポイント、紙	12.6×8.7	
77	国吉 康雄	4人の裸婦(クリシー通りのカフェ)	1928(昭和13)	リトグラフ、紙	23.8×33.8	
§5 新しくいいもの、あり口						
78	押江 千衣子	みづえ	1995(平成7)	油彩、オイルパステル、キャンバス	162.0×388.0	榎本長治氏寄贈
79	関根 直子	言葉の前の音・人形造いの声・一つの場所	2012(平成24)	鉛筆、紙	107.0×450.0	榎本長治氏寄贈
80	建畠 覚造	貌	1955(昭和30)	セメント	139.0×100.0×64.0	
81	山本 真友香	Water boy	2003(平成15)	油彩、キャンバス	162.5×130.7	個人蔵
82	浜地 清松	厨房	1928(昭和13)	油彩、キャンバス	116.0×88.5	
83	稗田 一穂	小雨降る坂路	2011(平成23)	油彩、紙	116.6×90.8	
84	吉田 政次	新しい発生 No.2	1956(昭和31)	木版、紙	45.0×37.7	巽浩子氏寄贈
85	吉田 政次	空間 No.37	1963(昭和38)	木版、紙	43.7×43.7	巽浩子氏寄贈
86	吉田 政次	空間 No.52	1966(昭和41)	木版、紙	45.8×43.7	巽浩子氏寄贈
展示室外の作品						
屋外						
87	建畠 覚造	MANJI Swastika	1982(昭和57)	ステンレススチール	270.0×170.0×75.0	作者寄贈
88	保田 春彦	球を覆う葎舎	1994(平成6)	ステンレススチール	208.0×335.0×305.0	
89	保田 春彦	聚落を囲う壁 II	1994-95(平成6-7)	鉄	60.0×127.5×451.2	
90	イサム・ノグチ	雲の山	1982(昭和57)	酸化処理した鉄	176.0×113.0×71.8	
91	ケネス・スネルソン	着地	1969(昭和44)	ステンレススチール	250.0×1000.0×360.0	
エントランス・ホール周辺						
92	鈴木 久雄	単錐台-II	1984(昭和59)	鉄	113.0×119.5×120.0	
93	保田 春彦	格子と壁	1998(平成10)	ブロンズ	60.0×29.9×44.0	作者寄贈
94	保田 春彦	梯子と壁	1998(平成10)	ブロンズ	62.0×29.9×46.6	作者寄贈
95	バーバラ・クルーガー	無題(私を覚えていて)	1988(昭和63)	シルクスクリーン、ビニール	378.7×268.1×5.0	
96	建畠 覚造	DISK 4	1977(昭和52)	アルミニウム、真鍮	56.0×156.0×88.0	
大階段踊場						
97	北堅 吉彦	山並=senkoushu(鮮光朱)	1999(平成11)	油彩	170.0×1020.0	作者の厚意により保存
ホワイエ						
98	バリー・フラナガン	ねじまがった釣鐘の上を跳ぶ野兎	1989(平成元)	ブロンズ	230.0×187.0×128.5	
テラス						
99	鈴木 久雄	木の現象(喬木1)	1997(平成9)	鍛造ステンレス鋼	244.0×76.0×82.0	作者寄贈

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵／備考
100	鈴木 久雄	木の現象(喬木2)	1997(平成9)	鍛造ステンレス鋼	244.0×76.0×82.0	作者寄贈
101	鈴木 久雄	散距離	2008(平成20)	鍛造ステンレス鋼	4720.0×5900.0×1800.0	作者寄贈
102	鈴木 久雄	交叉距離	2009(平成21)	鍛造ステンレス鋼	3400.0×8000.0×624.0	作者寄贈



会場風景

3-2. コレクション展 2024—夏 特集：旅する美術

- 会期 : 2024(令和6)年7月2日(火)–9月23日(月・休) 84日間・うち休館11日
- 会場 : 展示室A・B(1階)
- 主催 : 和歌山県立近代美術館
- 入場者数 : 8,222名
- 内容 : 和歌山ゆかりの作家を軸とした近現代美術の流れを紹介。また特集「旅する美術」では、新型コロナウイルス感染症の拡大にともない2020年からおよそ3年間、旅に出るのが難しい日々を過ごした経験から、あらためて旅と美術表現の関わりを紹介した。
- 展示点数 : コレクション39作家40点/特集47作家73点(展示室外の作品を含む)
- 担当学芸員 : 宮本久宣
- 関連事業 : ・フロアレクチャー 7月21日(日)参加12人、8月11日(日)参加6人、9月16日(月・祝)参加26人
・こども美術館部 7月20日(土)参加7人、7月21日(日)参加8人*詳細は64-65頁
- 制作物 : ・出品目録(A4判8頁)
・プレスリリース(A4判4頁)
- 入場料金 : 一般350(270)円、大学生240(180)円 ()内は20名以上の団体料金
- 成果・課題 : コレクション展は、「和歌山ゆかりの作家と日本の近代美術」「戦後から現代の美術 絵画表現の広がり」「アメリカの美術」の3章で構成。幅7mの絵画、フランク・ステラ《ラッカ III》を展示するのに合わせて、戦後の絵画表現の多様な展開と、アメリカの美術をテーマに設定した。特集「旅する美術」は、「旅人へのあこがれ」「描くための旅」「東へ西へ」「旅への誘い」「ようこそ和歌山へ」「旅して作る」の6章で構成。近代から現代までの美術の流れもたどれるように章を立てつつ、県外からの旅行者が多い季節であるため、和歌山各地を作品の上で巡れるよう構成に組み込んだ。さらに、同時期に開催した「なつやすみの美術館14 河野愛『こともの、と』」のテーマのひとつである、土地や場所に蓄積した時間や記憶、ともつながるように特集自体を設定し、両方の展示を合わせて見ることに意味を持たせた。また特集には各章解説とともに、作品には解説も付して、その理解を深められるようにした。
- 関連記事 : ・「県立近代美術館コレクション展 旅する美術 7月2日から」『和歌山特報』2024年7月1日、10面
・松本博子「旅への思い 変化体感」『毎日新聞(和歌山版)』2024年7月4日、16面

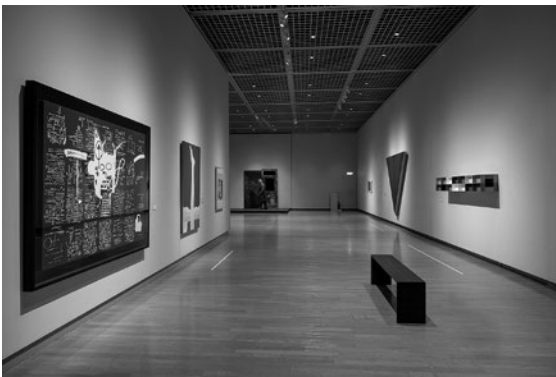
出品目録

*特に記載のない作品は当館蔵

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵/備考
§1 和歌山ゆかりの作家と日本の近代美術						
1	中村 不折	白頭翁	1907(明治40)	油彩、キャンバス	200.2×136.6	個人蔵
2	山下 新太郎	臥婦	制作年不詳(1910年代)	油彩、キャンバス	79.5×140.7	個人蔵
3	岸田 劉生	黒き帽子の自画像	1914(大正3)	油彩、板	51.3×39.2	個人蔵
4	萬 鐵五郎	風景	1922(大正11)頃	油彩、キャンバス	33.3×46.0	個人蔵
5	古賀 春江	海水浴	1922(大正11)	油彩、キャンバス	91.3×117.0	
6	石垣 栄太郎	拳闘	1925(大正14)	油彩、キャンバス	75.4×91.2	
7	国吉 康雄	乳しほり	1921(大正10)	油彩、キャンバス	61.0×50.5	
8	清水 登之	ヨコハマ・ナイト	1921(大正10)	油彩、キャンバス	76.2×96.5	
9	浜地 清松	赤い帽子	1928(昭和3)	油彩、キャンバス	100.0×73.0	
10	佐伯 祐三	ポスターとローソク立て	1925(大正14)頃	油彩、キャンバス	45.5×53.6	玉井一郎氏寄贈
11	佐伯 祐三	カフェ・レストラン	1927(昭和2)	油彩、キャンバス	61.0×50.3	個人蔵
12	木下 孝則	赤衣の女	1934(昭和9)	油彩、キャンバス	72.9×53.2	
13	木下 雅子	玉葱の静物	1930(昭和5)	油彩、キャンバス	60.0×73.5	木下義謙氏寄贈
14	建島 大夢	おゆのつかれ	1913(大正2)/ 1970(昭和45) 鑄造	鑄造 ブロンズ	68.0×40.0×56.0	
15	保田 龍門	アンドレの首	1922(大正11)	ブロンズ	20.3×20.0×20.0	和歌山県立美術館友の会寄贈
16	大亦 観風	蟬丸	1923(大正12)	顔料、紙(二曲一双屏風)	168.3×360.8	
17	野長瀬 晩花	女奇術師	制作年不詳	顔料、紙	129.3×30.3	
18	吹田 草牧	南国之初夏	1919(大正8)頃	顔料、絹	127.0×42.1	
19	山口 八九子	暮るる天橋	1921(大正10)	顔料、絹	85.6×113.9	山口由季子氏寄贈
20	日高 昌克	初夏山径図	1952(昭和27)	顔料、墨、紙	46.0×55.0	福本まゆみ氏寄贈
21	原 勝四郎	小湾	1940(昭和15)	油彩、厚紙	59.9×71.7	
22	高井 貞二	感情の遊離	1932(昭和7)	油彩、キャンバス	150.7×91.0	作者寄贈
23	川口 軌外	夏の海	1940(昭和15)	油彩、キャンバス	165.7×267.0	川口京村氏寄贈
§2 戦後から現代の美術 絵画表現の広がり						
24	磯辺 行久	WORK 62-12	1962(昭和37)	油彩、紙、大理石粉、塗料、木	182.2×127.6	
25	向井 修二	作品	1965(昭和40)	油彩、キャンバス	182.8×136.8	
26	堂本 尚郎	二元的なアンサンブル	1962(昭和37)	油彩、キャンバス	162.0×122.0	
27	近藤 竜男	Combine 20-65	1965(昭和40)	油彩、キャンバス	226.7×226.7	
28	田中 敦子	WORK '91G	1991(平成3)	塗料、キャンバス	200.0×200.0	
29	彦坂 尚嘉	PWP41(ジャングルラブ)	1981(昭和56)	アクリル絵具、木	230.0×171.6	
30	野田 裕示	WORK 796	1993(平成5)	アクリル絵具、キャンバス、木	266.6×186.5	
31	堀内 正和	四つの立方体(線)	1979(昭和54)	鉄	85.0×208.0×98.0	
§3 アメリカの美術						
32	フランク・ステラ	ラッカ III	1968(昭和43)	アクリル絵具、キャンバス	304.0×760.0	
33	イサム・ノグチ	黒いシルエット	1958(昭和33)	アルミニウム	241.0×73.0×60.0	
34	ジョージ・シーガル	煉瓦の壁ぞいに歩く男	1988(昭和63)	石膏、木、アクリル絵具ほか	264.6×359.9×270.4	

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵／備考
35	ジャスパー・ジョーンズ	旗	1960-69(昭和35-44)	鉛	48.2×53.4	
36	桑山 忠明	トライアングル 青／緑	1984-85(昭和59-60)	油彩、和紙、ハニカムペーパー、板	221.6×267.3	
37	ドナルド・ジャッド	無題	1988(昭和63)	アルミニウム	30.0×210.4×30.0	
38	ロイ・リキテンシュタイン	夢想	1965(昭和40)	シルクスクリーン、紙	69.2×58.0	
39	トム・ウェッセルマン	シースケープ #8	1966(昭和41)	アクリル絵具、キャンバス	172.9×106.8	
40	ジャン＝ミシェル・バスキア	無題	1983(昭和58)	シルクスクリーン、キャンバス	146.0×192.0	
特集：旅する美術						
§1 旅した人へのあこがれ						
41	下村 観山	西行上人望富士山図	制作年不詳	顔料、墨、絹(対幅)	各126.5×49.5	個人蔵
42	川端 龍子	芭蕉翁	1923(大正12)	顔料、紙	71.9×84.3	
43	日高 昌克	宝永山夕映	1936(昭和11)	顔料、絹	71.8×86.0	福本まゆみ氏寄贈
§2 描くための旅						
44	神中 糸子	箱根旅行スケッチ「第一図箱根塔之沢温泉」	1888(明治21)頃	墨、紙	24.4×34.0	神中茂次氏寄贈
45	神中 糸子	箱根旅行スケッチ「箱根塔之沢第二図 明治廿一年八月十五夜事 山下林子糸子両人親月の事」	1888(明治21)	墨、紙	24.4×34.3	神中茂次氏寄贈
46	神中 糸子	箱根旅行スケッチ「箱根山にて修行の道」	1888(明治21)	墨、紙	24.5×34.2	神中茂次氏寄贈
47	神中 糸子	箱根旅行スケッチ「箱根小わき谷温泉」	1888(明治21)頃	墨、紙	24.4×34.0	神中茂次氏寄贈
48	神中 糸子	塔の沢風景	1888(明治21)	水彩、紙	25.0×19.3	神中茂次氏寄贈
49	大下 藤次郎	一本杉	1909(明治42)	水彩、紙	35.4×24.3	寺崎直子氏寄贈
50	土田 麦徳	志摩風景	1913(大正2)頃	顔料、墨、紙	32.7×44.4	木崎みさを氏寄贈
51	榎本 一洋	岬	1938(昭和13)	顔料、絹(二曲一隻屏風)	141.5×200.0	藤原繁行氏寄贈
52	川端 龍子	白浜・円月島	1958(昭和33)	墨、顔料、紙	48.5×72.0	川端紀美子氏寄贈
§3 東へ西へ						
53	エミール・オルリック	祭りの行列を見る日本の子供たち	1902(明治35)	エッチング、アクアチント、紙	21.3×34.0	
54	野長瀬 晩花	路傍青物市	1932(昭和7)頃	顔料、紙	27.2×48.2	野長瀬婉子氏寄贈
55	高井 貞二	松花江の船出	1941(昭和16)	油彩、キャンバス	130.4×161.6	作者寄贈
56	石垣 栄太郎	街	1925(大正14)	油彩、キャンバス	126.0×91.0	
57	ヘンリー 杉本	カーメルハイランド海辺	1937(昭和12)	油彩、キャンバス	80.6×106.0	作者寄贈
58	佐伯 祐三	リュ・デュ・シャトーの歩道	1925(大正14)	油彩、キャンバス	60.0×73.1	玉井一郎氏寄贈
59	児島 善三郎	カーニウ風景	1926(大正15/昭和元)	油彩、キャンバス	45.8×60.9	個人蔵
§4 旅への誘い						
60	船崎 光治郎	『新日本百景』海馬島(樺太)	1940(昭和15)	木版、紙	30.0×22.3	
61	下澤 木鉢郎	『新日本百景』十和田湖(青森秋田県)	1941(昭和16)	木版、紙	22.7×30.0	
62	小林 朝治	『新日本百景』志賀高原(長野県)	1939(昭和14)	木版、紙	22.8×29.7	
63	谷中 安規	『新日本百景』大川端(東京市)	1940(昭和15)	木版、紙	22.6×30.0	
64	麻田 辨白	『新日本百景』琵琶湖(滋賀県)	1939(昭和14)	木版、紙	22.6×30.3	
65	前田 藤四郎	『新日本百景』白浜(和歌山県)	1940(昭和15)	木版、紙	25.3×32.7	
66	前川 千帆	『新日本百景』瀬八丁(和歌山県)	1938(昭和13)	木版、紙	22.8×30.7	
67	前川 千帆	『新日本百景』朝鮮金剛山	1940(昭和15)	木版、紙	22.8×30.4	
68	石崎 重利	『新日本百景』宮島(広島県)	1940(昭和15)	木版、紙	23.0×30.2	
69	畦地 梅太郎	『新日本百景』石鏡山(愛媛県)	1939(昭和14)	木版、紙	22.5×30.1	
70	川西 英	『新日本百景』日向青島(宮崎県)	1939(昭和14)	木版、紙	22.8×30.4	
71	岡本一平など18作家	『東海道五十三次漫画絵巻』	1921(大正10)	墨、彩色、紙	各24.8×33.2	池田辰彦氏寄贈
72	新田穰など14作家	『新版画』第6号、国立公園特輯号	1932(昭和7)	木版、紙	29.3×29.3	
§5 ようこそ和歌山へ						
73	西 博民	岡口門と城山を望む	昭和初期頃	油彩、キャンバス	45.5×53.2	堀内俊男氏寄贈
74	原 勝四郎	白浜風景	1948(昭和23)	油彩、板	38.0×45.3	玉井一郎氏寄贈
75	平塚 運一	高野山奥の院	1941(昭和16)	木版、紙	37.4×45.6	
76	吹田 草牧	紀南夏景	1935(昭和10)	顔料、紙	194.5×200.0	岡本貴子氏寄贈
77	広島 鋤花	『紀伊百景画帖』より「雑賀崎」「新和歌浦」	1927-29(昭和2-4)頃	顔料、絹	各28.9×37.1	
78	野長瀬 晩花	『栄光之南紀五景』	1930(昭和5)	顔料、紙(色紙5枚)	各24.3×27.2	
79	川口 軌外	瀨峡	1934(昭和9)	油彩、キャンバス	94.6×243.3	個人蔵
80	稗田 一穂	渺々熊野	1999(平成11)	顔料、紙	146.5×300.0	明星大学寄贈
81	村井 正誠	紀州	1993(平成5)	油彩、キャンバス	193.9×258.8	村井伊津子氏寄贈
§6 旅して作る						
82	マーク・ボイル	黒い緑石の習作	1980-81(昭和55-56)	彩色、ファイバーグラス	182.4×183.2	
83	栗田 宏一	土の時間／和歌山	2007(平成19)	和歌山県内の土、ガラス皿(14個)	各8.8×8.8	個人蔵
84	栗田 宏一	クマノマングラ	2023(令和5)	インクジェットプリント、紙	51.7×51.7	NPO法人 和歌山芸術文化支援協会寄贈
85	ハミッシュ・フルトン	山の辺の道	1986(昭和61)	写真、テキスト	119.5×137.3	
86	ベルト・テウニッセン	Domestic Landscapes Wakayama 02, 05, 13, 19, 21, 22	2004(平成16)	Cプリント	各50.0×64.0	EU・ジャパンフェスト日本委員会寄贈
87	ロジャー・アックリング	潮岬	1996(平成8)	木、太陽光線	12.0×7.8×4.0	作者寄贈
88	ロジャー・アックリング	潮岬	1996(平成8)	木、太陽光線	29.2×17.6×1.0	
展示室外の作品						
屋外						
89	建島 覚造	MANJI Swastika	1982(昭和57)	ステンレススチール	270.0×170.0×75.0	作者寄贈
90	保田 春彦	球を覆う幕舎	1994(平成6)	ステンレススチール	208.0×335.0×305.0	
91	保田 春彦	聚落を囲う壁 II	1994-95(平成6-7)	鉄	60.0×127.5×451.2	
92	イサム・ノグチ	雲の山	1982(昭和57)	酸化処理した鉄	176.0×113.0×71.8	
93	ケネス・スネルソン	着地	1969(昭和44)	ステンレススチール	250.0×1000.0×360.0	
エントランス・ホール周辺						
94	鈴木 久雄	単錐台-II	1984(昭和59)	鉄	113.0×119.5×120.0	
95	保田 春彦	格子と壁	1998(平成10)	ブロンズ	60.0×29.9×44.0	作者寄贈
96	保田 春彦	梯子と壁	1998(平成10)	ブロンズ	62.0×29.9×46.6	作者寄贈
97	バーバラ・クルーガー	無題(私を覚えていて)	1988(昭和63)	シルクスクリーン、ビニール	378.7×268.1×5.0	

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵／備考
98	建畠 覚造	DISK 4	1977(昭和52)	アルミニウム、真鍮	56.0×156.0×88.0	
大階段踊場						
99	北堅 吉彦	山並-senkoushu(鮮光朱)	1999(平成11)	油彩	170.0×1020.0	作者の厚意により保存
ホワイエ						
100	パリー-フラナガン	ねじまがった釣鐘の上を跳ぶ野兎	1989(平成元)	ブロンズ	230.0×187.0×128.5	
テラス						
101	鈴木 久雄	木の現象(喬木1)	1997(平成9)	鍛造ステンレス鋼	244.0×76.0×82.0	作者寄贈
102	鈴木 久雄	木の現象(喬木2)	1997(平成9)	鍛造ステンレス鋼	244.0×76.0×82.0	作者寄贈
103	鈴木 久雄	散距離	2008(平成20)	鍛造ステンレス鋼	4720.0×5900.0×1800.0	作者寄贈
104	鈴木 久雄	交叉距離	2009(平成21)	鍛造ステンレス鋼	3400.0×8000.0×624.0	作者寄贈



会場風景

3-3. コレクション名品選

- 会期 : 2024(令和6)年10月5日(土) - 12月22日(日) 79日間・うち休館11日
 会場 : 展示室B(1階)
 主催 : 和歌山県立近代美術館
 入場者数 : 6,686名
 内容 : 特別展「仙境」、特別展「月映」、「県展」、「ジュニア県展」との併設として、無料でコレクションを紹介。「和歌山ゆかりの作家と日本の近代美術」
 「戦後アメリカの美術」のふたつのセクションにより構成した。
 展示点数 : 25作家34点(展示室外の作品を含む)
 担当学芸員 : 奥村一郎
 制作物 : ・ 出品目録 (A4判3頁)
 入場料金 : 無料
 ＊平成30(2018)年度から県展が1階展示室A・展示室Cでの開催となり、同会期のコレクション展が1階展示室Bだけの開催となったことから、協議会での推奨を受け、県展・ジュニア県展と同時期のコレクション展は無料としている。
 成果・課題 : 作品数を絞り空間に余裕のある展示とし、コレクションをじっくり鑑賞できる環境を整えた。また特別展「月映」にあわせて、田中恭吉、香山小鳥、藤森静雄、久本信男らの油彩を、近代の南画を紹介した特別展「仙境」にあわせて、萬鐵五郎や原勝四郎ら洋画家における南画表現を紹介するなど、関連した作品から来館者が美術の広がりや楽しみを知ることを考慮した展示とした。

出品目録

*特に記載のない作品は当館蔵

No.	作者名	作品名	制作年	材質、技法	寸法(cm)	所蔵/備考
和歌山ゆかりの作家と日本の近代美術						
1	保田 龍門	少女	1925(大正14)	ブロンズ	184.9×67.0×51.0	
2	建島 大夢	おゆのつかれ	1913(大正2)/1970(昭和45)	ブロンズ	68.0×40.0×56.0	
3	香山 小鳥	風景	1911(明治44)	油彩、板	22.7×14.6	恩地邦郎氏寄贈
4	田中 恭吉	ニコライ	1912(明治45/大正元)	油彩、板	22.0×15.5	恩地邦郎氏寄贈
5	藤森 静雄	花	1915(大正4)	油彩、カンヴァス	33.0×24.0	恩地邦郎氏寄贈
6	久本 信男	和服婦人	大正初期頃	油彩、キャンバス	41.4×27.7	恩地邦郎氏寄贈風景
7	保田 龍門	少年	1912(明治45/大正元)	油彩、キャンバス	45.8×60.6	保田春彦氏寄贈
8	萬 鐵五郎	風景	1922(大正11)頃	油彩、キャンバス	33.3×46.0	個人蔵
9	原 勝四郎	小湾	1940(昭和15)	油彩、厚紙	59.9×71.7	
10	神中 糸子	妙義山	1918(大正7)	油彩、キャンバス	60.8×50.0	
11	石垣 栄太郎	街	1925(大正14)	油彩、キャンバス	126.0×91.0	
12	浜地 清松	厨房	1928(昭和3)	油彩、キャンバス	16.0×88.5	
13	高井 貞二	感情の遊離	1932(昭和7)	油彩、キャンバス	150.7×91.0	作者寄贈
14	村井 正誠	URBAIN No.1	1936(昭和11)	油彩、キャンバス	112.2×194.2	
戦後アメリカの美術						
15	ジャスパー・ジョーンズ	旗	1960-69(昭和35-44)	鉛	48.2×53.4	
16	フランクス・ステラ	ラッカ III	1968(昭和43)	アクリル絵具、キャンバス	304.0×760.0	
17	ジョージ・シーガル	煉瓦の壁ぎいに歩く男	1988(昭和63)	石膏、木、アクリル絵具ほか	264.6×359.9×270.4	
18	ドナルド・ジャッド	無題	1988(昭和63)	アルミニウム	30.0×210.4×30.0	
19	マーク・ロスコ	赤の上の黄褐色と黒	1957(昭和32)	油彩、キャンバス	176.2×136.6	
展示室外の作品						
屋外						
20	建島 覚造	MANJI Swastika	1982(昭和57)	ステンレススチール	270.0×170.0×75.0	作者寄贈
21	保田 春彦	球を覆う幕舎	1994(平成6)	ステンレススチール	208.0×335.0×305.0	
22	保田 春彦	聚落を囲う壁 II	1994-95(平成6-7)	鉄	60.0×127.5×451.2	
23	イサム・ノグチ	雲の山	1982(昭和57)	酸化処理した鉄	176.0×113.0×71.8	
24	ケネス・スネルソン	着地	1969(昭和44)	ステンレススチール	250.0×1000.0×360.0	
エントランス・ホール周辺						
25	鈴木 久雄	単錐台-II	1984(昭和59)	鉄	113.0×119.5×120.0	
26	保田 春彦	格子と壁	1998(平成10)	ブロンズ	60.0×29.9×44.0	作者寄贈
27	保田 春彦	梯子と壁	1998(平成10)	ブロンズ	62.0×29.9×46.6	作者寄贈
28	バーバラ・クルーガー	無題(私を覚えていて)	1988(昭和63)	シルクスクリーン、ビニール	378.7×268.1×5.0	
29	建島 覚造	DISK 4	1977(昭和52)	アルミニウム、真鍮	56.0×156.0×88.0	
大階段踊場						
30	北堅 吉彦	山並- senkoushu(鮮光朱)	1999(平成11)	油彩	170.0×1020.0	作者の厚意により保存
ホワイエ						
31	バリー・フラナガン	ねじまがった釣鐘の上を跳ぶ野兎	1989(平成元)	ブロンズ	230.0×187.0×128.5	作者の厚意により保存
テラス						
32	鈴木 久雄	木の現象(喬木1)	1997(平成9)	鍛造ステンレス鋼	244.0×76.0×82.0	作者寄贈
33	鈴木 久雄	木の現象(喬木2)	1997(平成9)	鍛造ステンレス鋼	244.0×76.0×82.0	作者寄贈
34	鈴木 久雄	散距離	2008(平成20)	鍛造ステンレス鋼	4720.0×5900.0×1800.0	作者寄贈
35	鈴木 久雄	交叉距離	2009(平成21)	鍛造ステンレス鋼	3400.0×8000.0×624.0	作者寄贈



会場風景

4. その他

4-1. 第78回和歌山県美術展覧会（県展）／第10回和歌山県ジュニア美術展覧会（ジュニア県展）

県展会期：2024(令和6)年12月11日(水)－12月15日(日) 5日間

県展会場：展示室A(1階)・C(2階)

ジュニア県展会期：2024(令和6)年12月18日(水)－12月22日(日) 5日間

ジュニア県展会場：展示室A(1階)

主催：和歌山県

共催：和歌山県教育委員会、和歌山県立近代美術館、和歌山県美術家協会、毎日新聞社和歌山支局、一般財団法人和歌山県文化振興財団、橋本市、新宮市、上富田町

協賛：公益財団法人大桑教育文化振興財団

ジュニア県展：和歌山県美育連盟、和歌山県書写教育研究会

協力

入場者数：5,702人(県展3,296人、ジュニア県展2,406人)

内容：県文化学術課が実施。外部審査員の選考、作品取り扱い時の助言、受付・審査時の補助を行った。華道を除く一般部門の入選・入賞者部門を当館で開催。招待作家展は県民ギャラリーで開催。同時開催の無料コレクション展として「コレクション名品選」を開催した。

展示点数：県展183点、審査員30点、ジュニア県展595点

成果：県展の応募数は減少傾向にあり、作風や傾向にあまり変化がない。美術館の収蔵庫狭隘化と共に、展示室の一部を閉鎖せざるを得なくなっており、県展のスペースを確保するために作品を収納する作業が困難になりつつある。

入場料金：無料

4-2. エレベーターリニューアル記念 コスプレ声ちゃんのカプセルタワービルデイズ展

日時：2024(令和6)年4月27日(土)－6月30日(日) 65日間・うち休館9日

会場：ギャラリー(1階)

主催：和歌山県立近代美術館

協力：和歌山県立近代美術館友の会

内容：2018年から2022年1月まで中銀カプセルタワービルに住み、DJの配信をしていた「コスプレ声ちゃん」。全員退去のあとも解体、再生の様子をiPhoneで撮影しつづけて、私的な記録であると同時にカプセルの解体から再生までの貴重な記録ともなった写真の数々を本人のセレクトと構成で紹介。

当館エレベーターの解体された部品も合わせて展示した。

展示点数：303点(「コスプレ声ちゃん」撮影の写真298点ほか)

関連事業：帰ってきたカプセルディスコ in 和歌山 6月30日(日) コスプレ声ちゃんのトーク、カプセルディスコDJイベント 参加60人



会場風景

作品・資料の収集

美術作品の収集基本方針

- (1) 本県の歴史と伝統をふまえ、本県にゆかりのある明治以降の作家の美術作品を収集する。
- (2) 国内外の近・現代美術の美術作品を積極的に収集する。
- (3) 関連資料の収集にも努める。
- (4) これらの収集した美術作品及び関連資料の保存、修復にも努める。

和歌山県立近代美術館美術作品収集方針

- | | |
|-----|--|
| 日本画 | 1. 下村観山、川端龍子を軸とする院展の作家たち |
| | 2. 野長瀬晩花を軸とする国画創作協会の作家たち |
| 洋画 | 3. 川口軌外を軸とする1930年協会、初期独立美術協会の作家たち |
| | 4. 村井正誠を軸とする自由美術家協会、モダンアート協会の作家たち |
| | 5. 石垣栄太郎、ヘンリー杉本、高井貞二を軸とするアメリカで学んだ作家たち |
| 版画 | 6. 本県にゆかりのある恩地孝四郎、田中恭吉、逸見享、吉田政次、浜口陽三らを軸とする近現代版画 |
| 彫刻 | 7. 本県にゆかりのある建島覚造、保田春彦を軸とする現代彫刻 |
| その他 | 8. 戦後美術
我が国の戦後美術の多様な流れを概観できるよう作品を収集するとともに、関西を中心とした前衛美術の動きも紹介できるよう収集する。
ア パンリアル美術協会
イ 走泥社
ウ デモクラート美術家協会
エ 具体美術協会 |
| | 9. 現代の美術 |
| | 10. 海外の美術 |

和歌山県立近代美術館美術作品選定委員会委員

- | | |
|-------|--------------------------|
| 榎本長治 | 会社社長 |
| 五十殿利治 | 筑波大学名誉教授 |
| 建島哲 | 前 多摩美術大学 学長／埼玉県立近代美術館 館長 |
| 三木哲夫 | 兵庫県陶芸美術館 名誉館長 |

第48回美術作品選定委員会

- 日時：2025年3月2日(日) 午後2時より開催
出席：榎本長治、五十殿利治、建島哲(委員長)、三木哲夫
内容：購入候補作品ならびに受贈候補作品について、受入の妥当性について協議を行った。

2024年度収蔵作品点数

- | | |
|----|--|
| 購入 | 5点(洋画1点、版画2点、工芸1点、水彩・素描1点) |
| 受贈 | 22件187点(日本画30点、洋画37点、版画18点、彫塑1点、工芸3点、写真2点、水彩・素描13点、資料18点、佐藤春夫旧蔵作品資料61件、田中恒子コレクション4点) |

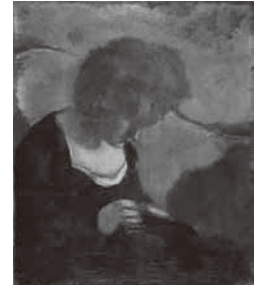
2024 年度収蔵作品

* 各作品について、作者名(和英)、作品名、制作年、技法・材質(形状)、寸法(cm、特記なき平面作品はイメージサイズ/シートサイズ)、台帳番号、種別を記した。

* 作者名(五十音順、日本人作家/外国人作家)、制作年(昇順)に従って配列している。ただし、まとまったコレクションなどについては、個別に掲載した。

購入

1. 恩地 孝四郎 ONCHI Koshiro
アレゴリー No.2 廃墟
1948(昭和23)
木版、紙
51.8×40.0
13726 版画
2. 川口 軌外 KAWAGUCHI Kigai
鳥尾川風景(丹生ノ図)
1911(明治44)頃
水彩、紙
33.0×49.5
13729 水彩・素描
3. 木下 孝則 KINOSHITA Takanori
針仕事する女
1921-1924(大正10-大正13)
油彩、キャンパス
55.5×46.0
13725 油彩

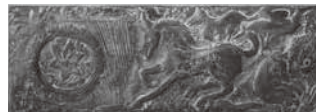
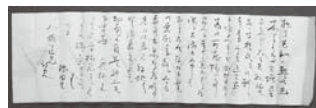


4. 戸張 孤雁 TOBARI Kogan
玉乗り
1914(大正3)
木版、紙
35.2×25.2/45.3×33.2
13727 版画
5. 南野 馨 MINAMINO Kaoru
untitled 1402
2014(平成26)
陶
146.0×152.0×152.0
13728 工芸

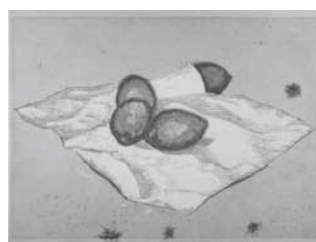


寄贈

1. 内島 北朗 UCHIJIMA Hokuro
八瀬敏太郎宛書簡
年不詳10月16日
封筒、本紙2枚
八瀬万里子氏寄贈
13847 資料
2. 小作 青史 OZAKU Seishi
[馬]
1991(平成3)
銅板、合板
10.4×29.5×1.9
松浦敬紀氏寄贈
13817 工芸
3. 小作 青史 OZAKU Seishi
[少女]
制作年不詳
銅板、合板
20.0×18.5×1.6
松浦敬紀氏寄贈
13816 工芸



4. 恩地 孝四郎 ONCHI Koshiro
月映社 年賀状
1915(大正4)年1月1日消印
木版・ペン、紙
14.0×9.0
荒井由泰氏寄贈
13797 版画
5. 恩地 孝四郎 ONCHI Koshiro
「今代婦人八態」鏡
1929(昭和4)
木版、紙
24.0×25.4/35.0×27.4
伊東進氏寄贈
13798 版画
6. 恩地 孝四郎 ONCHI Koshiro
「果実六題」檸檬白布
1933(昭和8)
木版、紙
23.3×32.4/25.0×33.2
伊東進氏寄贈
13799 版画
7. 恩地 孝四郎 ONCHI Koshiro
「今代婦人八態」珈琲
1933(昭和8)
木版、紙
32.7×25.6/35.7×26.9
伊東進氏寄贈
13800 版画



8. 恩地 孝四郎 ONCHI Koshiro
「今代婦人八態」湯上り

1934(昭和9)
木版、紙
32.9×24.8/35.7×27.8
伊東進氏寄贈
13801 版画



9. 恩地 孝四郎 ONCHI Koshiro
湯上り 試刷

1934(昭和9)
木版、紙
21.1×25.0/38.1×28.6
樋口良一氏寄贈
13802 版画



10. 恩地 孝四郎 ONCHI Koshiro
湯上り 試刷

1934(昭和9)
木版、紙
21.1×25.0/35.4×27.6
樋口良一氏寄贈
13803 版画



11. 恩地 孝四郎 ONCHI Koshiro
「果実六題」荔枝一枝

1934(昭和9)
木版、紙
9.5×23.8/25.0×33.2
伊東進氏寄贈
13804 版画



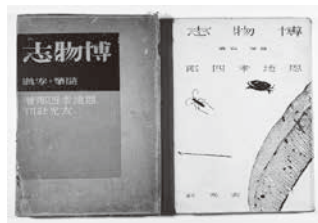
12. 恩地 孝四郎 ONCHI Koshiro
星子夕寂

1939(昭和14)
水彩、紙(色紙)
27.3×27.3
伊東進氏寄贈
13821 水彩・素描



13. 恩地 孝四郎 ONCHI Koshiro
恩地孝四郎著『博物志』

1942(昭和17)
書籍
26.8×19.2×1.4
伊東進氏寄贈
13834 資料



14. 恩地 孝四郎 ONCHI Koshiro
恩地孝四郎著『本の美術』

1952(昭和27)
書籍
26.4×19.8×1.1
伊東進氏寄贈
13835 資料



15. 恩地 孝四郎 ONCHI Koshiro
春

1953(昭和28)
水彩、紙(色紙)
27.0×24.0
伊東進氏寄贈
13822 水彩・素描



16. 笠木 實 KASAGI Minoru
カーナバルの夜 デッサン

1940(昭和15)
コンテ・パステル、紙
46.4×64.4
笠木ゆり氏寄贈
13823 水彩・素描



17. 笠木 實 KASAGI Minoru
Yuri嬢 デッサン

1941(昭和16)
コンテ・パステル、紙
64.5×47.8
笠木ゆり氏寄贈
13824 水彩・素描



18. 笠木 實 KASAGI Minoru
[三人]

1940年代
エッチング・パステル、紙
48.0×36.3/61.6×39.3
笠木ゆり氏寄贈
13805 版画



19. 笠木 實 KASAGI Minoru
三彩馬

1964(昭和39)
鉛筆・水彩、紙
35.4×25.0
笠木ゆり氏寄贈
13825 水彩・素描



20. 亀井 玄兵衛 KAMEI Genbei
月の出

1971(昭和46)
紙本着色(二曲一隻屏風)
167.8×184.0
松井真砂子氏寄贈
13730 日本画



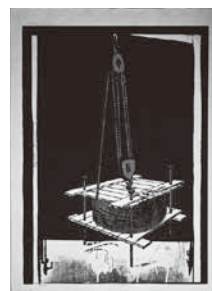
21. 亀井 玄兵衛 KAMEI Genbei
花菖蒲

1976(昭和51)
紙本着色(二曲一隻屏風)
72.0×149.0
松井真砂子氏寄贈
13731 日本画



22. 河内 成幸 KAWACHI Seiko
気の遠くなる話

1975(昭和50)
木版、紙
60.7×43.5/68.2×48.9
松浦敬紀氏寄贈
13806 版画



23. 河内 成幸 KAWACHI Seiko
飛べ(Ⅲ)

1989(昭和64/平成元)
木版、紙
26.5×40.0/31.7×46.7
松浦敬紀氏寄贈
13807 版画



24. 川口 軌外 KAWAGUCHI Kigai
裸婦デッサン
1917(大正6)
鉛筆、紙
37.0×27.0
狩野絃信氏寄贈
13826 水彩・素描



25. 川口 軌外 KAWAGUCHI Kigai
鳥と少女
1937(昭和12)
油彩、キャンパス
117.0×91.2
狩野絃信氏寄贈
13760 洋画



26. 木下 孝則 KINOSHITA Takanori
バレリーナ
1962-1965(昭和37-40)頃
油彩、キャンパス
72.5×60.6
木下高明氏寄贈
13761 洋画



27. 木村 忠太 KIMURA Chuta
[はしご]
制作年不詳
リトグラフ、紙
34.5×53.0/44.8×67.0
松浦敬紀氏寄贈
13808 版画



28. 木村 忠太 KIMURA Chuta
[作品]
制作年不詳
リトグラフ、紙
34.1×49.0/45.1×60.8
松浦敬紀氏寄贈
13809 版画



29. 鯉江 良二 KOIE Ryoji
[作品]
1986(昭和61)
陶(額装)
29.2×29.2/30.4×30.4×2.7
松浦敬紀氏寄贈
13818 工芸



30. 小松 均 KOMATSU Hitoshi
牡丹大王圖
1969(昭和44)頃
エッチング、紙
39.3×54.8/45.3×61.3
尾崎孝氏寄贈
13810 版画



31. 榊原 紫峰 SAKAKIBARA Shiho
団扇貼交屏風
制作年不詳(大正期)
紙本着色(二曲一隻屏風、扇面四面貼付)
152.0×132.0(屏風)
八瀬万里子氏寄贈
13732 日本画



32. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
[オーベル・スワー・オワイズ寺院]
1977(昭和52)
油彩、キャンパス
23.0×16.0
岡畑典裕氏寄贈
13762 洋画



33. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
A Little Church around Corner
1979(昭和54)
油彩、キャンパス
162.5×130.4
岡畑典裕氏寄贈
13763 洋画



34. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
岡畑ミサオ氏肖像
1979(昭和54)
油彩、キャンパス
41.0×32.0
岡畑典裕氏寄贈
13764 洋画



35. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
古水車屋
1980(昭和55)
油彩、キャンパス
22.5×27.5
岡畑典裕氏寄贈
13765 洋画



36. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
オーベル・スワー・オワイズ寺院
1980(昭和55)
油彩、キャンパス
19.3×24.0
岡畑典裕氏寄贈
13766 洋画



37. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
パレソー寺院と僧侶
1980(昭和55)
インク・水彩、紙
36.0×29.5/44.0×33.3
岡畑典裕氏寄贈
13827 水彩・素描



38. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
岡畑圭吾氏肖像(宮島にて)
1981(昭和56)
油彩、キャンパス
71.6×60.0
岡畑典裕氏寄贈
13767 洋画



39. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
岡畑圭吾氏肖像
1982(昭和57)
油彩、キャンパス
50.1×40.3
岡畑典裕氏寄贈
13768 洋画



40. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
[画帖]
1982(昭和57)
画帖
24.3×18.0×2.8
岡畑典裕氏寄贈
13851 資料



41. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
メモリーの歌
制作年不詳(戦後)
油彩、キャンバス
91.0×73.0
岡畑典裕氏寄贈
13769 洋画



42. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
ルー・セインの壁
制作年不詳(戦後)
油彩・コラージュ、キャンバス
91.2×73.1
岡畑典裕氏寄贈
13770 洋画



43. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
藤田と猫
制作年不詳(戦後)
油彩・コラージュ、キャンバス
50.8×40.6
岡畑典裕氏寄贈
13771 洋画



44. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
パリー新聞店
制作年不詳(戦後)
油彩、キャンバス
45.8×38.3
岡畑典裕氏寄贈
13772 洋画



45. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
家路(我が家への帰り)
制作年不詳(戦後)
油彩、キャンバス
16.0×23.0
岡畑典裕氏寄贈
13773 洋画



46. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
或る田舎寺院
制作年不詳(戦後)
油彩、キャンバス
23.0×16.0
岡畑典裕氏寄贈
13774 洋画



47. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
[収容所風景 生活]
制作年不詳(戦後)
リトグラフ、紙
26.3×29.5/37.0×39.5
岡畑典裕氏寄贈
13811 版画



48. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
[収容所風景 枯木]
制作年不詳(戦後)
リトグラフ、紙
26.3×29.5/34.0×39.5
岡畑典裕氏寄贈
13812 版画



49. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
[収容所風景 鉄条網]
制作年不詳(戦後)
リトグラフ、紙
26.3×29.5/34.0×39.7
岡畑典裕氏寄贈
13813 版画



50. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
[パリ風景 Place St. Genevieve, Paris]
制作年不詳(戦後)
インク・水彩、紙
24.5×26.0
岡畑典裕氏寄贈
13828 水彩・素描



51. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
[パリ風景 荷車]
制作年不詳(戦後)
インク・水彩、紙
24.0×27.0
岡畑典裕氏寄贈
13829 水彩・素描

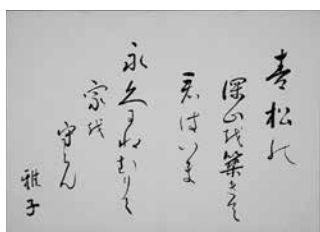
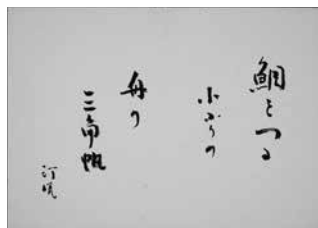
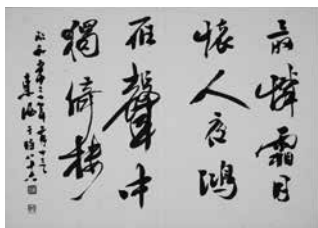


52. ヘンリー 杉本 SUGIMOTO Henry
[パリ風景 清掃]
制作年不詳(戦後)
インク・水彩、紙
24.3×27.3
岡畑典裕氏寄贈
13830 水彩・素描

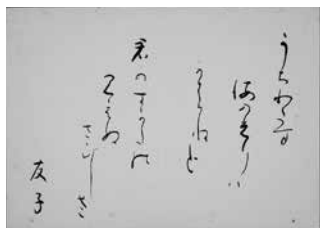


53. ヘンリー 杉本ほか SUGIMOTO Henry etc.
静観帖
制作年不詳(戦後)
画帖
24.0×16.7×3.0
岡畑典裕氏寄贈
13850 資料





54. 武井 武雄 TAKEI Takeo
『銅版繪本 地上の祭』
1938(昭和13)
エッチング・リトグラフ、紙(書籍)
35.8×30.3×2.0
伊東進氏寄贈
13814 版画

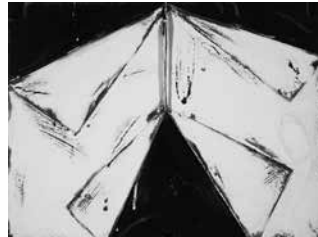


55. 建畠 覚造 TATEHATA Kakuzo
UNDERGROUND 1
1979(昭和54)
木、合板、真鍮
18.0×40.0×40.0
菅原猛氏寄贈
13815 彫塑

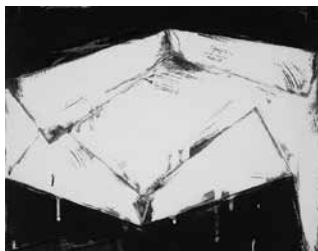
56. 田中 保 TANAKA Yasushi
裸婦デッサン
制作年不詳(1920-30年代か)
コンテ、紙
36.0×48.8/47.8×63.1
松浦敬紀氏寄贈
13831 水彩・素描

57. 中西 利雄 NAKANISHI Toshio
『眼鏡の女性』
1946(昭和21)
水彩・鉛筆、紙
36.2×25.9
笠木ゆり氏寄贈
13832 水彩・素描

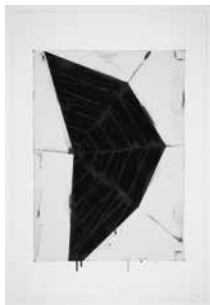
58. 野田 裕司 NODA Hiroji
Work 689
1992(平成4)
アクリル、綿布
32.0×41.0
菅原猛氏寄贈
13776 洋画



59. 野田 裕示 NODA Hiroji
Work 692
1992(平成4)
アクリル、綿布
32.0×41.0
菅原猛氏寄贈
13777 洋画



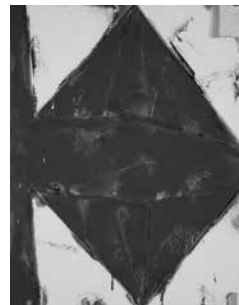
60. 野田 裕示 NODA Hiroji
Work D-7
1993(平成5)
アクリル、紙
73.5×50.0
菅原猛氏寄贈
13778 洋画



61. 野田 裕示 NODA Hiroji
Work 926
1995(平成7)
アクリル、綿布
32.0×41.0
菅原猛氏寄贈
13779 洋画



62. 野田 裕示 NODA Hiroji
Work 933
1995(平成7)
アクリル、綿布
32.0×41.0
菅原猛氏寄贈
13780 洋画



63. 野田 裕示 NODA Hiroji
Work D-363
1999(平成11)
アクリル、紙
56.0×38.0
菅原猛氏寄贈
13781 洋画



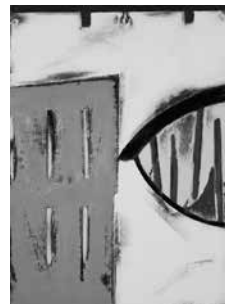
64. 野田 裕示 NODA Hiroji
Work D-371
1999(平成11)
アクリル、紙
56.0×38.0
菅原猛氏寄贈
13782 洋画



65. 野田 裕示 NODA Hiroji
Work 1204
2000(平成12)
アクリル、キャンバス
21.0×15.0
菅原猛氏寄贈
13783 洋画



66. 野田 裕示 NODA Hiroji
Work 1226
2000(平成12)
アクリル、キャンバス
21.0×15.0
菅原猛氏寄贈
13784 洋画



67. 野田 裕示 NODA Hiroji
Work D-'01-1
2001(平成13)
アクリル、紙
63.8×31.9
菅原猛氏寄贈
13785 洋画



68. 野田 裕示 NODA Hiroji
Work D-'01-26
2001(平成13)
アクリル、紙
64.0×32.0
菅原猛氏寄贈
13786 洋画



69. 野田 裕示 NODA Hiroji
Work D-'01-30
2001(平成13)
アクリル、紙
64.0×32.0
菅原猛氏寄贈
13787 洋画



70. 野田 裕示 NODA Hiroji
Work D-'01-34
2001(平成13)
アクリル、紙
64.0×32.0
菅原猛氏寄贈
13788 洋画



71. 野長瀬 晩花 NONAGASE Banka
[スペインの踊り子]
制作年不詳(昭和期)
紙本着色(色紙)
27.2×24.2
水嶋龍一郎氏寄贈
13733 日本画



72. 野長瀬 晩花 NONAGASE Banka
巴里の凱旋門
制作年不詳(昭和期)
紙本着色(額装)
38.8×52.8
河合晴子氏寄贈
13734 日本画



73. 野長瀬 晩花 NONAGASE Banka
初夏の高原
制作年不詳(昭和期)
紙本着色(軸装)
133.8×33.4
河合晴子氏寄贈
13735 日本画



74. 野長瀬 晩花 NONAGASE Banka
初秋の戦場ヶ原
制作年不詳(昭和期)
紙本着色(色紙)
27.2×24.1
河合晴子氏寄贈
13736 日本画



75. 野長瀬 晩花 NONAGASE Banka
シンガポールの街
制作年不詳(昭和期)
紙本着色(色紙)
27.2×24.2
河合晴子氏寄贈
13737 日本画



76. 野長瀬 晩花 NONAGASE Banka
スペイン トレドの水汲み
制作年不詳(昭和期)
紙本着色(色紙)
24.0×27.1
河合晴子氏寄贈
13738 日本画



77. 野長瀬 晩花 NONAGASE Banka
[こけし]
制作年不詳(昭和期)
紙本着色(色紙)
26.9×24.2
河合晴子氏寄贈
13739 日本画



78. 橋本 関雪 HASHIMOTO Kansetsu
江亭賞梅図 / 松雲塔影図
大正末-昭和初期
絹本着色(軸装、対幅)
各147.9×36.0
木下高明氏寄贈
13740 日本画



79. 浜地 清松 HAMAJI Seimatsu
雲
1922(大正11)
油彩、キャンバス
40.8×51.0
星野桂三氏・万美子氏寄贈
13775 洋画



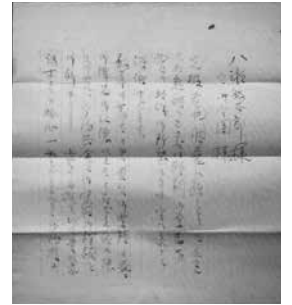
80. 林 武 HAYASHI Takeshi
静物
1922-1923(大正11-12)頃
油彩、キャンバス
33.4×53.2
八瀬万里子氏寄贈
13789 洋画



81. 林 武 HAYASHI Takeshi
早春風景
1938(昭和13)
油彩、キャンバス
53.0×45.0
八瀬万里子氏寄贈
13790 洋画



82. 林 武、林 幹子 HAYASHI
Takeshi, HAYASHI Mikiko
八瀬敏太郎宛書簡
年不詳11月21日
封筒、便箋4枚
八瀬万里子氏寄贈
13848 資料



83. 速水 御舟 HAYAMI Gyoshu
竹生図
1928(昭和3)
絹本着色(軸装)
124.8×41.2
木下高明氏寄贈
13741 日本画



84. 原 勝四郎 HARA Katsushiro
静物
制作年不詳(昭和戦前期)
油彩、板
41.0×32.0
八瀬万里子氏寄贈
13791 洋画



85. 原 勝四郎 HARA Katsushiro
網不知
制作年不詳(昭和戦前期)
油彩、板
21.0×27.2
落田紀子氏寄贈
13792 洋画



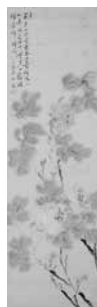
86. 原 勝四郎 HARA Katsushiro
静物
制作年不詳(1950年以降)
油彩、板
27.2×21.2
落田紀子氏寄贈
13793 洋画



87. 原 勝四郎 HARA Katsushiro
花
制作年不詳(昭和戦前期)
水彩、紙
27.0×24.3
八瀬万里子氏寄贈
13833 水彩・素描



88. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
風牡丹之図
1919(大正8)
紙本着色(軸装)
136.5×41.9
八瀬万里子氏寄贈
13742 日本画



89. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
静物
1924(大正13)
紙本墨画淡彩(軸装)
34.0×33.6
八瀬万里子氏寄贈
13743 日本画



90. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
墨梅
1925(大正14)
紙本墨画(軸装)
136.2×34.0
八瀬万里子氏寄贈
13744 日本画



91. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
梅花叭々鳥之図

1931(昭和6)
紙本着色(軸装)
131.4×41.8
八瀬万里子氏寄贈
13745 日本画



92. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
長門峡

1942(昭和17)頃
紙本墨画(軸装)
135.0×46.3
八瀬万里子氏寄贈
13746 日本画



93. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
秋郊

1942(昭和17)頃
紙本墨画淡彩(軸装)
134.4×42.1
八瀬万里子氏寄贈
13747 日本画



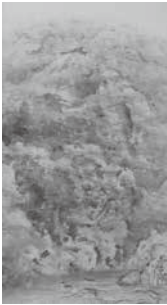
94. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
杉溪清流

1943(昭和18)
紙本墨画(軸装)
29.5×40.0
八瀬万里子氏寄贈
13748 日本画



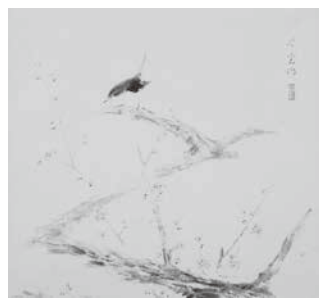
95. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
江山幽潤

1955(昭和30)
紙本着色(軸装)
55.0×30.3
八瀬万里子氏寄贈
13749 日本画



96. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
田作梅鶯図

制作年不詳(1935-1944年頃)
紙本墨画淡彩(軸装)
51.7×56.0
八瀬万里子氏寄贈
13750 日本画



97. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
水邊白鷺

制作年不詳(1935-1944年頃)
紙本墨画(軸装)
130.5×30.2
八瀬万里子氏寄贈
13751 日本画



98. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
春の森(奈良)

制作年不詳(1935-1944年頃)
紙本墨画(軸装)
62.2×30.4
八瀬万里子氏寄贈
13752 日本画



99. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
翠嵐

制作年不詳(1940-1950年頃)
紙本着色(軸装)
133.0×41.6
八瀬万里子氏寄贈
13753 日本画



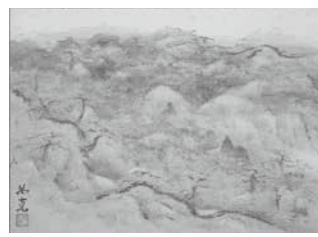
100. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
暁の山

制作年不詳(1949-1952年頃)
紙本墨画(軸装)
22.8×30.6
八瀬万里子氏寄贈
13754 日本画



101. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
高原錦秋

制作年不詳(1953-1960年頃)
紙本着色(軸装)
34.8×48.4
八瀬万里子氏寄贈
13755 日本画



102. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
瀧之図

制作年不詳
紙本墨画(軸装)
72.3×20.6
八瀬万里子氏寄贈
13756 日本画



103. 日高 昌克 ほか HIDAKA Shokoku etc.
寄合書画卷

制作年不詳
墨、紙(未装)
19.0×331.0
八瀬万里子氏寄贈
13836 資料



104. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
八瀬敏太郎宛葉書
1934(昭和9)年6月28日
葉書1枚
八瀬万里子氏寄贈
13842 資料



105. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
八瀬敏太郎宛葉書
1939(昭和14)年5月20日
葉書1枚
八瀬万里子氏寄贈
13843 資料



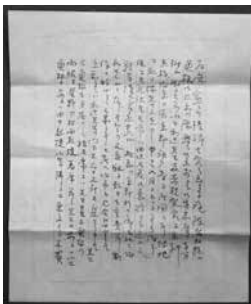
106. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
八瀬敏太郎宛葉書
1945(昭和20)年月日不詳
葉書1枚
八瀬万里子氏寄贈
13844 資料



107. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
八瀬敏太郎宛書簡
1945(昭和20)年7月31日
封筒、便箋3枚
八瀬万里子氏寄贈
13838 資料



108. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
八瀬敏太郎宛書簡
年月不詳(昭和13年頃)年12月1日
封筒、便箋4枚
八瀬万里子氏寄贈
13837 資料



109. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
八瀬敏太郎妻宛書簡
年月不詳3月31日
封筒、便箋1枚
八瀬万里子氏寄贈
13839 資料



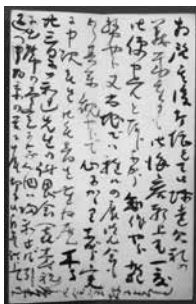
110. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
八瀬敏太郎宛書簡
年月不詳16日
本紙1枚
八瀬万里子氏寄贈
13840 資料



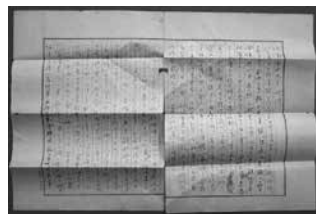
111. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
八瀬敏太郎宛書簡
年月日不詳
封筒、便箋1枚
八瀬万里子氏寄贈
13841 資料



112. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
八瀬敏太郎宛葉書
年月日不詳
葉書1枚
八瀬万里子氏寄贈
13845 資料



113. 日高 昌克 HIDAKA Shokoku
原稿「祇園南海先生略伝」
不詳
原稿用紙3枚
八瀬万里子氏寄贈
13846 資料



114. 『日高昌克作品集』第一集
1940(昭和15)
絵はがき4枚、包み紙
八瀬万里子氏寄贈
13849 資料



115. 藤島 武二 FUJISHIMA Takeji
新高山の暁
1934(昭和9)
油彩、キャンパス
33.5×45.8
木下高明氏寄贈
13794 洋画



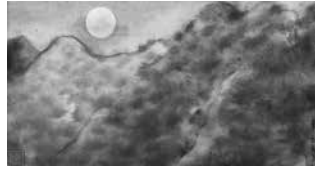
116. 松岡 壽 MATSUOKA Hisashi
伊太利農夫
1881(明治14)頃
油彩、キャンバス
60.6×50.1
東恩納裕一氏寄贈
13795 洋画



117. 三栖 敏雄 [推定] [MISU Toshio]
[少女像]
1913(大正2)
油彩、キャンバス
41.1×32.0
宮本學氏寄贈
13796 洋画



118. 村上 華岳 MURAKAMI Kagaku
仲秋月明之図
1937(昭和12)
紙本墨画淡彩(軸装)
33.4×63.7
木下高明氏寄贈
13757 日本画



119. 保田 龍門 YASUDA Ryumon
兄弟
制作年不詳(1940年代前半)
紙本墨画淡彩(額装)
43.6×59.6
落田紀子氏寄贈
13758 日本画



120. 作者不詳(宗太郎) [Sotaro]
[白浜風景]
制作年不詳(大正期)
紙本着色(額装)
50.5×100.5
沼田香代子氏寄贈
13759 日本画



121. ハーブ・リッツ Herb RITTS
Consuelo, Paradise Cove
1984(昭和59)
ゼラチンシルバープリント
46.7×37.5
川口正浩氏寄贈
13819 写真



122. ハーブ・リッツ Herb RITTS
Black Female Torso, Los Angeles
1986(昭和61)
ゼラチンシルバープリント
58.0×43.0
川口正浩氏寄贈
13820 写真



佐藤春夫旧蔵作品資料
(高橋百百子氏寄贈)

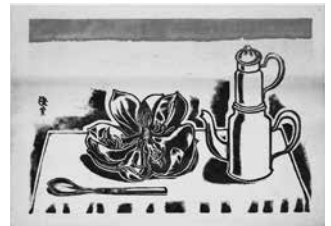
123. 川上 澄生 KAWAKAMI Sumio
静物(ジョッキ)
1925(大正14)
木版、紙
11.8×10.0/13.9×13.2
13861 版画



124. 川上 澄生 KAWAKAMI Sumio
洋燈とアルファベット読本
1926(大正15/昭和元)
木版、紙
20.9×30.5/28.7×40.5
13862 版画



125. 川上 澄生 KAWAKAMI Sumio
朴の花とポット
1926(大正15/昭和元)
木版、紙
22.0×32.0/25.6×35.6
13863 版画



126. 川上 澄生 KAWAKAMI Sumio
絵ノ上ノ静物
1926(大正15/昭和元)
木版、紙
22.0×30.6
13864 版画



127. 川上 澄生 KAWAKAMI Sumio
蛇苺
1927(昭和2)
木版、空摺り、紙
25.0×32.8
13865 版画



128. 川上 澄生 KAWAKAMI Sumio
蛇苺
1927(昭和2)
木版、空摺り、紙
24.0×34.3
13866 版画



129. 川上 澄生 KAWAKAMI Sumio
静物(夜の洋燈)
1928(昭和3)
木版、紙
23.4×29.5/29.1×40.8
13867 版画



130. 川上 澄生 KAWAKAMI Sumio
 的：三部作のうち〈当る〉
 1928(昭和3)
 木版、紙
 21.0×31.2/24.0×33.5
 13868 版画



131. 川上 澄生 KAWAKAMI Sumio
 的：三部作のうち〈狙う〉
 1928(昭和3)
 木版、紙
 22.0×31.3/24.1×33.4
 13869 版画



132. 川上 澄生 KAWAKAMI Sumio
 看板小景
 1929(昭和4)
 木版、紙
 20.1×13.9/20.8×14.7
 13870 版画



133-1. 川上 澄生 KAWAKAMI Sumio
 伊曾保物語 天：口絵
 1931(昭和6)
 木版、紙
 10.0×13.5/13.7×17.5
 13871-1 版画



133-2. 川上 澄生 KAWAKAMI Sumio
 伊曾保物語 天：病気の牡鹿
 1931(昭和6)
 木版、紙
 9.9×13.8/13.8×17.4
 13871-2 版画



133-3. 川上 澄生 KAWAKAMI Sumio
 伊曾保物語 天：にわとりと宝石
 1931(昭和6)
 木版、紙
 10.2×13.9/13.5×17.4
 13871-3 版画



133-4. 川上 澄生 KAWAKAMI Sumio
 伊曾保物語 天：鈴をつけた猫
 1931(昭和6)
 木版、紙
 10.3×14.0/13.6×17.3
 13871-4 版画



134. 川上 澄生 KAWAKAMI Sumio
 [野菜]
 制作年不詳
 木版、紙
 15.2×21.2
 13872 版画



135-1. 川西 英 KAWANISHI Hide
 南蛮曲 第三：たとう
 1928(昭和3)初版/1930(昭和5)再刊
 木版、紙
 19.6×14.1
 13874-1 版画



135-2. 川西 英 KAWANISHI Hide
 南蛮曲 第三：春の散歩
 1928(昭和3)初版/1930(昭和5)再刊
 木版、紙
 16.3×7.6
 13874-2 版画



135-3. 川西 英 KAWANISHI Hide
 南蛮曲 第三：静物
 1928(昭和3)初版/1930(昭和5)再刊
 木版、紙
 8.6×13.7
 13874-3 版画



136. 川西 英 KAWANISHI Hide
 少女
 1929(昭和4)
 木版、紙
 31.0×22.2/34.0×24.1
 13873 版画



137. 川西 英 KAWANISHI Hide
 南蛮曲 IV：たとう
 1930(昭和5)
 木版、紙
 19.9×14.2
 13875 版画



138. 川端 龍子 KAWABATA Ryushi
 さくらの花印刷原板
 制作年不詳
 鉛
 5.0×6.3
 13910 資料



139. 佐藤 春夫 SATO Haruo
 [花]
 制作年不詳
 油彩、キャンパス
 45.8×38.2
 13857 洋画



140. 里見 勝蔵 SATOMI Katsuzo
 佐藤春夫像
 1944(昭和19)頃
 油彩、板
 45.5×30.2
 13858 洋画



141. 高村 光太郎 TAKAMURA Kotaro
老人の首
1924(大正13)/1956(昭和31) 鑄造
ブロンズ
h.14.2×8.5×10.5
13908 彫塑



142. 伝 高村 光太郎 [TAKAMURA Kotaro]
蝉 帖鎮
制作年不詳(戦後)
木
h.3.0×7.5×2.7
13907 彫塑



143. 谷中 安規 TANINAKA Yasunori
実験室
1931(昭和6)
木版、紙
22.0×15.9
13879 版画



144. 谷中 安規 TANINAKA Yasunori
日の輪くぐり
1931(昭和6)頃
木版、紙
22.3×15.5
13880 版画



145. 谷中 安規 TANINAKA Yasunori
[剣を持つ男]
1931(昭和6)頃
木版、紙
14.8×11.7
13881 版画



146. 谷中 安規 TANINAKA Yasunori
[裸婦]
1931(昭和6)頃
木版、紙
16.3×12.8
13882 版画



147. 谷中 安規 TANINAKA Yasunori
画想
1932(昭和7)頃
木版、紙
15.5×11.2
13883 版画



148. 谷中 安規 TANINAKA Yasunori
金魚と花
1933(昭和8)
木版、紙
15.9×19.8
13884 版画



149. 谷中 安規 TANINAKA Yasunori
鍵
1933(昭和8)
木版、紙
17.1×23.0
13885 版画



150. 谷中 安規 TANINAKA Yasunori
可愛い龍
1933(昭和8)
木版、紙
15.7×19.1
13886 版画



151. 谷中 安規 TANINAKA Yasunori
花鳥
1933(昭和8)
木版、紙
16.1×17.6
13887 版画



152. 谷中 安規 TANINAKA Yasunori
ロケーション
1933(昭和8)
木版、紙
14.0×18.6
13888 版画



153. 谷中 安規 TANINAKA Yasunori
瞑想氏
1933(昭和8)
木版、紙
17.0×23.5
13889 版画



154. 谷中 安規 TANINAKA Yasunori
花は花
1933(昭和8)
木版、紙
16.0×23.1
13890 版画



155. 谷中 安規 TANINAKA Yasunori
『方寸版画』創刊号 幻想集
1933(昭和8)
冊子、木版画10点挿入
21.3×20.0×0.5
13891 版画



155-1.
僕(『方寸版画』創刊号 幻想集より)
9.7×9.7
13891-1 版画



155-2.

夜(『方寸版画』創刊号 幻想集より)
9.5×9.3/9.8×9.8
13891-2 版画



155-3.

刀(『方寸版画』創刊号 幻想集より)
8.8×9.1/9.6×9.5
13891-3 版画



155-4.

酒(『方寸版画』創刊号 幻想集より)
8.5×9.2/9.7×10.3
13891-4 版画



155-5.

灯(『方寸版画』創刊号 幻想集より)
9.5×9.7/9.6×9.8
13891-5 版画



155-6.

空(『方寸版画』創刊号 幻想集より)
9.7×9.7/9.8×9.8
13891-6 版画



155-7.

火(『方寸版画』創刊号 幻想集より)
9.5×9.5/9.7×9.7
13891-7 版画



155-8.

旅(『方寸版画』創刊号 幻想集より)
8.5×9.0/9.0×9.5
13891-8 版画



155-9.

力(『方寸版画』創刊号 幻想集より)
9.2×9.3/9.5×9.8
13891-9 版画



155-10.

雲(『方寸版画』創刊号 幻想集より)
9.2×9.3/9.5×9.8
13891-10 版画



156. 谷中安規 TANINAKA Yasunori

街の本
1935(昭和10)
木版、紙
13892 版画



156-1. 谷中安規 TANINAKA Yasunori

街の本：渋谷
1935(昭和10)
木版、紙
18.7×24.1
13892-1 版画



156-2. 谷中安規 TANINAKA Yasunori

街の本：動坂
1935(昭和10)
木版、紙
18.9×25.2
13892-2 版画



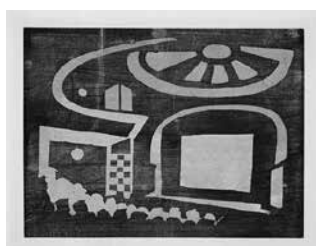
156-3. 谷中安規 TANINAKA Yasunori

街の本：ムーラン・ルージュ
1935(昭和10)
木版、紙
19.3×24.2
13892-3 版画



156-4. 谷中安規 TANINAKA Yasunori

街の本：シネマ
1935(昭和10)
木版、紙
18.7×23.7
13892-4 版画



157. 谷中安規 TANINAKA Yasunori

文豪 佐藤春夫
制作年不詳(昭和初期)
木版、紙
10.7×6.8/11.5×7.7
13893 版画



158. 谷中安規 TANINAKA Yasunori

[女性像]
制作年不詳(大正末-昭和初期)
水彩、金彩、紙
23.6×13.8
13909 水彩・素描



159. 谷中 安規 TANINAKA Yasunori
 童話絵本桃太郎 第一稿本
 制作年不詳(大正末~昭和初期)
 墨・淡彩、紙(11枚)
 27.0×39.0
 13911 資料



160. 富岡 鉄斎 TOMIOKA Tessai
 仏手柑南天図扇面
 1915(大正4)
 紙本着色(扇面)
 23.4×29.3
 13852 日本画



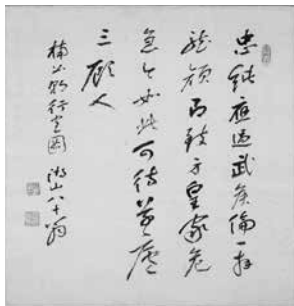
161-1. 富岡 鉄斎 TOMIOKA Tessai
 丹霞和尚焚仏之図
 1893(明治26)頃
 紙本墨画淡彩(軸装、三幅対)
 25.3×24.8
 13853-1 日本画



161-2. 森 琴石 MORI Kinseki
 梅溪帰隠図
 1893(明治26)
 紙本墨画淡彩(軸装、三幅対)
 25.3×24.8
 13853-2 日本画



161-3. 小野 湖山 ONO Kozan
 漢詩：楠公
 1893(明治26)
 紙本墨書(軸装、三幅対)
 25.3×24.8
 13853-3 日本画



162. 平川 清蔵 [推定] [HIRAKAWA Seizo]
 佐藤春夫蔵書票
 制作年不詳
 木版、紙(39枚)
 各12.0×7.6
 13877 版画



163. 深澤 素一 FUKAZAWA Sakuichi
 [風景]
 制作年不詳(大正末~昭和初期)
 木版、紙
 20.0×28.2/22.2×30.5
 13894 版画



164. 宮下 登喜雄 MIYASHITA Tokio
 蔵書票：能火野人
 1964(昭和39)頃
 エッチング、革
 9.3×6.0
 13895 版画



165. 麻田 辨自 ASADA Benji
 新日本百景：12 琵琶湖(滋賀県)
 1939(昭和14)
 木版、紙
 22.7×30.0/25.1×32.5
 13896 版画



166. 旭 泰宏 ASAHI Yasuhiro
 新日本百景：15 京三条大橋の雨
 (京都市)
 1939(昭和14)
 木版、紙
 22.6×30.0/25.8×32.5
 13897 版画



167. 畦地 梅太郎 AZECHI Umetaro
 新日本百景：24 石鎚山(愛媛県)
 1939(昭和14)
 木版、紙
 22.7×30.0/25.0×32.3
 13898 版画



168. 恩地 孝四郎 ONCHI Koshiro
 新日本百景：16 台北東門(台湾)
 1939(昭和14)
 木版、紙
 29.5×22.4/32.8×24.6
 13899 版画



169. 小泉 癸巳男 KOIZUMI Kishio
 新日本百景：22 冬の猿橋(山梨県)
 1939(昭和14)
 木版、紙
 30.0×22.6/32.8×25.8
 13900 版画



170. 琴塚 英一 KOTOZUKA Eiichi
 新日本百景：21 奈良東大寺大鐘楼
 (奈良県)
 1939(昭和14)
 木版、紙
 23.2×30.2/24.4×31.8
 13901 版画



171. 小林 朝治 KOBAYASHI Asaji
 新日本百景：23 志賀高原(長野県)
 1939(昭和14)
 木版、紙
 22.8×29.9/25.0×32.8
 13902 版画



172. 武田 新太郎 TAKEDA Shintaro
 新日本百景：17 夏之保津峡(京都府)
 1939(昭和14)
 木版、紙
 23.1×30.2/25.0×32.7
 13903 版画



173. 逸見 享 HENMI Takashi
新日本百景：13 潮来晩秋（茨城県）
1939(昭和14)
木版、紙
22.6×30.0/25.5×32.1
13904 版画



174. 前田 政雄 MAEDA Masao
新日本百景：18 小笠原母島（東京府）
1939(昭和14)
木版、紙
22.8×29.9/25.0×32.8
13905 版画



175. 作者不詳 Unknown
〔男性像〕
1930(昭和5)
油彩、キャンパス
30.7×48.2
13855 洋画



176. 作者不詳 Unknown
庭園一隅
制作年不詳
油彩、キャンパス
41.2×32.2
13856 洋画



177. 作者不詳 / 長崎絵 Unknown
紅毛人康楽之図
江戸時代(18世紀後期～19世紀中期)
木版、紙
20.6×31.2
13876 版画



178. 作者不詳 Unknown
〔荷車をひく人〕
制作年不詳
切り絵、紙
23.4×29.3
13878 版画



179. 『白と黒』第24号
1932(昭和7)
冊子、木版画9点挿入
31.8×22.5
13906 版画



179-1. 前川 千帆 MAEKAWA Senpan
野外小品(第廿六) 山中驛(『白と黒』第24号より)
木版、紙
12.1×12.2/21.6×15.3
13906-1 版画



179-2. 谷中 安規 TANINAKA Yasunori
夢の國の驛(『白と黒』第24号より)
木版、紙
11.8×16.1
13906-2 版画



179-3. 小川 龍彦 OGAWA Tatsuhiko
秋葉原驛(『白と黒』第24号より)
木版、紙
12.5×16.0
13906-3 版画



179-4. 佃 政道 TSUKUDA Masamichi
驛頭(『白と黒』第24号より)
木版、紙
14.3×20.4
13906-4 版画



179-5. 料治 朝鳴／熊太 RYOJI Chomei
驛のひる(處女作)(『白と黒』第24号より)
木版、紙
11.0×14.2
13906-5 版画



179-6. 中川 雄太郎 NAKAGAWA Yutaro
プラットフォーム(『白と黒』第24号より)
木版、紙
13.8×16.7
13906-6 版画



179-7. 中田 一男 NAKATA Kazuo
情景(『白と黒』第24号より)
木版、紙
13.6×8.9/17.5×11.5
13906-7 版画



179-8. 武藤 完一 MUTO Kanichi
驛近く(『白と黒』第24号より)
木版、紙
13.5×13.5/17.5×11.5
13906-8 版画



179-9. 料治 朝鳴／熊太 RYOJI Chomei
郊外の驛(『白と黒』第24号より)
木版、紙
13.3×15.5
13906-9 版画



180.
『ゴヤの素描：プラド美術館所蔵』
1908(明治41)年刊行
書籍
40.2×28.5
13912 資料



181. ジョルジュ・ビゴー Georges BIGOT
警官のたぼう
1891(明治24)
リトグラフ、紙(19点)
13859 版画

181-1.
限定表記(「警官のたぼう」より)
8.9×13.0/12.4×17.2
13859-1 版画



181-2.
夜勤のない警官がゆったりと休息を味わう。やはり街中よりもフトンにくるまる方が温かい。(「警官のたぼう」より)
13.7×8.9/17.2×12.4
13859-2 版画



181-3.
出勤。奥さんが旦那さまにその日の食糧を手渡す。(「警官のたぼう」より)
12.8×9.2/17.2×12.4
13859-3 版画



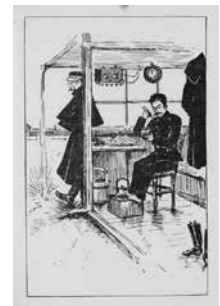
181-4.
パトロール出発前の点検。(「警官のたぼう」より)
7.1×14.6/12.4×17.2
13859-4 版画



181-5.
ケイブが部下に命令を下す。(「警官のたぼう」より)
13.8×8.8/17.2×12.4
13859-5 版画



181-6.
「タベロ」(昼食または夕食)の時間。順番を待ちかねる。(「警官のたぼう」より)
9.0×13.7/12.4×17.2
13859-6 版画



181-7.
英語はからきしだが、ポリスマンは外国人のお訊ねには答えねばならぬ。(「警官のたぼう」より)
8.9×13.7/12.4×17.2
13859-7 版画



181-8.
夜の巡回。警官は酔っぱらいにも気を配る。(「警官のたぼう」より)
8.9×13.8/12.4×17.2
13859-8 版画



181-9.
カンサツ(鑑札)のない人力車夫が、派出所へ連行される。おそらく盗難車。(「警官のたぼう」より)
8.8×13.7/12.4×17.2
13859-9 版画



181-10.
「劇場で」もっとも快適な当番…(「警官のたぼう」より)
12.8×9.1/17.2×12.4
13859-10 版画



181-11.
むろんポリスマンは「まっすぐな道」しか教えない。(「警官のたぼう」より)
8.8×13.6/12.4×17.2
13859-11 版画



181-12.
(抗弁) おまわりさん、それはわっちではなくあいつめでございます…(「警官のたぼう」より)
13.6×8.8/17.2×12.4
13859-12 版画



181-13.
吉原では、ポリスマンはかわいい寄宿者たち(湯女)が檻の外に出ぬよう目を光らせる。(「警官のたぼう」より)
8.8×13.6/12.4×17.2
13859-13 版画



181-14.
ヨーロッパ人狩猟者が許可証の提示を求められている。(「警官のたぼう」より)
8.8×13.6/12.4×17.2
13859-14 版画



181-15.

警官が火事場に駆けつける。日に三、四回ということもよくある。(「警官のたぼう」より)

13.5×8.8/17.2×12.4
13859-15 版画



181-16.

ポリスマンがなりたての若い伝令に道を教えている。(「警官のたぼう」より)

8.8×13.5/12.4×17.2
13859-16 版画



181-17.

警官が迷い子の世話をする。(「警官のたぼう」より)

8.8×13.6/12.4×17.2
13859-17 版画



181-18.

入れ替わりたいのはやまやまだが。(「警官のたぼう」より)

13.5×8.9/17.2×12.4
13859-18 版画



181-19.

「ドブ」の清掃。仕事がきちんとできているかどうか、ポリスマンが見届ける。(「警官のたぼう」より)

13.5×8.9/17.2×12.4
13859-19 版画



182. フランシスコ・デ・ゴヤ

Francisco de GOYA
ロス・カプリーチョス
刊行年不詳(1799年初版)
エッチングほか(22点)
13860 版画

182-1.

02 娘たちはハイと答えて最初に来た男と婚約する(《ロス・カプリーチョス》より)

エッチング、アクアチント、バーニッシャー、紙
21.0×15.0プレート(以下同じ)/30.3×21.3
13860-1 版画



182-2.

08 彼女は連れ去られた(《ロス・カプリーチョス》より)

エッチング、アクアチント、紙
21.2×15.0/30.3×21.3
13860-2 版画



182-3.

11 連中の手はずは整った(《ロス・カプリーチョス》より)

エッチング、アクアチント、バーニッシャー、
エングレーヴィング、紙
21.4×15.1/30.3×21.4
13860-3 版画



182-4.

14 何たる犠牲か(《ロス・カプリーチョス》より)

エッチング、アクアチント、バーニッシャー、
ドライポイント、紙
19.9×15.1/30.3×21.4
13860-4 版画



182-5.

17 ぴったりよ(《ロス・カプリーチョス》より)

エッチング、アクアチント、バーニッシャー、
エングレーヴィング、紙
21.5×15.2/30.2×21.4
13860-5 版画



182-6.

20 むしり取られて追い出され(《ロス・カプリーチョス》より)

エッチング、アクアチント、バーニッシャー、
ドライポイント、紙
21.5×15.0/30.3×21.8
13860-6 版画



182-7.

23 身から出た錆(《ロス・カプリーチョス》より)

エッチング、アクアチント、バーニッシャー、
ドライポイント、エングレーヴィング、紙
21.6×14.8/30.3×21.9
13860-7 版画



182-8.

26 彼女たちはもう席を持っている(《ロス・カプリーチョス》より)

エッチング、アクアチント、バーニッシャー、紙
21.0×15.0/30.2×21.4
13860-8 版画



182-9.

32 多感であったがため(《ロス・カプリーチョス》より)

アクアチント、紙
21.2×15.0/30.3×21.4
13860-9 版画



182-10.

35 彼女は男の鬚をそる(《ロス・カプリーチョス》より)

エッチング、アクアチント、バーニッシャー、紙
21.4×15.0/30.3×21.4
13860-10 版画



- 182-11. 38 ブラボー 《ロス・カプリーチョス》より
 エッチング、アクアティント、バーニッシャー、
 ドライポイント、紙
 21.5×15.2/30.2×21.4
 13860-11 版画
- 182-12. 44 細く紡ぐ 《ロス・カプリーチョス》より
 エッチング、アクアティント、ドライポイント、
 エングレーヴィング、紙
 21.4×15.2/30.2×21.4
 13860-12 版画
- 182-13. 47 師匠への贈物 《ロス・カプリー
 チョス》より
 エッチング、アクアティント、バーニッシャー、
 エングレーヴィング、紙
 21.5×14.9/30.4×21.4
 13860-13 版画
- 182-14. 53 何て有難いお説教 《ロス・カ
 プリーチョス》より
 エッチング、アクアティント、バーニッシャー、
 エングレーヴィング、紙
 21.4×15.0/30.2×21.4
 13860-14 版画



- 182-15. 56 浮き沈み 《ロス・カプリーチョ
 ス》より
 エッチング、アクアティント、バーニッシャー、紙
 21.5×15.2/30.2×21.9
 13860-15 版画
- 182-16. 59 これでもまだくたばらぬ 《ロ
 ス・カプリーチョス》より
 エッチング、アクアティント、バーニッシャー、
 エングレーヴィング、紙
 21.5×15.0/30.3×21.4
 13860-16 版画
- 182-17. 62 いったい誰がこんなことを信じる
 だろうか 《ロス・カプリーチョス》より
 エッチング、アクアティント、バーニッシャー、
 エングレーヴィング、紙
 20.6×15.2/30.3×21.4
 13860-17 版画
- 182-18. 68 美しき女教師 《ロス・カプリー
 チョス》より
 エッチング、アクアティント、バーニッシャー、
 ドライポイント、紙
 21.0×14.6/30.4×21.4
 13860-18 版画



- 182-19. 71 夜が明けたら出かけよう 《ロ
 ス・カプリーチョス》より
 エッチング、アクアティント、バーニッシャー、
 エングレーヴィング、紙
 19.8×14.9/30.3×21.4
 13860-19 版画
- 182-20. 74 わめくんじゃないよ、お馬鹿
 さん 《ロス・カプリーチョス》より
 エッチング、アクアティント、バーニッシャー、紙
 21.8×14.8/30.2×21.4
 13860-20 版画
- 182-21. 77 代わりばんこに 《ロス・カプ
 リーチョス》より
 エッチング、アクアティント、バーニッシャー、
 ドライポイント、エングレーヴィング、紙
 21.2×15.1/30.2×21.4
 13860-21 版画
- 182-22. 80 もう時間だ 《ロス・カプリー
 チョス》より
 エッチング、アクアティント、バーニッシャー、
 ドライポイント、エングレーヴィング、紙
 21.5×15.0/30.2×21.4
 13860-22 版画



183. 伝オディロンルドン Odilon REDON (attr.)
 [演奏]
 制作年不詳
 油彩、キャンバス
 32.5×21.7
 13854 洋画

田中恒子コレクション

184. 植松 永次 UEMATSU Eiji
 乾き
 1993(平成5)
 陶
 h.18.0×19.0×18.0
 13916 彫塑

185. 植松 奎二 UEMATSU Keiji
 浮かたち一赤
 1994(平成6)
 ステンレススチール、ポリウレタン塗装
 60.0×19.0φ
 13913 彫塑



186. 植松 奎二 UEMATSU Keiji

浮くかたち

1994(平成6)

ステンレススチール、鉄、黒御影

h.228.5×86.5×30.0

13914 彫塑



187. 中ハシ 克シゲ NAKAHASHI Katsushige

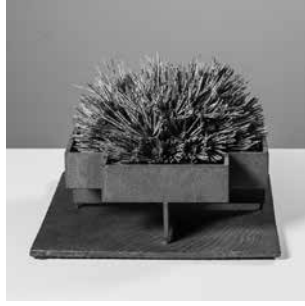
PINE CROSS

1994(平成6)

銅

h.19.0×24.5×24.5

13915 彫塑



2 図書資料収集

・2024 年度収蔵図書資料 (購入)

逐次刊行物 11 タイトル 49 冊

(内訳)

1	イラストレーション	4 冊
2	近代画説	1 冊
3	芸術新潮	12 冊
4	新建築	12 冊
5	西洋美術研究	1 冊
6	版画芸術	4 冊
7	美術研究	2 冊
8	美術手帖	4 冊
9	美術フォーラム 21	2 冊
10	+81	2 冊
11	炎芸術	5 冊

単行本 2 タイトル 16 冊

(内訳)

1-5	新南画講座	第一巻～第五巻	資文堂出版部	1934-1935
6-16	日本南画実習帖	第一巻～第六巻、第八巻～第十二巻	東京アトリエ社	1938-1939

ガレリア・グラフィカ旧蔵図書 16 冊

(内訳)

1	<i>Ernst Fuchs, Das graphische Werk</i>	R. Piper & Co./Galerie Richard Hartmann	1980
2	<i>Toulouse-Lautrec, The Complete Prints 1</i>	Sotheby's Publications	1985
3	<i>Toulouse-Lautrec, The Complete Prints 2</i>	Sotheby's Publications	1985
4	<i>Emil Nolde, Das graphische Werk 1</i>	DuMont	1966
5	<i>Emil Nolde, Das graphische Werk 2</i>	DuMont	1967
6	<i>Nolde, The Painter's Prints</i>	Museum of Fine Arts, Boston/ Los Angeles County Museum of Art	1995
7	<i>Picasso: peintre-graveur, Catalogue illustré de l'œuvre gravé et lithographié, 1899-1931</i>	Chez l'auteur	1933
8	<i>Picasso: peintre-graveur</i>	Kornfeld et Klipstein	1968
9	<i>Picasso: peintre-graveur 2</i>	Kornfeld et Klipstein	1968
10	<i>Pablo Picasso, Catalogue de l'œuvre gravé et lithographié, 1904-1967, 1</i>	Kornfeld et Klipstein	1971
11	<i>Pablo Picasso, Catalogue de l'œuvre gravé et lithographié, 1966-1969, 2</i>	Kornfeld et Klipstein	1971
12	<i>Pablo Picasso, Catalogue de l'œuvre gravé et lithographié, 1970-1972. Suppléments Tome I+II, 4,</i>	Kornfeld et Klipstein	1979
13	<i>The Drawings of Picasso</i>	Hamlyn	1988
14	<i>Egon Schiele: The Complete Works</i>	Harry N Abrams	1990
15	<i>Antoni Tàpies: Obra gráfica</i>	Fundación César Manrique	1996
16	<i>Tàpies: Das graphische Werk. L'œuvre gravé 1947-1972</i>	Erker-Verlag	1975

作品・資料の保存・管理・貸出

1 作品・資料の管理

- ・展示、貸出の機会にあわせて継続的に所蔵品の状態を調査し、保存上の対策を必要とする作品については、マットや保存用紙、額の改良・交換を中心に処置を進めた。
- ・新収蔵作品を中心に写真撮影を行った。

2 作品・資料の保存環境の整備

- ・展示室、収蔵庫等作品保管区画の温湿度観察を継続した。
- ・展示替え期間に、展示室、展示資材倉庫、作業室等の塩化ベンザルコニウムによる拭き掃除を実施。
- ・IPM（総合有害生物管理）の一環として、外部の専門家に委託してトラップによるモニタリングを館内98箇所ですべて4回実施（2024年3月27日～4月27日、6月22日～7月31日、9月21日～10月27日、12月27日～2025年1月25日）。常に調査すべき16箇所では8回実施（2024年4月27日～5月29日、5月29日～6月22日、7月31日～8月23日、8月23日～9月21日、10月27日～11月24日、11月24日～12月27日、2025年1月25日～2月27日、2月27日～3月31日）。
- ・収蔵庫・展示室・展示ケース内のホルムアルデヒド・酢酸・蟻酸を測定する空気環境測定を実施（6月17日、11月11日の2回）。
- ・展示室等のブンガンによる燻蒸を実施（1階：4月8日、2階・地下：4月18日、2階・地下：2025年3月10日、1階：2025年1月20日）。
- ・収蔵庫・展示室など22箇所をエアサンプラーにより採取、培養検査を行う空中浮遊菌調査を実施（2025年1月14日）。
- ・エキヒュームSによる作品・資料の燻蒸を実施（2025年1月19日～23日）。
- ・展示室の空調機修繕工事を実施（2025年2月～3月）。
- ・収蔵および撮影作業スペースを確保するため、1階展示室B 500㎡のうち300㎡を閉鎖した（4月～2025年2月）。その後展示室の空調修繕工事に伴って2階展示室C 1000㎡のうち128㎡を閉鎖した（2025年2月～）。

3 作品・資料の保存修復

- ・館外の保存修復専門家による状態調査を実施・記録し、修復が必要と判断された作品のうち、優先順位の高いものについて処置を実施した。

〈紙本〉

- 1 石垣栄太郎《ハーレム裁判所のための壁画画稿 II（アメリカ独立革命）》1935-37(昭和10-12)年頃 木炭、紙、パネル(2面)

主な処置内容:補修、裏打ち準備、うち1面の裏打ち(補紙の染色を和歌山工業高等学校の協力により実施)を実施した。

処置者:坂本雅美、鏡将人、杉山恵助

4 作品・資料のデータ管理・公開

- ・新政策「和歌山博物館施設デジタル化計画事業」

和歌山県立近代美術館、和歌山県立博物館、和歌山県立紀伊風土記の丘の3館がそれぞれ、収蔵品・資料データベースを各館のウェブサイトで開催するとともに、3館の資料を横断的に検索できるシステムと各館の活動を紹介するポータルサイトを設置する、令和4-令和6年度の3か年継続事業の3年目。

当館は、令和3年度末までの収蔵作品、約12,000点の文字データを令和4年度に公開し、令和5年末までに画像約4,500点分を公開していたが、令和6年度には追加データ1,200点分および画像1,500点を公開した。さらにサイトをバイリンガル対応とし、英語作品情報の追加を随時行っている。

所蔵作品画像の貸出については、著作権が切れた作品の公開画像はパブリックドメイン（著作権フリー）とし、自由な利用を促している。一方で、出版対応や高解像度画像の貸し出しは別途19件行った。

データベースには新たなコンテンツとして「コレクションスタジオ」を追加した。

利用者が著作権フリー画像を使ってハガキやワークシート、携帯の待受画面等を作成できる機能を実装し、コレクションをより身近に感じて楽しむ方法を提案している。

和歌山県の文化財情報を集約的に紹介できる場として観光行政にも効率的に接続できるようにするべく、県内市町村立館や私立館にも本サイトへの参加を促すために、各館データベース担当者向けに勉強会を実施した（10月16日、当館ホール）。

県内市町村立館や私立館の「和歌山ミュージアムコレクション」への接続を目指し、「和歌山移民研究を軸とした国際交流事業」により別途開設したウェブサイト「移民と美術」に、県内他館のデータを追加して、当館データベースとの連携を図った

- ・新収蔵作品目録を2023（令和5）年度年報に掲載した。

5 作品・資料の貸出

下記11件の展覧会に作品および資料98点の貸付を行った。（展覧会名、会期、貸出先、作家名《作品名》、制作年、所蔵註記の順に記載）

1. 前衛陶芸の誕生 走泥社とその時代 — 結成前夜から1973年まで —

2023年7月19日～9月24日 京都国立近代美術館
2023年12月19日～2024年2月18日 岐阜県美術館
2024年2月27日～4月7日 岡山県立美術館
2024年4月20日～9月1日 菊池寛実記念 智美術館

林康夫《作品-51-2》1951
林康夫《ホットケーキ》1971
三浦省吾《作品》1951
山田光《声》1959
山田光《陶壁》1969
川上力三《面相》1964
川上力三《偽証》1966
林秀行《箱の中の輪違い》1968
林秀行《三つの形》1970
森野泰明《WORK 61-1》1961
計10点

2. シュルレアリスムと日本

2023年12月16日～2024年2月4日 京都府京都文化博物館
2024年3月2日～4月14日 板橋区立美術館
2024年4月27日～6月30日 三重県立美術館

高井貞二《煙》1933
計1点

3. 藤島武二没後80年 鹿子木孟郎生誕150年 洋画の青春—明治期・三重の若き画家たち

2024年1月12日～4月14日 三重県立美術館
鹿子木孟郎《パイプを持つ男》1906
計1点

4. 版画の青春 小野忠重と版画運動

2024年3月16日～5月19日 町田市立国際版画美術館
*特別協力

『新版画』3（表紙：吉田正三）1932年8月
『新版画』4（表紙：藤牧義夫）1932年9月

『新版画』6「国立公園特輯号」（表紙：作者不詳）1932年11月

大久保一《陸橋》1932

大久保一《奉天浪速通風景》1932

柴秀夫《少女》1932

吉田正三《鐘紡裏》1932

『新版画』7「演劇と映画特輯号」（表紙：柴秀夫）1933年1月

『新版画』9「一周年記念号」（表紙：佐伯留守夫）1933年6月

『新版画』10「第3回展覧会開催記念号」1933年10月

『新版画』12「第4回展覧会記念号」（表紙：武藤六郎）1934年4月

『新版画』13「東京風景特輯号」（表紙：吉田正三）1934年7月

『新版画』14（表紙：藤牧義夫）1934年11月

『新版画』16「都市貫流特輯号」（表紙：清水正博）1935年4月

『新版画』18「『新版画』展覧会特別号」1935年12月

水船六洲「新版画第2回展覧会ポスター」1933年

吉田正三「新版画集団第3回展覧会ポスター」1933年

畑野織蔵《風景》1936頃

畑野織蔵《早春》1936

新田穰《勝浦風景》1932

大久保一《車軸の折れた馬車（鉄西風景）》1933

大久保一《[風影]》1933

小野忠重《死を廻る人々》1933

柴秀夫《公園》1934

柴秀夫《横向きの男[左向きの男]》1931

柴秀夫《男[肖像男 正面]》1931

清水正博《ヴァリエテ（サーカス）》1933

清水正博《都会風景》1933

清水正博《酒場》1933

清水正博《巡航船》1934

清水正博《伊豆風景》1935

杉本義夫《海女》1932

武田由平《風景》1932

武田由平《病院》制作年不詳

谷口薫美（薫美）《鉄橋》1933

宇治山哲平《段々島と無花果》1936

宇治山哲平《裸木と山》1936

「造型版画協会第2回展覧会ポスター」1938

清水正博《出発》1937

清水正博《隆》1941

水船六洲《裸婦》1939

畑野織蔵《海景》1941頃

畑野織蔵《晩秋》制作年不詳

大久保一《室内》1940

伊藤健之典《古小鳥》1941

伊藤健之典《光芒》1941

畑野織蔵《ゆめ》1949頃

「新版画集団第二回展覧会出品目録」1933年3月

「東京 新版画集団展覧会出品目録」1933年7月

「新版画集団第三回展覧会出品目録」1933年11月

「新版画集団小品展覧会目録」1934年4月

「第1回版画アンデパンダン展覧会」案内ハガキ 1934年6月

「第一回版画アンデパンダン展覧会目録」1934年6月

「版画に於ける組織的制作—第一回アンデパンダン展特別陳列による」1934年6月

「江戸・東京風景版画展」案内ハガキ 1934年7月

「江戸・東京風景版画展・東京の部目録」1934年7月

「エノケンとその一座を廻る版画展」後期・出品目録 1934年9月～10月

「新版画集団小品展覧会出品目録」1935年5月

「現代版画展覧会」出品目録 1935年9月

「造型版画協会設立に就いて」挨拶状 1937年3月

「造型版画協会第二回展覧会目録」1938年4月～5月

「造型版画協会第三回展覧会目録」1939年5月～6月

「造型版画協会第五回展覧会目録」1941年4月

「日本の銅版画と石版画の歴史展目録」1941年4月

「造型版画協会第七回展覧会出品目録」1943年4月

計63点

5. 没後 30 年 木下佳通代展

2024年5月24日～8月18日 大阪中之島美術館

2024年10月12日～2025年1月5日 埼玉県立近代美術館

木下佳通代《無題 UNTITLED》1975

木下佳通代《無題 UNTITLED》1975

木下佳通代《'77-27》1977

木下佳通代《LA '92-CA711》1992

計4点

6. YUMEJI 展 大正浪漫と新しい世界

2024年6月1日～8月25日 東京都庭園美術館

2024年9月7日～12月8日 夢二郷土美術館

2025年1月18日～3月16日 あべのハルカス美術館

竹久夢二《ガダルーブへの道》1932 *受託作品

計1点

7. 生誕 100 年記念 白髪一雄展

2024年7月27日～9月30日 尼崎総合文化センター

白髪一雄《平治元年十二月二十六日》1966

白髪一雄《羅刹天譴（ランゼリチエイソハカ）》1980

計2点

8. 松谷武判展

2024年10月3日～12月17日 東京オペラシティアートギャラリー

松谷武判《作品-C》1961

松谷武判《WORK-63-9》1963

松谷武判《OBJECT-C》1975

松谷武判《水平の》1992

松谷武判《水平の92-10》1992

計5点

9. 仙境 南画の聖地、ここにあり

2024年10月5日～11月24日 田辺市立美術館

2024年10月5日～11月24日 熊野古道なかへち美術館

山口八九子《月々瀬梅溪》1917頃

山口八九子《山村集落図》1921頃

日高昌克《山峡池畔図》1960

大亦観風《橋杭岩》制作年不詳

湯川三舟《有田川の図》昭和初期

中谷紀山《和歌浦風景》制作年不詳

近藤浩一路《白雲去来》大正末～昭和初期 *受託作品

小野寺梅邱《夏日臨川・溪山雪霽》1916年 *受託作品

計8点

10. 没後 80 年 清水登之展

2025年1月11日～3月20日 栃木市立美術館

清水登之《ヨコハマ・ナイト》1921

計1点

11. BUTSUDORI ブツドリ：モノをめぐる写真表現

2025年1月18日～3月23日 滋賀県立美術館

『フォトタイムス』15巻5号 1938年5月

『フォトタイムス』15巻6号 1938年6月

『フォトタイムズ』15巻8号 1938年8月

計3点

普及事業

展覧会にあわせてレクチャー等を行うほか、学校との連携や団体鑑賞の受け入れに取り組んだ。

1 学校教育関連

1 学校・団体鑑賞の受入

・団体での来館数 2024年4月～2025年3月

団体種別	美術館による対応有		自由鑑賞	
	件数	来館者数合計	件数	来館者数合計
一般	2件	24名	2件	75名
教員	12件	153名	0件	0名
大学	28件	273名	0件	0名
高等学校	12件	189名	1件	4名
中学校	31件	359名	5件	186名
小学校	45件	1,258名	2件	58名
幼保こども園	0件	0名	0件	0名
その他(専門学校など)	0件	0名	0件	0名
計	130件	2,256名	10件	323名
総計		140件		2,579名

2 学校・教員等と連携した事業

施設利用の浸透を図り、学校教育との連携を深め、団体での来館に際して事前に要望のあった場合には担当者・教員との打ち合わせを行い、必要に応じて鑑賞用補助プリントを作成するなどの活動を行った。

・和歌山美術館教育研究会

2011年度より、学校教育との連携強化を目的とした研究会を継続して開催している。2024年は、計8回(114回～121回)の会合を持った。夏季休暇中に開催する展覧会「なつやすみの美術館」に関して、教員たちと協力しながらのワークシート作成(2013年度より)を、その活動の中心としている。ワークシートは休暇中の宿題にもつながり、和歌山市内のほとんどの中学校からの来館があったが、新型コロナウイルス感染症拡大防止の影響による中断の後、未だ以前の来館者数にまで回復できていない。

開催記録:

114回 2024年4月27日(土)7名/115回 5月19日(土)18名/116回 6月1日(土)10名/117回 6月22日(土)10名/118回 7月13日(土)23名/119回 7月13日(土)12名/120回 9月7日(土)9名/121回 11月16日(土)8名

いずれも和歌山県立近代美術館にて

・和歌山市中学校教科等別研修会(美術科)の受け入れ

開催に協力し、意見交換等を行った。

2024年4月24日(水)18名 和歌山県立近代美術館にて

・和歌山市美育協会鑑賞指導研修会の受け入れ

開催に協力し、講義・鑑賞実習をするとともに意見交換等を行った。

2024年7月25日(木)27名 和歌山県立近代美術館にて

・和歌山県歴史教育者協議会の受け入れ

開催に協力し、講義・鑑賞実習をするとともに意見交換等を行った。

8月例会 2024年8月8日(木)10名、12月例会 12月6日(木)15名 いずれも和歌山県立近代美術館にて

・和歌山大学教育学部の学芸員資格取得に関する一部開設授業科目への協力

2024年9月12日(木)和歌山県立近代美術館にて「博物館展示論講義」講義を実施 37名

2024年10月24日(木)和歌山大学にて「博物館資料保存論」講義を担当 53名

・県立学校長会、県立中学校教頭会、市町村教育長会、指導主事会などの研修の受け入れ

学校教育における美術館・博物館の利用に理解を図った。

・近代美術館・博物館の活用促進事業

令和6(2024)年度からの事業(教育総務局総務課/令和7年4月より教育総務局教育政策課)。来館に必要なバスを県が手配し、県内の小学校・特別支援学校の児童生徒が、当館及び県立博物館の美術作品・文化財に触れ、学校教育の充実を図るとともに子どもたちの豊かな教養、感性を育む機会となった。

美術館・博物館あわせ、のべ38校1,563人が来館(児童生徒1,412人、引率151人)。美術館は、小学校のべ27校1,017人(児童生徒925人、引率92人)、特別支援学校5校101人(児童生徒70人、引率31人)が来館した。

3 博物館実習生・インターンシップ・教員研修などの受入

大学での博物館学芸員資格取得のために必要な履修科目である博物館実習の実習生を受け入れた。

期間:2024年8月9日(金)～12日(月)、14日(水)～16日(金)(計6日間)

受入校	受入人数
札幌市立大学	1名
和歌山大学	1名
計2大学	2名

文部科学省の推進するキャリア教育の一環として、教育委員会並びに各学校の取り組んでいる職場体験学習、インターンシップ等を受け入れた。

2023年4月～2024年3月

受入件数	校数	人数	日数	のべ人数
高校生	2校	9名	4日	18名
中学生	8校	34名	16日	68名
計	10校	43名	20日	86名

職場体験学習

・和歌山市貴志中学校2年 2024年6月5日(水)、6日(木) 4名

・和歌山市立西脇中学校2年 2024年6月19日(水)、20日(木) 4名

・和歌山市立河北中学校2年 2024年10月9日(水)、10日(木) 3名

・和歌山市立西和中学校2年 2024年10月9日(水)、10日(木) 3名

・和歌山市立明和中学校2年 2024年10月16日(水)、17日(木) 6名

・和歌山市立西脇中学校2年 2024年10月19日(水)、20日(木) 4名

・和歌山市立河西中学校2年 2024年10月29日(火)、30日(水) 6名

・和歌山信愛中学校2年 2024年11月7日(木)、8日(金) 3名

・和歌山市立東中学校2年 2024年11月14日(木)、15日(金) 5名

インターンシップ

・和歌山県立和歌山商業高等学校 2024年11月7日(木)、8日(金) 高校生3名

・教育庁インターンシップ 2024年7月24日(水)、25日(木) 高校生6名(那賀高等学校3年1名、向陽高等学校2年1名、向陽高等学校1年2名、紀北支援学校1年2名)

2 生涯学習関連

1 講演会・解説会・体験的プログラム等の実施

・各展覧会に関連した講演会やフロアレクチャー、ワークショップ、映画上映会、コンサートなどを開催した。(展覧会事業を参照)

・「なつやすみの美術館14」を課題に学校からの来館を促し、教員らとワークシートの制作に取り組んだ。(展覧会事業および、前項「2. 学校教育・教員等と連携した事業」を参照)

・「こども美術館部」の実施

小学生を対象に、展示作品と関連したワークショップを行いながら作品を鑑賞する「こども美術館部」を6回(各回2日、11:00～12:00、同内容)開催した。各回6人程度の事前申込制とした。

担当:青木加苗

- (1)「ちゅうちゅうちやわんちやう」 企画展「土が開いた現代 革新するやきもの」

2024年5月4日(土・祝)、5月5日(日・祝)11名参加・中学生スタッフ5名・和歌山大学美術館部4名

- (2)「ていーていーしない」 特集「旅する美術」

2024年7月20日(土)、7月21日(日)16名参加・中学生スタッフ4名

- (3)「こどもの、ど」 企画展「なつやすみの美術館14」

2024年9月14日(土)、9月15日(日)15名参加・中学生スタッフ4名

- (4)「なんかのスイッチ、ここにあり」 特別展「仙境」

2024年10月26日(土)、10月27日(日)12名参加・中学生スタッフ4名

- (5)「これくしょん、はっくしょん」 「コレクション名品選」

2024年12月7日(土)、12月8日(日)12名参加・中学生スタッフ4名

- (6)「よみがえてみる?」(工事休館中、和歌山県立博物館 世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展 聖地巡礼 ―熊野と高野― 第V期 蘇りの地・熊野 ―熊野本宮大社・湯峯と熊野川―)

2025年2月8日(土)、2月9日(日)15名参加・中学生スタッフ5名

- ・和歌山大学美術館部によるたまごせんせいとわくわくアートツアー
和歌山大学の学生サークル「美術館部」の学生たちが来館者の鑑賞をサポートした。担当:青木加苗

2024年8月14日(水)―18日(日)11:00～12:00、13:30～14:30、15:00～16:00(企画展「なつやすみの美術館14 河野愛『こどもの、と』」)

- ・「たんけん近代美術館・博物館」(美術館・博物館合同バックヤードツアー)

「国際博物館の日」に合わせて、美術館と博物館が合同でバックヤードツアーを開催した。5月18日(土)10:00-12:00 19名参加

- ・和歌山県高等看護学院講義
「人間探検(人間と美術)」 2024年7月18日(火)9:30-16:30 看護学科1年生51名

- ・きのくに県民カレッジへの参加
生涯学習プログラム(事務局:和歌山県立図書館)に展示会のフロアレクチャー等を登録した。

- ・エキスパート職員派遣事業への参加
エキスパート職員として当館学芸員を登録した(教育総務局総務課)。

- ・障害者のための生涯学習支援者派遣事業講座への参加
出張まなび講座(生涯学習課)へ講座登録した。

2 ボランティア活動の受け入れ

- ・校正校閲、タイトル英訳

1名のべ58日

- ・和歌山大学ミュージアムボランティア

和歌山大学教育学部と県教育委員会連携協議に基づくミュージアム・ボランティアについて、3名を受け入れた。

3 友の会等の支援組織との連携

(1) 和歌山県立近代美術館友の会

「和歌山県立近代美術館友の会」を組織し、当館の活動に支援を受けるとともに、楽しみながら美術作品に親しむ機会を設けた。

- ・会員の状況

136名(一般会員123名、学生2名、賛助会員10名、特別会員1名)

- ・助成・協力事業

会員が美術館事業に理解を持ち、常に美術作品に親しむを持つことが出来るよう常設展及び企画展・特別展の観覧並びに図録の購入に対して助成を行った。

展示会入場者のべ人数:155名(「土が開いた現代 革新するやきもの」43名、「なつやすみの美術館14 こどもの、と」51名、「仙境と月映展共通券」54名、

「コレクション展」7名)

図録購入:6冊

「コスプレ声ちゃんのカプセルタワービルデイズ展」への協力

MOMAW A908 オリジナルポスター製作

- ・主催事業

版画プレゼント・講演会・茶話会

田口幸加子氏の版画(4種類)の中から1点を選んでもらいプレゼントした。

10月20日(火) 引換期間:10月20日(火)―12月22日(日)

バックヤードツアー開催 8月25日(日)13名

美術鑑賞ツアー 滋賀県立近代美術館「生誕100年記念 人間国宝 志村ふくみ展」、佐川美術館「北米の神秘ルウヴェー・スウェーデン・フィンランドの絵画」、「樂吉右衛門」、「平山郁夫」、「佐藤忠良展」見学 11月3日(日)、バス1台48名

黒江万金堂ギター&フルート演奏会&ディナー 11月24日(日)、演奏会120名、ディナー32名

- ・館広報誌、その他への情報提供

美術館が発行するミュージアムカレンダー、美術館ニュース、広報紙などを配布し、その他への情報提供をした。

(2) NPO 和歌山文化芸術支援協会 (wacss)

- ・「森のちからXV 森の詩(うた)」への協力

期間:2024年10月28日(月)―11月29日(金)

内容:古座川町と串本町で開催されたアーティスト・イン・レジデンス・プログラム「森のちからXV 森の詩[うた]」(参加作家:中里和人)に協力した。

場所:北海道大学和歌山研究林・本館、平井区民館

11月9日(土)地域交流事業「語りば」にて、司会・進行を奥村一郎が務めた。

3 地域との連携

1 自主事業

- ・毎月第1日曜日を入場無料とした。(ただし、11月は和歌山県の「ふるさと誕生日」11月22日に実施)

- ・紀陽文化財団の日

紀陽文化財団の協力により毎月第4土曜日に大学生の入場を無料とした。

- ・オリジナルスタンプによるスタンプラリーを実施し、通年のリピーター獲得に取り組んだ。

- ・県と和歌山市が連携して作成した「わかやまちなかミュージアムマップ」を配付した。

- ・風土記まつりへの参加

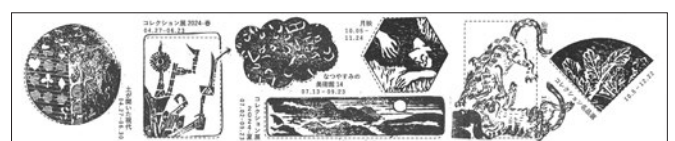
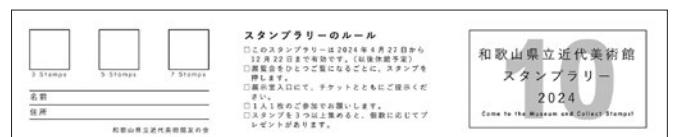
県立紀伊風土記の丘が実施する「第13回風土記まつり」に参加し、当館コレクションを題材とするぬり絵などを実施した。

2024年10月27日(日)

- ・関西文化の日

関西一円の文化施設の取り組みにあわせ、入場料を無料とした。

2024年11月16日(土)、17日(日) 入場者数2,370名



和歌山県立近代美術館スタンプラリー2024



わかやま まちなかミュージアムガイド

まちなかの博物館・美術館をめぐる！
2館目以降は割引料金で入館できます（3日有効）

和歌山市立博物館	和歌山県立近代美術館	和歌山県立博物館	和歌山城天守閣	わかやま歴史館
和歌山の歴史や文化について、最新の展示や体験型展示、ワークショップなどを行っています。	和歌山県内の歴史や文化について、最新の展示や体験型展示、ワークショップなどを行っています。	和歌山県内の歴史や文化について、最新の展示や体験型展示、ワークショップなどを行っています。	1958（昭和33）年竣工のシンボルタワー。和歌山県立博物館のシンボルタワー。和歌山県立博物館のシンボルタワー。	和歌山県内の歴史や文化について、最新の展示や体験型展示、ワークショップなどを行っています。
入館料 無料	入館料 無料	入館料 無料	入館料 無料	入館料 無料
073-423-0003	073-436-8690	073-436-8670	073-422-8979	073-435-1044 (inmail)

わかやままちなかミュージアムガイド

2 協力事業

- ・ 県警音楽隊たそがれコンサート
2024年6月14日(金)、28日(金)、7月12日(金)、26日(金)、8月9日(金)、23日(金) 約1,000名
場所:アプローチプラザほか
主催:和歌山県警本部
- ・ ミュージアム クリフ映画会
2024年7月26日(金) 約30名
場所:アプローチプラザ
主催:和歌山県 BBS 連盟
- ・ 中銀カプセルA908 at 和歌山県立近代美術館フェア
会期:2024年8月12日(月)~9月16日(月)、10月8日(火)~10月14日(月)
主催・場所:代官山蔦屋書店
- ・ トークイベント「新陳代謝する中銀カプセルタワービル 解体、再生から活用まで 和歌山県立近代美術館×黒川紀章建築都市設計事務所×中銀カプセルタワービル保存・再生プロジェクト」
日時:2024年9月13日(金)
主催・場所:代官山蔦屋書店(イベント、オンライン配信)
- ・ インドの蛇使いの踊り インド政府に認められた5人の伝統工芸師士
2024年10月16日(水)12:15~14:30カルバリアダンス、11:00~15:30伝統工芸士5人による実演とワークショップ
場所:エントランス底下、リーディングコーナー
主催:和歌山県(国際課)

4 印刷物の発行

- ・ 機関紙『和歌山県立近代美術館ニュース』(年4回、各2,500部発行) *当館ホームページ上でも公開している。
No.119(2024年7月12日発行)

奥村一郎:上山鳥城男が描いた故郷の風景『鳥屋城山』
宮本久宣:もし原勝四郎が東京美術学校で学んでいたら 原勝四郎と同時代の画家たち
井上芳子:エレベーター改修工事と黒川紀章の「近代」
井上芳子:コスプレ声ちゃんのカプセルタワービルデザイン in 和歌山 Museum Calendar、メールマガジン Facebook X(旧Twitter)のご案内、友の会[案内]

No.120(2024年10月30日発行)

奥村泰彦:茶碗ちゃんで 土が開いた現代ー革新するやきもの
植野比佐見:小さくていいもの「も」あり☑ コレクション展2024- 春 特集: 小さくていいもの、あり☑
青木加苗:全米日系人博物館との姉妹ミュージアム提携がもたらすもの
植野比佐見:保存のはなしをしよう。29 二つの失敗
Museum Calendar、メールマガジン Facebook Xのご案内、友の会[案内]

No.121(2025年1月21日発行)

河野愛:異物/異者について
青木加苗:「こどもの」をひらく なつやすみの美術館14 河野愛「こどもの」と
宮本久宣:和歌山だから 原勝四郎、稗田一穂と河野愛の白浜
植野比佐見:保存のはなしをしよう。30 ムシが出た…
奥村一郎:帰ってきたカプセルディスコ in 和歌山
メールマガジン Facebook Xのご案内、友の会[案内]

No.122(2025年3月28日発行)

藤本真名美:仙境補遺一肩の荷を下ろし、身が軽くなる場所へー 仙境南画の聖地、ここにあり
井上芳子:私観『月映』Iについて 「まどひ」のうれしき 月映 つきてる つちにつどいたるもの
青木加苗:移民と「ゆかり」の地域性[ローカルティ]を考える デンバー美術館 上山鳥城男展/コロラド州日系人史調査から
植野比佐見:保存のはなしをしよう。31 データにならない環境の変化もあります
奥村一郎:サウンド・アートと美術館と
メールマガジン Facebook Xのご案内、友の会[案内]

- ・ 2024年度展覧会カレンダー 6.1×10.5cm 巻き5つ折(10頁)(30,000部発行)
- ・ 2025年度展覧会カレンダー 6.1×10.5cm 巻き5つ折(10頁)(20,000部発行)
- ・ 『和歌山県立近代美術館年報 2023(令和5)年度』(2024年3月31日、250部発行)
- ・ ポスター、チラシ、図録等(各展覧会事業を参照)



ニュース

THE MUSEUM OF MODERN ART WAKAYAMA 和歌山県立現代美術館

4/27日-6/30日
土が開いた現代 革新するやまの
20世紀後半の京都を中心
に集められた物による
多岐多岐な展示は、和歌山
本の美術に大きな一角
を占めています。言葉コ
レクションから物による
展示の広がりを紹介し
ます。

4/27日-6/30日
コレクション展 2024 春
特集 小さなもの、おひら
き

7/13日-9/23日
なつやすみの美術館14
河野実「こもの、と」

7/20日-9/23日
コレクション展 2024 夏
特集 読する美術

10/5日-11/24日
月映 つきてるつちに
ついたもの

10/5日-11/24日
世界遺産「紀伊山地の霊場と参詣道」登録20周年記念特別展
仙境 南面の聖地、ここへあり

10/5日-12/22日
コレクション展 2024
秋

10/5日-12/22日
コレクション展 2024
冬

カレンダー

5 メディア等への情報発信

1 プレスリリース、取材協力

・ 展覧会や特別事業ごとにプレスリリースを作成し、県庁記者クラブ、教育記者クラブにて資料提供を55件に行うほか、新聞社、放送局、出版社等約155か所に送付(メール送信)して、報道、掲載を依頼。また取材等の要請に応じて情報を提供した。特に下記ウェブサイトへ展覧会情報を登録した。

- アイエム[インターネットミュージアム] <https://www.museum.or.jp/>
- 日本博物館協会 <https://www.j-muse.or.jp/>
- アートスケープ <https://artscape.jp/>
- ARTことはじめ <https://www.arthajime.com/>
- The Gate to KANSAI <https://www.the-kansai-guide.com/ja/>
- イベントバンク プレス <https://www.eventbank.jp/index.do>
- ロカルわかやま <https://rokaru.jp/>
- チラシミュージアム(アプリ専用) <https://eplus.jp/sf/guide/museum>

・ 展覧会ごとに、ポスター、チラシ等を作成し、全国関係諸機関、県下各市町村及び小中高校、大学、教育機関、JR和歌山駅観光案内所など約2055か所に配布した。

・ 県発行の広報誌『県民の友』に、毎月事業案内を掲載した。

・ 『わかやま探検ミュージアム』(季刊・県内全小学校4~6年生に配布、和歌山県教育委員会協力/和歌山県PTA連合会推薦)隔号に展覧会紹介記事を掲載した。

・ 本町文化堂ポッドキャストへの出演
和歌山市内の書店、本町文化堂が配信するポッドキャスト「本町文化堂からこんにちは」に出演し展覧会の紹介を行った。

10月12日「#163 俗世を離れて理想郷を描く、南面の魅力」藤本真名美

・ 和歌山市立図書館電子看板に、展覧会情報を掲載した。

2 当館ウェブサイトでの情報発信

・ 展覧会や教育普及活動などの予定、そして美術館の概要や沿革、コレクションなど美術館にアプローチするための各種情報を当館ウェブサイトにて発信している。

・ プレスリリースやメディアへの画像提供なども当館ウェブサイト上から行っている。

3 メールマガジンでの情報発信

・ メールマガジンを月1回程度発行し、美術館で開催される展覧会及びプログラムなどの情報を発信した。(4月27日発行の196号から2025年3月29日発行の207号まで計12回発行。登録読者数html版624名、テキスト版39名、計663名、2025年3月29日現在)

4 SNSによる情報発信

・ Facebook、Instagram、X(旧Twitter)、Google ビジネスプロフィール等を通じての情報提供を実施した。

5 問い合わせ・質問(電話・来館等)への対応

展覧会や作品に関する問い合わせなどに適宜対応し、必要と判断した際には直接赴いて作品調査や保存、寄贈の相談に応じた。

調査・研究・発表活動および対外協力活動

山野英嗣

- ・執筆：「『南画』再考」『仙境 南画の聖地、ここにあり』展図録、2024年10月5日発行、pp.8-10
- ・美術館ホームページに「館長からのメッセージ」を連載
- ・講演：「信濃橋の時代」（「創立100周年記念 信濃橋洋画研究所—大阪にひとつ美術の花が咲く—」展）（2024年6月23日／芦屋市立美術館）
- ・講演：「竹久夢二生誕140年記念『生誕日トークイベントin 杜の街グレース～新たな視点でとらえる夢二～』」（2024年9月16日／杜の街グレース）
- * * *
- ・第68回鳥取県美術展覧会デザイン部門審査（2024年9月9日／鳥取県立博物館）
- ・大阪中之島美術館館長選考委員会（2024年9月26日、10月29日／大阪歴史博物館）
- ・大阪中之島美術館資料収集委員会（2024年10月23日／大阪中之島美術館）
- ・第40回愛媛出版文化賞受賞作品選定委員会（2024年11月27日／愛媛新聞社）
- ・神戸市立博物館・市立小磯記念美術館協議会（2024年12月4日／神戸市立小磯記念美術館）
- ・第4回枚方市展洋画・版画部門審査（2024年12月6日／枚方市総合文化芸術センター）
- ・高知県立美術館資料収集委員会（2024年12月25日／高知県立美術館）
- ・愛媛県美術品等収集評価委員会（2025年2月11日／愛媛県美術館）

井上芳子

- ・特別展「月映 つきてるつちに つどいたるもの」を企画
- * * *
- ・執筆：「エレベーター改修工事と黒川紀章の「近代」」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.119、2024年7月12日発行、pp.6-7
- ・執筆：「コスプレ声ちゃんのカプセルタワービルデイズ in 和歌山」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.119、2024年7月12日発行、p.8
- ・執筆：「私輯『月映』Iについて「まどひ」のうれしさ」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.122、2025年3月28日発行、pp.4-6
- ・講演：「中銀カプセルA908保存プロジェクト（MOMAW A908）」トークイベント「新陳代謝する中銀カプセルタワービル～解体、再生から活用まで～」（2024年9月13日／代官山葛屋書店）
- * * *
- ・田辺市立美術館作品選定委員会、協議会（2024年11月18日／田辺市立美術館）

所属学会：竹久夢二学会

植野比佐見

- ・「コレクション展2024—春 特集：小さくていいものあり」展を企画
- * * *
- ・執筆：「画家にして、版画家—村井正誠の版画」『村井正誠版画作品集』阿部出版、2024年6月1日発行、pp.184-189
- ・執筆：「小さくていいもの「も」あり」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.120、2024年10月30日発行、p.8
- ・執筆：「保存のはなしをしよう。29 二つの失敗」『和歌山県立近代美術館

- ニュース』No.120、2024年10月30日発行、p.8
- ・執筆：「保存のはなしをしよう。30 ムシが出た…」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.121、2025年1月21日発行、p.8
- ・執筆：「碇伊之助と版画—描き続けるための、ひとつの方法」『碇伊之助展』アーティゾン美術館、2025年3月1日発行、pp.104-107
- ・執筆：「保存のはなしをしよう。31 データにならない環境の変化もあります」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.122、2025年3月28日発行、p.8
- ・講演：「碇伊之助と版画—ある〈生〉の表現として—」（2025年3月8日／アーティゾン美術館）

* * *

所属学会：文化財保存修復学会、明治美術学会

奥村一郎

- ・特別展「仙境 南画の聖地、ここにあり」を企画
- ・「コレクション名品選」を企画
- * * *
- ・執筆：「上山鳥城男が描いた故郷の風景〈鳥屋城山〉」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.119、2024年7月12日発行、pp.2-3
- ・執筆：「作家・作品解説」、編集：「展覧会関連年譜」『仙境 南画の聖地、ここにあり』図録、2024年10月5日発行、pp.164-171
- ・執筆：「帰ってきたカプセルディスコ in 和歌山」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.121、2025年1月21日発行、p.8
- ・執筆：「サウンド・アートと美術館と」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.122、2025年3月28日発行、p.8
- ・講演：「移民と美術 和歌山の渡米画家たち」第7回日米草の根交流サミット同窓会（2024年7月9日／ホテルグランヴィア和歌山）
- ・講演：Artist-in-residency Program vol.11 トークイベント「夢の国？日本—アメリカの移民史」ハナン美弥×奥村一郎（2024年8月11日／PORT／主催：TRA-TRAVEL）
- ・講演：和歌山市美育協会夏期研修（2024年7月25日／和歌山県立近代美術館）
- ・講演：「和歌山県立近代美術館の教育普及活動」全国美術館会議教育普及研究部会第61回会合（2024年9月4日／和歌山県立近代美術館）
- ・司会進行：「森のちからXV・森の詩」地域交流プログラム「語りば」（招聘作家・中里和人）（2024年11月9日／北海道大学和歌山研究林・本館、平井区民館／主催：NPO和歌山芸術文化支援協会）
- ・対談：「中川克志『サウンド・アートとは何か』出版記念トークイベント」（2024年12月11日／本町文化堂）
- ・発表：「近代美術の収集から移民史研究へのひろがり」移民と美術をめぐるシンポジウム Vol.3トランスボーダー：和歌山からカリフォルニアへ（2025年1月19日、全米日系人博物館 ＊オンライン）
- ・講演：もももどする現場3・特別編 in 和歌山「奥村一郎さんと、障害者によるアートについてもももど話す」（2025年1月25日／本町文化堂）

* * *

- ・「第61回 2024兵庫県展」絵画部門審査員（2024年7月23日／原田の森ギャラリー）
- ・「第46回徳島県立近代美術館価格評価委員会」評価委員（2025年1月14日／徳島県立近代美術館）
- ・「令和6年度滋賀県立美術館価格評価委員会」評価委員（2025年2月20日／滋賀県立美術館）
- ・「文化芸術による次世代育成プログラム」（学校アートプログラム）評価委員（関西・大阪21世紀協会）

* * *

宮本久宣

- ・「コレクション展2024—夏 特集 旅する美術」を企画および関連事業の実施

* * *

- ・執筆：「もし原勝四郎が東京美術学校で学んでいたら」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.119、2024年7月12日発行、pp.4-5
- ・執筆：「和歌山だから 原勝四郎、稗田一穂と河野愛の白浜」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.121、2025年1月21日発行、pp.4-5
- ・講演：「和歌山県立近代美術館の沿革とコレクション」全国美術館会議教育普及研究部会第61回会合（2024年9月4日／和歌山県立近代美術館）

* * *

所属学会：美術史学会

奥村泰彦

- ・企画展「土が開いた現代 革新するやきもの」を企画

* * *

- ・執筆：「茶碗ちやうで 土が開いた現代—革新するやきもの」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.119、2024年10月30日発行、pp.2-3
- ・執筆：「陶芸の提案」『陶芸の提案2024』ギャラリー白、2024年4月15日発行、[ノンブルなし]
- ・執筆「池垣タダヒコ 往還する造形」『リボンと角柱』京都精華大学、2024年3月9日、[ノンブルなし]
- ・執筆：「[宮永東山] 前衛の保守本流—日本陶磁協会金賞受賞記念展を祝して」『陶説』10月号通巻854号、2024年10月1日発行、pp.39-41
- ・執筆：「南野薫展」DM、ギャラリー白、2024年10月28日
- ・執筆：「和歌山県立近代美術館と版画」『版画学会』no.53、2025年3月31日、pp.4-7
- ・講義：同志社大学「博物館展示論」（2024年5月9日、5月16日、5月23日、5月30日、6月6日／同志社大学）
- ・講義：和歌山県立高等看護学院「人間探索（人間と美術）」（2024年7月18日／和歌山県立高等看護学院）
- ・講義（非常勤講師）：和歌山大学「博物館展示論」（2024年9月12日／和歌山大学）
- ・講義（非常勤講師）：和歌山大学「博物館資料論」（2024年10月24日／和歌山大学）
- ・講評：京都精華大学大学院芸術研究科修了発表展講評会（2025年2月15日／京都精華大学）
- ・対談：「陶芸の提案2024」ギャラリートーク（2024年4月15日／ギャラリー白）
- ・対談：「ポストアート論からシン・ポストアート論 対話シリーズ 第2回 秋庭史典、奥村泰彦、室井絵里」（2025年1月9日、Frame in VOX）

* * *

- ・和歌山県文化表彰選考委員
- ・公益財団法人堀江オルゴール博物館理事
- ・第78回姫路市美術展審査・講評会（審査：2025年2月14日、講評会：2025年3月9日）

* * *

所属学会：美学会、美術史学会、アートドキュメンテーション学会、美学・芸術学会（同志社大学）、版画学会（運営委員）

青木加苗

- ・企画展「なつやすみの美術館14 河野愛「こともの、と」展を企画

* * *

- ・執筆：「全米日系人博物館との姉妹ミュージアム提携がもたらすもの」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.120、2024年10月30日発行、pp.4-5
- ・執筆：「「こともの」をひらく」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.121、2025年1月21日発行、pp.3-5
- ・執筆：「移民と「ゆかり」の地域性を考える デンバー美術館 上山鳥城 男展／コロラド州日系人史調査から」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.122、2025年3月28日発行、p.7
- ・執筆：「日本のミュージアムは「コミュニティ」の概念をアップデートできるか—移民県・和歌山の役割から考える国際交流のかたち」『博物館研究』第59巻第10号 特集「博物館の国際交流・国際連携」日本博物館協会、2024年10月25日発行、pp.15-19
- ・執筆：「かかわりのプラットフォームとしての展覧会 14年目の「なつやすみの美術館」から」『教育美術』No.991（令和7年1月号）、教育美術振興会、2024年12月27日発行、pp.34-35
- ・執筆：「『絵画になるまで』を分析する」『ニューあそび場の創造vol.12 野原万里絵展「絵画になるまで」記録集』、2025年3月31日発行、pp.18-19
- ・コメンテーター：次世代型文化施設フォーラム 第12回越境シンポジウム「文化施設で「文化的コモンズ」はどう成立するか—政策・統治・経営をめぐって—」（2024年5月16日 *オンライン／主催：次世代型文化施設フォーラム）
- ・講義：成安造形大学「美術館とコミュニティがつながりつづけるしくみを考える」『コミュニティデザイン概論』、（2024年6月5日 *事前収録）
- ・講義：岡山大学「美術館とコミュニティがつながりつづけるしくみを考える」『生涯学習社会論』（2024年6月26日／岡山大学）
- ・講演：「プラットフォームとしての展覧会—「なつやすみの美術館」を人のかかわりに位置付ける」、「美術館に行く理由—スタンプラリーとこども美術館部」全国美術館会議教育普及研究部会第61回会合（2024年9月3日、9月4日／和歌山県立近代美術館）
- ・コーディネーター：ラウンドテーブル「社会教育施設概念の再検討（その1）」日本社会教育学会第71回研究大会（2024年9月8日／早稲田大学）
- ・講演：「あなたはなぜ美術館に行くのですか」芦屋市立美術博物館2024年度教育普及プログラム「まなびはくルーム」講座「まなびはく：あれもこれもそれともどれも、教育普及」（2024年10月20日／芦屋市立美術博物館）
- ・講演：芸術資料館シンポジウム基調講演「大学博物館としての機能と役割について」（2024年11月25日／京都市立芸術大学）
- ・講演：りいぶる'24「ヒューマンライブラリー」話し手（2024年12月1日／和歌山県ジェンダー平等推進センター「りいぶる」）
- ・対談：新開地アートひろば ニューあそび場の創造 野原万里絵展「絵画になるまで」アーティスト・トーク「石と人と絵」（2024年12月22日／新開地アートひろば）
- ・登壇：動物園の未来ラボ「あわいの島」関連事業「媒介者ウォークツアー with ゲスト」および「あわいの島の媒介者トーク with ゲスト」（企画：前田耕平）（2024年12月23日／アドベンチャーワールド）
- ・講演：「カリフォルニアから和歌山へ：美術を通じて移民史を見ること」移民と美術をめぐるシンポジウム Vol.3 トランスボーダー：和歌山からカリフォルニアへ（2025年1月19日／和歌山県立近代美術館・全米日系人博物館（1/18）*オンライン）
- ・講義（非常勤講師）：和歌山大学美術鑑賞演習（2024年6月16日、6月26日、7月20日、7月21日、8月19日／和歌山大学）
- ・講義（非常勤講師）：和歌山大学美術史概論（2024年10月13日、10月19日／和歌山大学）

* * *

- ・京都市立芸術大学芸術資料館運営委員会 芸術資料館あり方検討部会オブザーバー
- ・日本博物館協会「博物館総合調査」委員会委員（2024年9月—）
- ・第4回PATinKyoto 京都版画トリエンナーレ2025推薦者
- ・文化庁文化審議会専門委員（アート振興ワーキンググループ）（2024年4月

-2025年3月)

- ・ ICOM-ICFA 委員長 2022-2025、ICOM 2024 International Symposium 出席：2024年11月12日、13日 (ICOM2025ドバイ大会プレ会議)
- ・ ICOM日本委員会理事、2023-2025年度：2024年5月19日、8月5日 理事会出席

* * *

所属学会：ICOM、意匠学会、美学会、美術史学会、美術科教育学会

藤本真名美

- ・ 特別展「仙境 南画の聖地、ここにあり」を企画

* * *

- ・ 執筆：「近代の南画、何処にあり？ 近代日本美術史の間隙をさぐる」のほか解説、コラム、「作家・作品解説」、編集：「主要文献抄録」、「主要文献目録」『仙境 南画の聖地、ここにあり』図録、2024年10月5日発行、pp.140-143
- ・ 執筆：「仙境補遺一肩の荷を下ろし、身が軽くなる場所へ」『和歌山県立近代美術館ニュース』No.122、2025年3月28日発行、pp.2-3
- ・ 執筆：「大塚春嶺の師・谷口香嶠による教育」『大塚春嶺展』図録、南丹市立文化博物館、2024年4月発行、pp.76-77
- ・ 執筆：「谷口香嶠筆 残月山媼図」『國華』第1544号、2024年6月20日発行、pp.33-34
- ・ 執筆：「国画創作協会展の鑑査にみる大正期の美術界——前期国展（第一回～第三回）を中心に」高階絵里加・竹内幸絵編『芸術と社会』、森話社、2025年1月20日発行、pp.141-161
- ・ 発表：「展覧会制度と文人精神のはざままで——大正期の関西南画壇をめぐって——」公益財団法人 天門美術館「近代南画の世界」展記念講演会（2024年10月14日／天門美術館）
- ・ 発表：「関西を中心とする近代南画について（和歌山県立近代美術館「仙境」展報告）」第88回近代京都美術研究会（2025年2月27日／京都新聞社*オンライン）

* * *

所属学会：大正イマジユリ学会、明治美術学会、美術史学会

1 日本博物館協会

- ・博物館総合調査委員 青木加苗(2023年9月ー)
第2回会議(2024年5月10日/オンライン)

2 全国美術館会議

- ・第4回(第73回)一般社団法人全国美術館会議社員総会に井上芳子が出席(2024年6月6日/弘前文化センター)
- ・教育普及研究部会第61回会合の受け入れ。奥村一郎、宮本久宣、青木加苗がレクチャー(2024年9月3日、4日/和歌山県立近代美術館)
- ・美術館運営研究部会第38回会合に青木加苗が出席(2025年1月20日/オンライン)
- ・全国美術館会議地域美術研究部会第18回会合に奥村一郎が出席(2025年1月31日/世田谷美術館)
- ・全国美術館会議教育普及研究部会第62回会合に奥村一郎、奥村泰彦が出席(2025年3月6日/オンライン)
- ・第39回学芸員研修会「改正博物館法施行2年目の現場から 所蔵作品情報の公開とプラットフォーム活用・連携の可能性」に青木加苗が出席(2025年3月7日/損保ジャパン本社ビル)

3 美術館連絡協議会

- ・令和6年度総会 井上芳子が出席(2024年11月21日/よみうりホール)

4 都道府県立美術館副館長等事務責任者会議

- ・令和6年度会議 東松生が出席(2024年10月17日、18日/三重県立美術館)

5 和歌山県博物館施設等災害対策連絡会議

- ・山野英嗣、奥村一郎、堀川純也が出席(2025年2月27日/和歌山県立紀伊風土記の丘)

6 全米日系人博物館との姉妹ミュージアム提携

調査研究、展覧会、教育普及事業における現在の協力関係を認め合い、パートナーシップと関係性をさらに深めるため、当館とロサンゼルス全米日系人博物館が姉妹ミュージアム提携を締結した。全米日系人博物館において、2024年5月22日(現地時間)に締結式を実施。当館山野英嗣館長、全米日系人博物館アン・パロウズ館長兼CEOが、和歌山県岸本周平知事および全米日系人博物館理事長ウィリアム・T・フジオカ氏立ち会いのもと、協定書に署名した。

関連記事:

- ・「県立近代美術館が姉妹提携」『読売新聞』2024年5月16日、24面
- ・「移民史掘り起こし期待」『産経新聞』2024年5月16日、19面
- ・「全米日系人博物館と近代美術館姉妹提携」『朝日新聞』2024年5月17日、21面
- ・「県立近代美術館と全米日系博物館が姉妹ミュージアムに」『日高新報』2024年6月7日、<https://hidakashimpo.co.jp/?p=93154>
- ・「移民が結ぶ姉妹提携へ」『わかやま新報』2024年5月21日、1面
- ・Los Angeles' Japanese American National Museum and Wakayama's Museum of Modern Art become Sister Museums, *Weekly Cultural News*, May 27–June 02, 2024
- ・「近代美術館と姉妹提携」『わかやま新報』2024年5月30日、7面
- ・加藤敦久「美術から移民史広める」『毎日新聞』2024年6月5日、19面
- ・「岸本知事ら一行、精力的に活動」『羅府新報』2024年6月13日、7面
- ・「初の姉妹ミュージアム提携」『羅府新報』2024年6月29日、7面

その他

1 和歌山移民研究を軸とした国際交流事業

令和6年度 Innovate MUSEUM 事業(文化庁補助事業)として「移民史継承のモデル構築を目指した広域 MLA 連携事業」を中核館として実施。文化庁から補助金11,677,569円を得て活動を行った。

前年度の和歌山移民研究を軸とした国際交流事業実行委員会を一部組織改編し、太地町教育委員会、和歌山大学紀州経済史文化史研究所、沖縄県立図書館、JICA 横浜海外移住資料館、全米日系人博物館を構成団体とした。

本事業では、本県が海外への移民が全国第6位の「移民県」であるという事実を背景に、館種の枠を越えた移民研究への取り組みを当館が先導して続けている。令和6年度は、移民資料の多くが人の記憶のなかで継承されてきた無形の文化遺産としての性格を有することから、1)ミュージアムによる有形・無形遺産の継承、2)日本版ジノロジーの確立、3)移民史情報の集約と周知を柱として広域連携による事業を展開した。

実施事業①：学校連携に基づく和歌山移民教育の実践と教材製作

県内社会科教諭2名(中学・高校)を当館学芸員が引率してカリフォルニア地域の現地調査研修に派遣(8月)。全米日系人博物館と協力して、多様な資料や地域の文化的背景を学ぶ機会を設けた。歴史科教員の研究会を当館で定期的に開催し、県内外の歴史教育者にもその経験を共有する報告会を実施した。美術資料の歴史教育への活用にとどまらず、より現代的観点に寄せた公民での多文化共生という視点で、当館学芸員が和歌山大学教育学部附属中学校の社会科教員(研修参加教員担当)において外部講師として協力(令和7年2月)。また前年度の研修に参加した教員の担当授業において、全米日系人博物館と協力してオンライン授業を提供(令和7年2月)。さらに移民としてアメリカに渡り画家として活動した石垣栄太郎についての学習冊子を太地町歴史資料室と連携して作成した。

実施事業②：日系ミュージアム等とのネットワーキング

近年、市民活動により立ち上がって公開が始まったコロラド州の日系人収容の歴史に関する展示施設を、全米日系人博物館と当館の学芸員が訪問し、関連研究者らとのネットワーキングおよび合同調査を行った。(令和7年1月)

実施事業③：国内所在移民美術資料の調査と連携作業

南房総地域の地域史研究を行っているNPO 安房文化遺産フォーラムを訪問、同地を調査した。房総半島と和歌山県は、古来より海路による文化的つながりがあり、近代史および地域史の視点に広げて美術と歴史の双方向から調査実施。なお調査の結果として、同団体は令和7年度の実行委員会に参画。

実施事業④：国際シンポジウムの実施

「移民と美術をめぐるシンポジウム Vol. 3 トランスボーダー:和歌山からアメリカへ」令和7年1月18日(ロサンゼルス時間)／1月19日(日本時間)、オンライン開催(全米日系人博物館で実施予定であったが、山火事の影響により変更)、日英同時通訳つき

米国側発表者:

クリステン・ハヤシ(全米日系人博物館キュレーター兼コレクション・マネジメント&アクセス担当ディレクター)、エミリー・アンダーソン(全米日系人博物館キュレーター)、アンドリュー・ウェイ・レオン(カリフォルニア大学バークレー校英文学科准教授)

日本側発表者:

奥村一郎、青木加苗、東悦子(和歌山大学観光学部教授、国際観光学研究センター長、紀州経済史文化史研究所所員)、樋口日菜(和歌山市民図書館副館長、移民資料室担当・司書)、山下奈津子(和歌山市立博物館学芸員)、櫻井敬人(太地町歴史資料室学芸員)

*実施事業については、当館担当分のみを記載

その他、令和4年度に開設したウェブサイト「移民と美術」において、県内館の資料のデータベース追加や当館コレクションと接続した情報提供を継続的にしている。

担当:青木加苗、奥村一郎

2 エレベーターリニューアル記念 中銀カプセル A908 公開

日時:4月29日(月・祝)、5月5日(日・祝) 9時30分-17時

会場:アプローチプラザ

主催:和歌山県立近代美術館

協力:和歌山県立近代美術館友の会

内容:2023年12月から休館し、館内のエレベーター4機をすべて新しくする工事を実施。美術館のシンボリックな存在のひとつだったエントランスロビーのエレベーターもリニューアルしたのを機に、2023年8月に展示が始まった中銀カプセル A908 の内部公開を実施した。

1組1人~4人程度10分ずつとし、1日20組を予約受付。友の会会員は先行予約を受け付けた。当日も空き時間には希望者が見学し、2日間で200人が参加した。

3 秋の中銀カプセル A908 イベント

講演会「黒川紀章のカプセル建築」／中銀カプセル A908 内部公開

講演会:11月16日(土) 黒川未来夫(株式会社 MIRAI KUROWAKA DESIGN STUDIO)、前田達之(中銀カプセルタワービル保存・再生プロジェクト代表)参加60人

カプセル内部

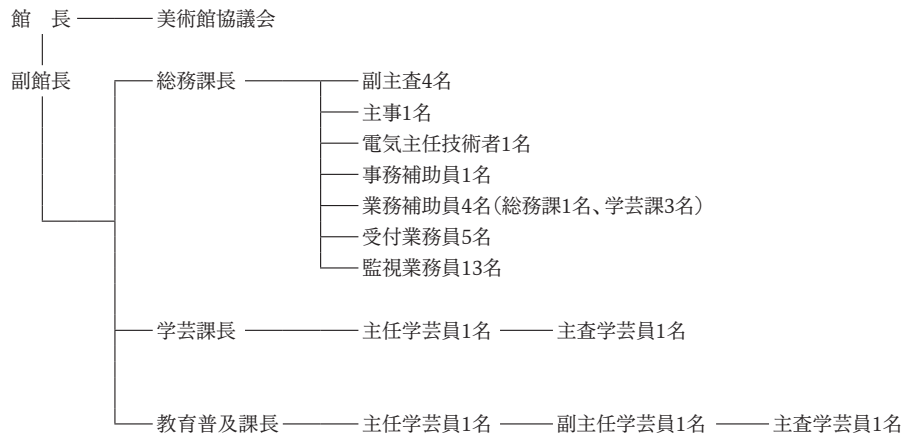
公開:11月17日(日)参加100人



公開風景(4月29日)

管理運営

組織



機構及び職員配置

館長： 山野 英嗣

副館長： 東 松生

総務課 総務課長：丸木 馨

副主査：大西 佑亮(和歌山県立博物館副主査兼務)

副主査：西山 真帆(和歌山県立博物館副主査兼務)

副主査：土谷 雅宏(和歌山県立博物館副主査兼務)

副主査：堀川 純也(和歌山県立博物館副主査兼務)

主 事：木地 裕美子(和歌山県立博物館主事兼務)

電気主任技術者：寺井 武志(会計年度任用職員)

業務補助員1名

学芸課 学芸課長：井上 芳子

主任学芸員：植野 比佐見

主査学芸員：青木 加苗

教育普及課 教育普及課長：奥村 一郎

主任学芸員：宮本 久宣

副主任学芸員：奥村 泰彦

主査学芸員：藤本 真名美

事務補助員1名、業務補助員3名

受付業務員5名、監視業務員13名

和歌山県立近代美術館協議会委員

任期2年：2026（令和8）年11月2日まで

	氏名 (◎会長)	役職
◎	榎本 長治	会社社長
	五十殿 利治*	筑波大学 名誉教授／前 独立行政法人国立美術館 理事
	川瀬 和男	会社社長
	杵村 直子	一般社団法人MAP 代表理事
	鈴木 源二	画家、和歌山県美術家協会 会長
	建昌 哲**	埼玉県立近代美術館 館長／前 多摩美術大学 学長
	谷 奈々	一般財団法人 和歌山社会経済研究所 研究委員／公益財団法人 和歌山県国際交流協会 理事
	真砂 美香	紀の川市子ども・子育て会議委員／わかやまメディアリテラシー研究会 代表
	松尾 友絵	和歌山市立和歌浦小学校 校長／和歌山県美育連盟 会長
	三木 哲夫*	兵庫陶芸美術館 名誉館長
	雪山 行二*	前 富山県美術館 館長
	渡部 幹雄	和歌山大学 名誉教授

氏名五十音順、現在 委員12名

*は、和歌山県立近代美術館評価部会委員。**は部会長。現在委員4名

第76回和歌山県立近代美術館協議会

2024(令和6)年11月20日14:00より開催。2025(令和7)年度事業案などについてなど協議が行われた。

第13回和歌山県立近代美術館評価部会

2024(令和6)年7月28日14:00より開催。2023(令和5)年度美術館運営評価、および2024(令和6)年度美術館運営目標などについて協議した。

安全と快適性

1 施設・設備

1 施設・設備の維持管理

・施設・設備の定期的な保守管理、日常のメンテナンスを行うとともに、経年劣化による修繕箇所を把握し、空調設備や消防設備等の施設修繕を実施することにより安全確保を行った。

2 施設・設備の改修・更新・整備・増設

・展示室の空調機修繕を実施した。(施工完了 3月26日)
・天井の雨漏りに対して部分修繕を行った。継続して修繕等を行う必要がある。
・ポンプ、配管の修繕を実施した。
・重量パイプシャッター(エスカレーター横)の修繕を実施した。(施工完了 2月28日)
・開館30年以上が経過し、施設・設備の老朽化による故障等が発生しているが、緊急性を勘案しながら、必要な修繕を実施していく。

関連記事：『読売新聞』4月27日25面和歌山版「黒川建築の意匠残し再開」
『朝日新聞』5月28日21面和歌山版「初代を再現 新エレベーター」

3 美観の保持・衛生管理

・日常的なメンテナンスにより設備の維持、施設の美観等衛生管理を行った。

4 長期修繕計画

・令和8年度～令和9年度にかけての空調改修計画に取り組んだ。

2 快適性の向上

1 バリアフリー対策・ユニバーサルデザイン等の対応

・自動ドアやエレベーターの保守点検、点字ブロックの修繕を実施した。

2 利用者に対する接遇

・丁寧な対応を心がけるよう、意識の向上を図った。

3 快適性向上のための上記以外の取り組み

・故障中のトイレやウォータークーラーの修繕については、対応中である。

3 危機管理

1 危機管理・防災体制

・地震及び火災時の避難訓練を実施した。

2 個人情報の保護・データ管理

・展覧会関係者、講演会・研修等の参加者の情報管理を適切に行った。

4 職員研修

・職員に対し、利用者への適切な対応をするよう指導した。

・研修への参加には、できる限り対応したが、各職員2回以上は達成できなかった。

5 情報公開・利用者のニーズなどの把握

・和歌山県立近代美術館の使命をホームページ、年報で公開した。

・令和5年度の実績評価についてホームページで公開した。

・アンケートにより入館者情報、満足度の把握を行い、対応すべき事柄には迅速に対応した。

2024（令和6）年度 展覧会入館者数

特別展・企画展								常設展				その他	
展覧会名	土が開いた現代	河野愛 なつやすみの美術館	仙境	月映	月映・仙境共通券	特別展・企画展合計		コレクション展 2024春	コレクション展 2024夏	コレクション展 名品選	常設展合計	第78回県展	第10回ジュニア県展
会期	4月27日 ～ 6月30日	7月13日 ～ 9月23日	10月5日 ～ 11月24日	10月5日 ～ 11月24日	10月5日 ～ 11月24日			4月27日 ～ 6月23日	7月2日 ～ 9月23日	10月5日 ～ 12月22日		12月11日 ～ 12月15日	12月18日 ～ 12月22日
日数	56	63	44	44	—	207		50	73	68	191	5	5
有料													
個人	一般	1,249	2,411	106	74	1,774	5,614	1,206	2,403	0	3,609		
	団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	紀陽	0	161	0	0	332	493	0	152	0	152		
	友の会	67	49	0	0	100	216	56	40	0	96		
	割引	334	397	33	3	430	1,197	325	462	0	787		
大学生	個人	83	194	6	7	188	478	78	199	0	277		
	団体	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0		
	紀陽	49	7	0	0	20	76	48	5	0	53		
	友の会	0	0	0	0	8	8	0	0	0	0		
割引	12	77	5	1	64	159	15	78	0	93			
小計	1,794	3,296	150	85	2,916	8,241	1,728	3,339	0	5,067			
無料													
高齢者	1,015	994	1,095	699	0	3,803	809	976	0	1,785			
障害者	184	204	170	121	0	679	153	190	0	343			
その他	1,420	1,839	2,343	1,647	0	7,249	1,095	1,749	6,686	9,530			
県内留学生	2	5	1	1	0	9	2	5	0	7			
高校生	35	449	92	90	0	666	33	360	0	393			
中学生	75	1,831	244	219	0	2,369	65	528	0	593			
小学生	131	491	137	114	0	873	116	441	0	557			
幼児	51	219	37	28	0	335	42	159	0	201			
団体	324	461	423	423	0	1,631	290	475	0	765			
小計	3,237	6,493	4,542	3,342	0	17,614	2,605	4,883	6,686	14,174		3,296	2,406
合計	5,031	9,789	4,692	3,427	2,916	25,855	4,333	8,222	6,686	19,241		3,296	2,406
入館料	844,810	1,584,800	154,320	65,020	1,266,600	3,915,550	61,480	149,000	0	210,480		0	0

紀陽:紀陽文化財団の助成による入館者
 割引:メールマガジン持参、博物館入館者、5館連携入館者
 その他:招待券、招待状、優待券による入館者

総計																								
開館 日数	有 料											無 料									入館 者数 合計	入館料		
	個人					大学生						小計	高齢者	障害者	その他	県内 留学生	高校生	中学生	小学生	幼児			団体	小計
	一般	団体	紀陽	友の会	割引	一般	団体	紀陽	友の会	割引														
398	9,223	0	645	312	1,984	755	0	129	8	252	13,308	5,588	1,022	16,779	16	1,059	2,962	1,430	536	2,396	31,788	45,096	4,126,030	

紀陽:紀陽文化財団の助成による入館者
 その他:招待券、招待状、優待券による入館者
 割引:メールマガジン持参、博物館入館者、5館連携入館者
 *コレクション展名品選の入館料は無料
 *第78回県展及び第10回ジュニア県展は入館者に計上していない。

関係法規・規則・規定等

○和歌山県立近代美術館設置及び管理条例

昭和45年10月6日
和歌山県条例第64号
改正 平成6年3月30日条例第18号

和歌山県立近代美術館設置および管理条例をここに公布する。

和歌山県立近代美術館設置及び管理条例(平6条例18・改称)

(設置)

第1条 近代美術に関する資料を収集し、保管し、又は展示して一般公衆の観覧に供するとともに、美術に関する資料の調査、研究等を行い、もって美術文化の向上に資するため、和歌山県立近代美術館(以下「近代美術館」という。)を設置する。

(平6条例18・一部改正)

(位置)

第2条 近代美術館は、和歌山市吹上一丁目4番14号に置く。

(平6条例18・一部改正)

(事業)

第3条 近代美術館は、第1条の目的を達成するため、次に掲げる事業を行う。

- (1) 近代美術に関する作品その他の近代美術に関する資料を収集し、保管し、又は展示して一般公衆の利用に供すること。
- (2) 美術に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- (3) 美術に関する展覧会、研究会、講習会等の開催及び資料の刊行

(平6条例18・一部改正)

(使用料)

第4条 近代美術館を使用する者は、和歌山県使用料及び手数料条例(昭和22年和歌山県条例第28号)の定めるところにより、使用料を納めなければならない。

(委任)

第5条 近代美術館の管理に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附 則

この条例は、昭和45年11月2日から施行する。

附 則 (平成6年3月30日条例第18号)

この条例は、平成6年4月1日から施行する。

○和歌山県立近代美術館管理規則

昭和45年10月22日
和歌山県教育委員会規則第20号
改正 昭和53年4月1日教育委員会規則第12号
昭和56年5月28日教育委員会規則第7号
昭和63年3月31日教育委員会規則第13号
平成 元 年3月31日教育委員会規則第7号
平成 6 年3月31日教育委員会規則第8号
平成13年3月30日教育委員会規則第11号
平成17年2月25日教育委員会規則第2号
平成19年3月30日教育委員会規則第15号

和歌山県立近代美術館管理規則を次のように定める。

和歌山県立近代美術館管理規則

(目的)

第1条 この規則は、和歌山県立近代美術館設置及び管理条例(昭和45年和歌山県条例第64号。以下「条例」という。)第5条の規定に基づき、和歌山県立近代美術館(以下「近代美術館」という。)の管理に関し法令、条例及び他の規則に定めのあるものを除くほか、必要な事項を定めることを目的とする。

(開館時間)

第2条 近代美術館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。
2 館長は、特別の事情がある場合においては、前項の開館時間を変更することができる。この場合においては、館長は、その旨を教育長に報告するものとする。

(休館日)

第3条 近代美術館の休館日は、次のとおりとする。
(1) 毎週月曜日(その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(以下「休日」という。)に当たるときは、その日後においてその日に最も近い土曜日、日曜日又は休日でない日)
(2) 年始(1月1日から同月3日まで)
(3) 年末(12月29日から同月31日まで)
(4) 前3号に定めるもののほか、特別の事情により館長が臨時に休館を必要と認め、教育長の承認を得た日
2 館長は、必要があると認めるとき、その他特別の事情があるときは、前項第1号から第3号までに掲げる休館日を変更することができる。この場合においては、館長は、その旨を教育長に報告するものとする。
3 非常変災その他急迫の事情があるときは、館長は、臨時に休館することができる。この場合においては、館長は、次に掲げる事項を直ちに教育長に報告するものとする。
(1) 休館の期間
(2) 非常変災その他急迫の事情の概要
(3) その他必要と認める事項

(職員)

第4条 近代美術館に、館長のほか必要な職員を置く。

(課の設置及び所掌事務)

第5条 近代美術館に、次の課を置く。
総務課
教育普及課
学芸課

- 2 総務課においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 館長印、館印その他公印の管守に関する事。
 - (2) 職員の身分、服務その他人事に関する事。
 - (3) 文書の收受、発送、編さん及び保存に関する事。
 - (4) 予算、決算及び会計に関する事。
 - (5) 近代美術館の施設、設備及び物品の管理に関する事。
 - (6) その他学芸課の主管に属しない事。
- 3 教育普及課においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 美術に関する知識の向上及び普及並びに美術の振興に関する事。
 - (2) 学校等の教育、学術又は文化に関する諸施設に対する助言及び支援並びに当該施設との協力に関する事。
 - (3) 国内外の美術館等関係諸団体との連絡及び協力に関する事。
 - (4) 近代美術に関する展覧会、講演会及び研究会等の立案、調整及び実施に関する事。
 - (5) 美術館活動(美術品等の展示及び収集並びに美術の普及活動等をはじめとして広く美術館において行う諸活動をいう。)に係る調査研究に関する事。
- 4 学芸課においては、次の事務をつかさどる。
- (1) 美術品及び美術に関する資料の収集、管理及び保存に関する事。
 - (2) 近代美術に関する展覧会の立案、調整及び実施に関する事。
 - (3) 近代美術に関する調査研究及び資料の刊行に関する事。
 - (4) 近代美術館協議会に関する事。

(入館の拒絶、制限及び退館命令)

第6条 館長は、次の各号のいずれかに該当する者に対しては、入館を拒絶し、又は退館を命ずることができる。

- (1) 伝染性疾患のある者
- (2) 陳列品を汚損し、又は近代美術館の施設及び設備をき損するおそれのある物品を所持している者
- (3) 館内の秩序を乱すと認められる者
- (4) その他館長において近代美術館の管理上入館を不適当と認めた者

2 館長は、近代美術館の管理上必要があると認めるときは、入館に制限を加えることができる。

(損害賠償の義務)

第7条 入館者は、その責めに帰すべき事由により陳列品を汚損し、近代美術館の施設及び設備をき損し、又は滅失したときは、その損害の賠償をしなければならない。

(委任)

第8条 この規則に定めるもののほか、近代美術館の管理に関し必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則

この規則は、昭和45年11月2日から施行する。

附 則(昭和53年4月1日教育委員会規則第12号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(昭和56年5月28日教育委員会規則第7号)

この規則は、公布の日から施行する。

附 則(昭和63年3月31日教育委員会規則第13号)

この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則(平成元年3月31日教育委員会規則第7号)

この規則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則(平成6年3月31日教育委員会規則第8号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附 則(平成13年3月30日教育委員会規則第11号)

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則(平成17年2月25日教育委員会規則第2号)

この規則は平成17年4月1日から施行する。

附 則(平成19年3月30日教育委員会規則第15号)

この規則は平成19年4月1日から施行する。

○和歌山県博物館協議会条例

昭和57年3月29日
和歌山県条例第11号
改正 平成24年和歌山県条例28号

和歌山県博物館協議会条例をここに公布する。

和歌山県博物館協議会条例

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条の規定に基づき、次の表の左欄に掲げる博物館にそれぞれ当該右欄に掲げる博物館協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

博物館の名称	協議会の名称
和歌山県立近代美術館	和歌山県立近代美術館協議会
和歌山県立博物館	和歌山県立博物館協議会
和歌山県立紀伊風土記の丘	和歌山県立紀伊風土記の丘協議会
和歌山県立自然博物館	和歌山県立自然博物館協議会

(委員の任命の基準)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から、教育委員会が任命する。

(委員の定数)

第3条 委員の定数は、15人以内とする。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長等)

第5条 協議会に、会長及び副会長1人を置く。

- 2 会長及び副会長は、委員の互選により定める。
- 3 会長は、会務を総理し、協議会を代表する。
- 4 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会の会議は、会長が招集し、その議長となる。

- 2 協議会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。
- 3 協議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(小委員会及び部会)

第7条 協議会は、小委員会又は部会を置くことができる。

- 2 小委員会に委員長を、部会に部会長を置く。
- 3 委員長及び部会長は、委員のうちから会長が指名する。
- 4 小委員会又は部会に属する委員は、会長が指名する。

(庶務)

第8条 協議会の庶務は、当該博物館において処理する。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、昭和57年4月1日から施行する。

附 則(平成24年3月23日条例第28号)

この条例は、平成24年4月1日から施行する。

○和歌山県立近代美術館美術作品選定委員会設置要綱

(平成元年8月1日教育長決定)

改正 平成14年3月1日

和歌山県立近代美術館美術作品選定委員会設置要綱を次のように定める。

和歌山県立近代美術館美術作品選定委員会設置要綱

(目的)

第1条 和歌山県博物館協議会条例(昭和57年和歌山県条例第11号)第7条の規定に基づき、和歌山県立近代美術館(以下「美術館」という。)において収集する美術作品の選定に関する事務を適正かつ円滑に行うことを目的として、和歌山県立近代美術館美術作品選定委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(業務)

第2条 委員会は、美術館において収集する美術作品の選定に関する事項を審議する。

(構成)

第3条 委員会は、委員5名以内をもって構成する。
2 委員は、和歌山県立近代美術館協議会会長(以下「協議会会長」という。)が和歌山県立近代美術館協議会委員のうちから指名する。
3 委員の任期は、2年とし、再任することができる。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に、委員長を置く。
2 委員長は、委員のうちから協議会会長が指名する。
3 委員長は、会務を総理する。ただし、委員長に事故があるときは、あらかじめ協議会会長が指定する委員が会務を総理する。

(会議)

第5条 委員会の会議は、和歌山県立近代美術館長(以下「館長」という。)が招集する。
2 委員会の会議には、館長が、必要に応じて、委員でない者の出席を求めることができる。

(庶務)

第6条 委員会の庶務は、美術館において処理する。

(その他)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し、必要な事項は、館長が定める。

附 則

この要綱は、平成元年8月1日から施行する。

改正文(平成14年教育長決定)抄

この要綱は、平成14年3月1日から施行する。

○和歌山県立近代美術館評価部会設置要綱

平成26年4月1日施行

(目的)

第1条 和歌山県博物館協議会条例(昭和57年和歌山県条例第11号)第7条の規定に基づき、和歌山県立近代美術館(以下「美術館」という。)の運営の状況等を評価することを目的として、和歌山県立近代美術館評価部会(以下「部会」という。)を設置する。

(業務)

第2条 部会の業務は、次に掲げるとおりとする。
(1) 美術館の運営について評価する項目を定め、各項目について評価を行う。
(2) 館長が行った新規採用学芸員に係る条件付き採用期間中の評価及び既存の学芸員に係る3年に1度の評価に関し、意見を述べる。

(委員)

第3条 委員の定数は、5人以内とする。
2 委員は、和歌山県立近代美術館協議会会長(以下「協議会会長」という。)が和歌山県立近代美術館協議会委員のうちから指名する。

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とし、再任することができる。ただし、委員が欠けた場合における補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(部会長)

第5条 部会に、部会長を置く。
2 部会長は、委員のうちから協議会会長が指名する。
3 部会長は、会務を総理する。ただし、部会長に事故があるときは、あらかじめ協議会会長が指定する委員が会務を総理する。

(会議)

第6条 部会の会議は、美術館長(以下「館長」という。)が招集する。
2 部会の会議には、館長が、必要に応じて、委員ではない者の出席を求めることができる。

(庶務)

第7条 委員会の庶務は、美術館において処理する。

(その他)

第8条 この要綱に定めるもののほか、部会の運営に関し必要な事項は、館長が定める。

○和歌山県立近代美術館美術品貸付規則

昭和46年10月12日

和歌山県教育委員会規則第26号

改正 昭和56年8月29日教委規則第15号

平成元年3月31日教委規則第8号

平成31年4月5日教委規則第17号

和歌山県立近代美術館美術品貸付規則を次のように定める。

和歌山県立近代美術館美術品貸付規則

(目的)

第1条 この規則は、和歌山県立近代美術館が所蔵する美術品(以下「美術品」という。)の貸付けに関し必要な事項を定めることを目的とする。

(貸付)

第2条 和歌山県立近代美術館長(以下「館長」という。)は、その目的が公の性質をもち、かつ、美術文化の普及上適当と認められた場合に、次項に規定する者に対して美術品を貸し付けることができるものとする。

- 2 美術品の貸付けを受けることのできる者は、国並びに地方公共団体及び公益法人その他これらに準ずる団体とする。

(申請手続)

第3条 美術品の貸付けを受けようとする者は、次に掲げる事項を記載した借受申請書を館長に提出しなければならない。

- (1) 申請者の氏名又は名称及び住所
- (2) 借り受けようとする美術品の名称及び数量
- (3) 使用目的
- (4) 陳列等のための施設の名称及びその場所並びに施設の概要
- (5) 借受期間
- (6) 借受期間中における保管及び管理の方法
- (7) その他参考となる事項

(貸付承認)

第4条 館長は、美術品の貸付けを承認したときは、美術品貸付承認通知書(別記様式)を申請者に交付する。

(貸付期間)

第5条 美術品の貸付期間は、通常2月以内(以下「1期間」という。)とする。ただし、館長が必要と認めるときは、貸付期間を更新し、又は延長することができる。

(借受書等)

第6条 美術品の貸付承認を受けた者は、次に掲げる事項を記載した借受書を館長に提出しなければならない。

- (1) 借り受ける美術品の名称及び数量
 - (2) 借受期間
 - (3) 返納期日
 - (4) 返納場所
 - (5) 貸付条件に従う旨
- 2 貸付承認をした美術品の引渡しは、前項の借受書の提出があったとき、これを行う。
 - 3 館長は、美術品が返還されたときは、これと引換えに返還を受けた旨の受領書を交付するものとする。

(遵守事項等)

第7条 貸付承認をした美術品の荷造り及び輸送並びに保管、返納等に要する費用は、借受人の負担とする。

- 2 貸付期間中の美術品の保管及び管理は、借受人の責任とし、亡失、汚損又は損傷のあったときは、賠償の責めを負うものとする。

- 3 美術品の借受人は、当該美術品を借り受けた目的以外に使用してはならない。

(貸付料)

第8条 美術品の貸付料は、1点につき1期間3,300円とし、第5条ただし書の貸付期間の延長の場合にあつては、1月以内の延長期間については1,650円とし、1月を超える延長期間については3,300円とする。

- 2 特別の事情がある場合においては、貸付料を増減し、又は免除することがある。
- 3 既納の貸付料は、これを返還しない。

(貸付けの取消し)

第9条 館長は、美術品の貸付けを受けた者が、この規則及び貸付条件を守らないときは、その承認を取り消し、当該美術品の返還を求めることができる。

(補則)

第10条 この規則に定めるもののほか、美術品の貸付けに関し必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

附 則

- 1 この規則は、公布の日から施行する。
- 2 和歌山県立美術館美術品貸付規程(昭和42年和歌山県教育委員会規則第22号)は、廃止する。

附 則(昭和56年8月29日教育委員会規則第15号)

この規則は、昭和56年9月1日から施行する。

附 則(平成元年3月31日教育委員会規則第8号)

この規則は、平成元年4月1日から施行する。

附 則(平成31年4月5日教育委員会規則第17号)

この規則は、公布の日から施行する。ただし、第2条の規定は、平成31年10月1日から施行する。

別記様式(第4条関係)

番号				
年 月 日				
美術品貸付承認書				
殿				
和歌山県立近代美術館長				
年 月 日				
付付けで承認申請のあった当館所蔵の美術品の貸付けについては、下記によって承認する。				
記				
1	貸付品	種別	作者名	題名
		材質	形状	製作年
2	貸付期間	年 月 日から	年 月 日まで	
3	貸付料	金	円	
上記貸付料は、美術品借り受けのとき、又はその日までに県指定金融機関へ払い込むこと。				
4 美術品の輸送の際の取扱い及び保管管理については、館長の指示に従い、十分注意するとともに、貸付中のいっさいの責任を借受人において負うものとする。				
5 美術品は、当館係員立合いのうえ借受書と引換えに引き渡すものとする。				
6 その他和歌山県立近代美術館美術品貸付規則の各条項を遵守するとともに館長の指示に従うこと。				

備考 この承認書には、和歌山県立近代美術館美術品貸付規則を添付すること。

○和歌山県立近代美術館美術作品寄託規程

昭和46年10月12日

和歌山県教育委員会告示第12号

改正 平成6年3月31日教委告示第1号

附 則

この規程は、告示の日から施行する。

附 則（平成6年3月31日教育委員会告示第1号）

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

和歌山県立近代美術館美術作品寄託規程を次のように定める。

和歌山県立近代美術館美術作品寄託規程

（趣旨）

第1条 この規程は、和歌山県立近代美術館(以下「美術館」という。)における美術作品の寄託に関し必要な事項を定めるものとする。

（受託）

第2条 美術作品の所有者(以下「所有者」という。)が展示保存又は調査研究の目的をもって、美術作品の保管の寄託の申入れがあったときは、この規程の定めるところにより、美術館はこれを無償で受託するものとする。

（寄託）

第3条 所有者が、美術作品を寄託しようとするときは、別記第1号様式による保管依頼書を提出し、館長の承認を受けなければならない。

（受入れ及び返還）

第4条 館長は、美術作品を受領したときは、所有者に、別記第2号様式による受託証書を交付するものとする。

- 2 寄託品の返還を受けようとする者は、原則として返還を受けようとする日の1月前に別記第3号様式による返還請求書を館長に提出しなければならない。
- 3 寄託品は、受託証書と引き換えに、これを所有者に返還するものとする。
- 4 寄託品の返還を受けようとする者が、所有者の代理人であるときは、受託証書に、委任状その他代理人であることを証する書類を添えなければならない。

（寄託期間及び期間の更新）

第5条 寄託期間は、3年とする。ただし、館長が必要と認めるときは、所有者の承諾を得てこの期間を短縮又は更新することがある。寄託期間を経過後寄託者から返還の請求がない場合は寄託期間の更新をしたものとみなす。

- 2 寄託期間の更新をするときは、受託証書の書換えを行うものとする。

（所有者の変更等）

第6条 売買、相続等により寄託品の所有者に変更があったとき、又は所有者の氏名、名称若しくは住所等に変更があったときは、その所有者(所有者変更の場合は、新所有者)は、所有権の移転その他氏名、名称等の変更を証する書類を受託証書に添えて、館長に届け出て、受託証書の書換えを受けなければならない。

（受託証書の再交付）

第7条 受託証書を忘失し、又は著しく破損したときは、所有者は、これらを証明するに足る書類(破損の場合は、その受託証書)を添えて、速やかに館長に受託証書の再交付を申請しなければならない。

（作品輸送経費の負担）

第8条 所有者は、寄託品の搬入又は返還に要する荷造り及び運搬の経費を負担しなければならない。ただし、館長において特にその必要がないと認めた場合は、この限りでない。

（補則）

第9条 この規程に定めるもののほか美術品の寄託に関し必要な事項は、教育長の承認を得て館長が定める。

別記第1号様式（第3条関係）

美術作品保管依頼書			
種 別			
作 品 名			
作 者 名			
製 作 年 月 日			
附 属 品			
作品の所在地			
寄 託 期 間	年	月	日から
	年	月	日まで

上記作品について下記事項承諾のうえ、寄託を申し入れます。

年 月 日

和歌山県立近代美術館長 殿

住所

氏名 ⑩

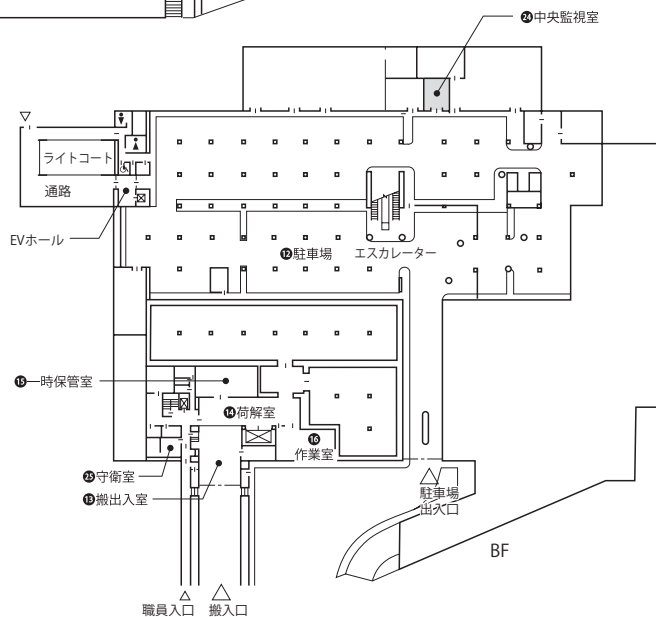
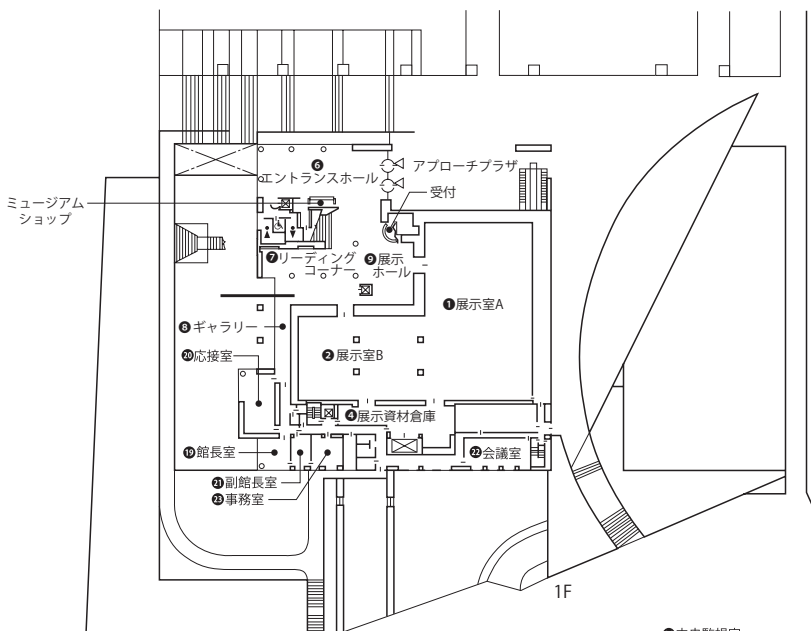
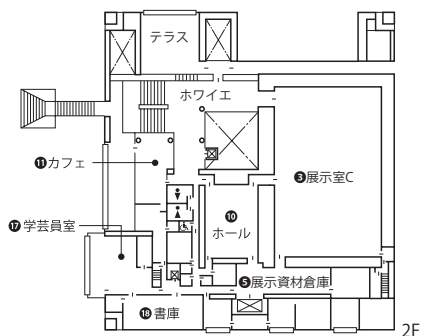
記

- 1 寄託期間経過後、私から返還請求をしない場合は、この期間の更新に同意したものとします。
- 2 寄託した美術作品が天災その他の避けられない事故によって汚損又は亡失した場合における補償の請求はいたしません。
- 3 展示保存又は調査研究に資するため写真撮影することに同意します。

	文書番号
	年 月 日
受託証書	
作品名	
附属品	
寄託期間	
	年 月 日から
	年 月 日まで
上記作品の保管を和歌山県立近代美術館美術作品寄託規程(昭和46年和歌山県教育委員会告示第12号)により受託しました。	
年 月 日	
住所	
氏名	様
	和歌山県立近代美術館長 ㊟

返還請求書	
作品名	
附属品	
寄託期間	
	年 月 日から
	年 月 日まで
上記の作品の返還を和歌山県立近代美術館美術作品寄託規程(昭和46年和歌山県教育委員会告示第12号)により請求します。	
年 月 日	
和歌山県立近代美術館長 殿	
	住所
	氏名 ㊟

建築概要



部門別面積表

部門	室名	面積 (㎡)
展示部門		
①	展示室 A	1,057.0
②	展示室 B	486.1
③	展示室 C	1,038.6
④	展示資材倉庫 (1F)	136.2
⑤	展示資材倉庫 (2F)	121.5
	(小計)	2,839.4
サービス部門		
⑥	エントランスホール	402.2
⑦	リーディングコーナー	217.8
⑧	ギャラリー	46.9
⑨	展示ホール	134.0
⑩	ホール	181.5
	ホール前室、映写室、控室 A、倉庫	74.6
⑪	カフェ	105.1
	厨房	62.0
	テラス	217.9
	化粧室	181.9
⑫	駐車場	2,480.1
	EV ホール、廊下、階段、その他	1,670.7
	(小計)	5,774.7
収蔵部門		
⑬	搬出入室	108.4
⑭	荷解室	130.0
⑮	一時保管室	81.0
	収蔵庫前室	61.4
	収蔵庫 1	342.5
	収蔵庫 2	685.6
⑯	作業室	82.0
	(小計)	1,490.9
調査部門		
⑰	学芸員室、倉庫	123.2
⑱	書庫	113.1
	(小計)	236.3
管理部門		
⑲	館長室	
⑳	応接室	
㉑	副館長室	
㉒	会議室	
㉓	事務室	
㉔	中央監視室	
㉕	守衛室	444.7
	控室 B	
	控室 C	
	控室 D	
	更衣室	
	救護室	
	電気室	212.4
	マシンルーム	364.9
	消火ポンプ室	38.7
	ハロンボンベ室	51.2
	発電機室	58.1
	空調機械室	295.5
	倉庫、その他	31.1
	(小計)	1,496.6
	合計	11,837.9
階数		
	階数	各階面積
	2F	2,916.8
	1F	3,436.8
	BF	5,484.3
	合計 (延床面積)	11,837.9

近代美術館・博物館 建築概要

所在地	和歌山市吹上一丁目4番14号
敷地面積	23,356.78㎡
監理	和歌山県土木部営繕課
設計監理	(株)黒川紀章建築都市設計事務所
施工	竹中・清水・戸田特定建築工事共同企業体 きんでん・伊藤電気特定電気設備工事共同企業体 日立プラント・長谷川冷機特定機械設備工事共同企業体
総工費	137億8086万円 〔総事業費 192億633万1千円(用地費含む)〕
工事期間	1991年10月～1994年3月

建物概要

構造	RC造(鉄筋コンクリート構造) 地上2階地下1階建
建築面積	7,087.17㎡ (美術館部分4,500.62㎡ 博物館部分2,586.55㎡)
延床面積	18,704.50㎡(駐車場3,460.40㎡を含む) (美術館部分11,837.90㎡ 博物館部分6,866.60㎡)
仕上	外装 外壁 磁器質タイル、アルミパネルアルマイト仕上、アルミカーテンウォール 屋上 アスファルト防水の上コンクリート押え 庇 フッ素ステンレス鋼板、アルミパネル アルマイト仕上

設備概要

電気設備

受変電設備	3φ3W6600V 60Hz 変圧器 1φ600KVA(うち美術館300KVA 博物館300KVA) 3φ1550KVA(うち美術館900KVA 博物館650KVA)
自家発電設備	ディーゼル機関 4サイクル 440PS 1800rpm 3φ3W6600V 375KVA
蓄電池設備	キュービクル式直流電源装置 容量 300AH

空調設備

熱源設備	空気熱源熱回収型スクリュウ式ヒートポンプ冷凍機 165RT+110RT 蓄熱槽 1560㎡
排煙設備	自然排煙+機械排煙6系統(うち美術館4系統 博物館2系統)

衛生設備

給水設備	受水槽 上水10㎡、雑用水29㎡ 受水方式 加圧給水ポンプ方式
排水設備	汚水・雨水分流式(公共下水道へ放流)

消火設備	ハロンガス消火(収蔵部門各室・展示部門各室・書庫) /屋内消火栓/スプリンクラー/消火器/泡消火(駐車場)
------	--

自動火災報知設備	(館内守衛室にて集中管理)
煙感知器	光電スポット型 美術館239台 博物館139台
熱感知機	差動スポット型 美術館91台 博物館52台 定温スポット型 美術館17台 博物館13台

防災・防犯設備(館内守衛室にて集中管理)

受信盤	複合GR型 1020回線
ITV監視装置、防災アンプ	(720W)
監視カメラ	美術館29台(うち展示室9台) 博物館15台(うち展示室6台)
防犯センサー	

展示・保存環境

	面積	床材	天上高
展示部門	1F 展示室 A	1,057.0㎡	ナラフローリング
	ケース L13,706 × D1,200 × H3,372 + L31,070 × D1,200 × H3,372 (mm)		
	1F 展示室 B	486.1㎡	同上
	2F 展示室 C	1,038.6㎡	同上
	ケース L25,211 × D1,200 × H3,372 (mm)		
	1F 展示資材倉庫	136.2㎡	ビニアスタイル
	2F 展示資材倉庫	121.5㎡	同上
	収蔵部門	収蔵庫 1 (立体) ブナフローリング	342.5㎡
収蔵庫 2 (平面)		685.6㎡	同上
前室		61.4㎡	同上
一時保管室		81.0㎡	モザイクパーケット
作業室		82.0㎡	ビニアスタイル
荷解室		130.0㎡	同上
搬出入口		108.4㎡	モルタル金ゴテ/エポキシ系塗床
展示照明 (1階)		LED ダウンライト/LED スポットライト (着脱式) / LED 壁面ケース内ライト	
	高演色タイプ、無段階調光調色可能		
(2階)	LED ダウンライト/LED スポットライト (着脱式) / LED 壁面ケース内ライト		
	高演色タイプ、無段階調光調色可能		
空調	展示室 2系統		
	収蔵庫 2系統		
	展示室	設定温度 通年 22℃	
		設定湿度 通年 55%	
	収蔵庫	設定温度 通年 22℃	
	設定湿度 通年 55%		
作品専用昇降機	油圧式・20m/min・最大積載量 3.0 トン		
	H3,000 × W5,100 × D2,300 (mm)		
	* 2024年1月から4月にかけて改修工事を実施		

案内

利用案内

開館時間 9:30～17:00 (入場は16:30まで)
休館日 毎週月曜日 (祝日のときはその翌平日)
年末年始 (12月29日～1月3日)
展示替え期間
駐車場 有料 (90台収容)

交通案内

JR 和歌山駅又は南海電鉄和歌山市駅からバスで約10分、
「県庁前」下車、徒歩2分
(和歌山城の南、県庁前交差点すぐ)



2024 (令和6) 年度
和歌山県立近代美術館年報

編集・発行 和歌山県立近代美術館 ©2026
〒640-8137 和歌山県和歌山市吹上1-4-14
tel. 073-436-8690 fax. 073-436-1337
2026 (令和8) 年3月31日発行
印刷 中和印刷紙器株式会社

